

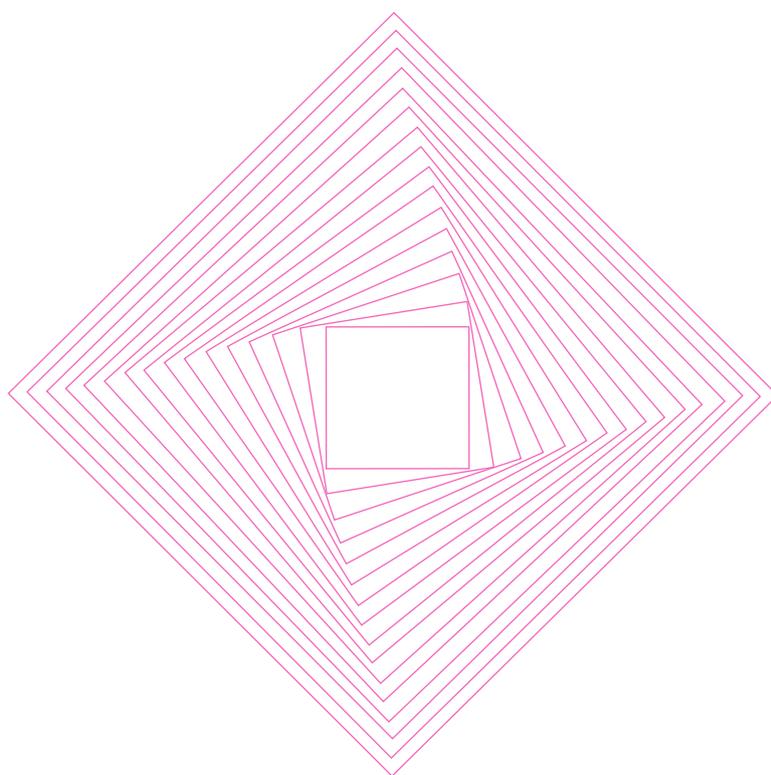


独立行政法人国立病院機構

名古屋医療センター臨床研究センター

# 研究業績年報

令和元年度(2019年度)



厚生労働省血液・造血器疾患高度専門医療施設

独立行政法人国立病院機構

名古屋医療センター臨床研究センター

## 巻頭言

国立病院機構は設立の目的として、1. 医療の提供、2. 医療に関する調査及び研究、3. 技術者の研修・教育が掲げられており、研究は重要な3本柱の1つです。日頃の多忙な病院業務と厳しい病院経営の中においても、研究の視点を常に位置付けて、業務を遂行することが必要です。「リサーチマインド」という言葉がありますが、物事を探索する心、常に新しいものに挑戦し難病克服をはじめ、未知の領域でより良いものを追求することは、医学・医療に携わる者にとって大変重要であり、これにより、日々の業務が、活力あり、興味深いものになると考えています。

一方、研究を実施する環境は、年を追うごとに厳しくなり、研究者の興味本位、思いつきで片手間に実施することができなくなりました。それは、情報量が飛躍的に増え、容易に共有される時代となり、貴重な資源を科学的根拠なしに消費することへの戒めとともに、倫理的課題、研究不正、利益相反など社会正義における問題など複雑化の中で、より客観的な研究組織作りが求められるようになったことです。このためには、研究組織作り、例えば、適切な手続きプロセス、モニタリング・監査などに関わる人材の確保、それに伴い研究費用が増大します。これまでのような医療者の興味と善意だけで研究ができないことから、研究をやってみたいという人材層の縮小が懸念されるどころです。一方で綿密に研究計画を練り、必要性を社会に問い、資金獲得の上で研究を実施するという社会にオープンであることが研究の在り方として求められ、研究は社会における事業であることを認識することが必要です。

さて、臨床研究センターは自ら研究を発案し推進するとともに、職員の研究に対するニーズを拾い上げ、研究をサポートする役割があります。名古屋医療/臨床研究センターは、自施設はもちろんのこと全国の国立病院機構施設を対象とするだけでなく、その質の高い研究支援能力ゆえに、広く社会から求められ研究支援を実施してきており、大変喜ばしいと感じるとともに誇れる組織であると考えています。今後も臨床研究センターの質と機能の向上、ならびに社会に求められる研究の発出に努力してゆきたいと考えていますので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

令和2年3月

名古屋医療センター院長 長谷川 好規

## 序

当院では昭和 51 年に臨床研究部が設置され、平成 14 年に臨床研究センターとなりました。血液・造血器疾患分野の準ナショナルセンターとして発展し、現在は 5 部 29 室の体制で、小児・成人の血液疾患、固形がん、ゲノム医療、エイズなど幅広い研究を展開しています。臨床研究をサポートする体制を提供するのも臨床研究センターの重要な役割の一つであり、当センター内外で発案された臨床研究を着実に進捗させ科学的に正しい解析をおこなう支援を行っています。

この業績年報は令和元年の名古屋医療センター臨床研究センターの活動をまとめたものです。5 つの研究部を中心に記載してありますが、多くの研究は病院スタッフの参加により効果的に協働されています。一般病院に付置されている臨床研究センターとして、病院全体の研究力の向上が最重要課題と考えます。国立病院機構では、本部総合研究センターを中心に臨床研究ネットワークが構築されています。全国の医師を中心に主要臓器疾患からセーフティネット領域まで幅広く臨床研究を展開しており、このような包括的な取り組みは他の設置体では類を見ず、国立病院機構の大きな特徴です。当院では、血液グループ、成育グループ、エイズグループのリーダーまたはコ・リーダー施設として、多施設共同研究を推進するとともに、他の領域の研究の支援も行っています。これらの支援に重要な役割を果たすのが **Academic Research Organization (ARO)** です。名古屋医療センターは平成 25 年から 30 年まで臨床研究品質確保体制整備事業に指定され、アカデミアが中心となって臨床研究を推進、支援する組織である ARO を発展させてきました。国立病院機構の臨床研究を進捗させ、エビデンスを創出できるよう、今後も ARO 機能を磨いていきます。令和元年度は当院 ARO が支援した「小児 CD30 陽性ホジキンリンパ腫、未分化大細胞型リンパ腫に対するブレントキシマブ ベドチンの開発第 I 相試験 (BV-HLALCL)」、「再発・難治 ALK 陽性未分化大細胞型リンパ腫に対するアレクチニブの開発研究」の研究成果により、小児患者に対するアドセトリスの適応追加の薬事承認、ALK 陽性未分化大細胞リンパ腫に対するアレクチニブの適用追加の薬事承認が取得されました。

当センターでは、基礎的な研究も精力的に行われていますが、すべて臨床と密接に関係しているものです。感染・免疫研究部で行っているエイズ研究、高度診断研究部で行っているゲノム研究は、国際的にも高く評価され、本邦における中心的な役割を担っております。

各研究部の活動実績が本冊子に収められています。皆様には、本年報をお目通しいただき、忌憚のないご意見ならびにご助言を賜れば幸甚に存じます。

令和 2 年 3 月

名古屋医療センター臨床研究センター長 永井 宏和

# 目次

## I. 臨床研究センター概要

1. 名称・所在地・専有面積	6
2. 沿革	6
3. 歴代部長・センター長	7
4. 組織図	8
5. 構成員	9
6. 国立病院機構ネットワーク共同研究	19
7. 保有する主な大型研究機器・施設	20
8. ラジオアイソトープ（R I）管理室	23
9. 動物実験棟	23
10. 獲得研究費	24
11. 研修会・セミナー・公開シンポジウムの開催実績	28
12. 治験（市販後臨床試験を含む）に関する実績	30
13. 研究成果の発表実績	31

## II. 国立病院機構共同臨床研究

32

## III. 研究実績

臨床研究企画管理部	42
血液・腫瘍研究部	65
再生医療研究部	67
感染・免疫研究部	69
高度診断研究部	71

## IV. 業績集

臨床研究企画管理部	75
血液・腫瘍研究部	89
再生医療研究部	94
感染・免疫研究部	94
高度診断研究部	99

# I . 臨床研究センター概要

## 1. 名称・所在地・専有面積

名称：独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター臨床研究センター

所在地：〒460-0001 名古屋市中区三の丸四丁目1番1号

電話（052-951-1111） FAX（052-951-0664）

ホームページアドレス <http://www.nnh.go.jp/>

専有面積：2649 m<sup>2</sup>

## 2. 沿革

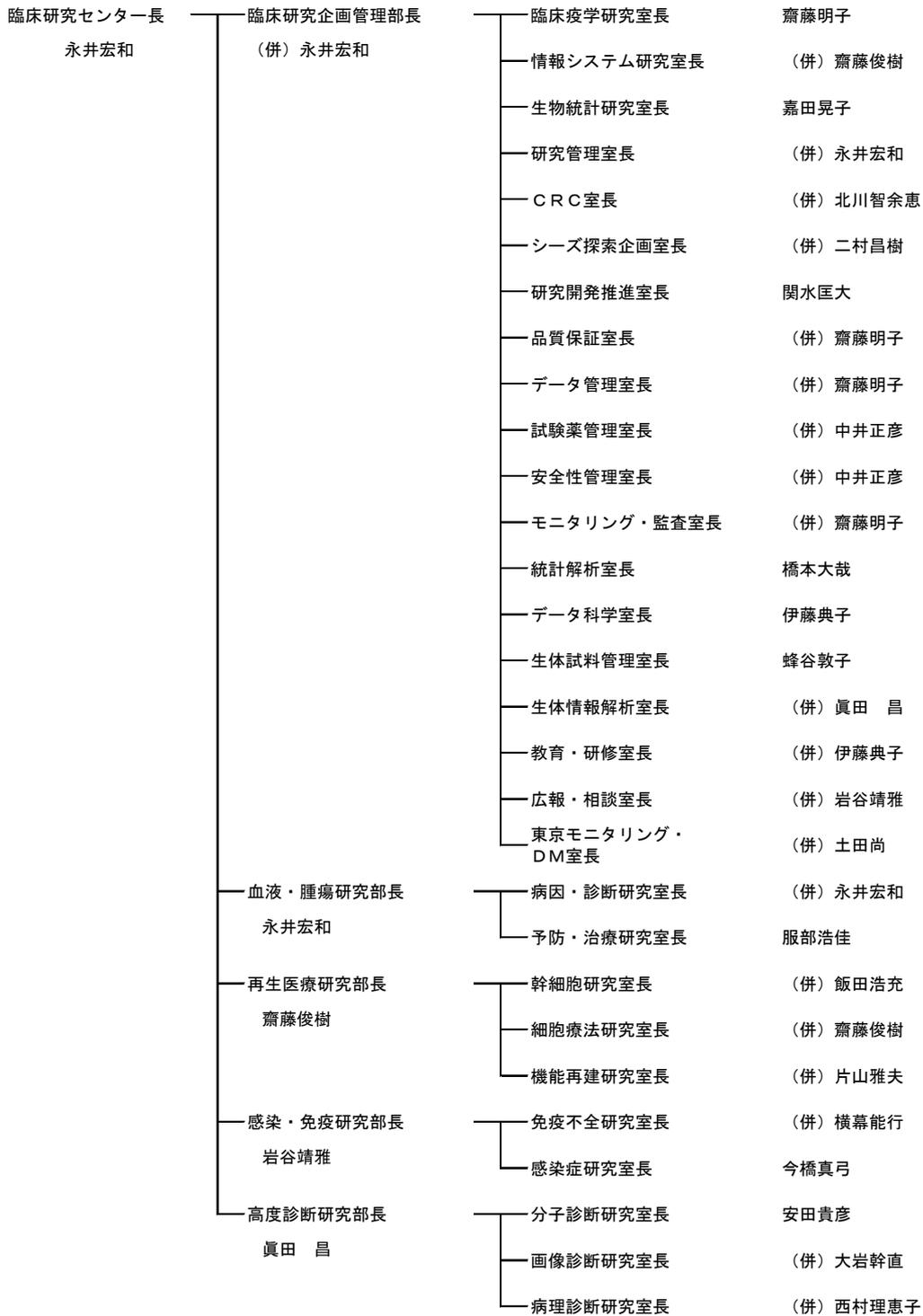
明治11年	名古屋衛戍病院として創設、以後陸軍病院として稼働
昭和20年12月1日	厚生省に移管、国立名古屋病院として発足
昭和47年4月	厚生省公衆衛生局に難病対策課設置 スモン、再生不良性貧血、肝炎等8疾患が特定疾患として指定
昭和50年10月	血液病センター・中病棟（現臨床研究棟）完成
昭和51年5月10日	臨床研究部設置（全国3施設） 国立病院医療センター（腎・膠原病・運動器関係等の特定疾患）、 国立相模原病院（アレルギー）、国立名古屋病院（血液病） 5研究室を設置：血液疾患研究室、血液生化学研究室、輸血研究室、 免疫研究室、血液形態学研究室 専任研究員 金田次弘（昭和52年1月1日～平成19年3月31日） 山西宏明（昭和52年3月1日～平成15年3月31日） 岡山 実（昭和52年7月1日～平成6年12月31日） 小栗佳代子（昭和53年10月1日～平成20年3月31日）
昭和56年5月18日	石田退三記念動物実験棟竣工
平成7年5月	愛知県エイズ治療拠点病院に指定
平成9年4月	厚生省エイズ治療東海ブロック拠点病院に指定
平成11年3月	厚生省国立病院・療養所再編により政策医療19分野決定
平成11年9月	血液・造血器疾患分野高度専門施設として認定、ほか機能付与
平成11年10月	治験管理室開設
平成14年9月4日	文部科学研究費補助金対象研究機関に指定（機関番号83904）
平成14年10月1日	臨床研究部から臨床研究センター（5部15室）に改組
平成15年8月26日	地域がん診療拠点病院に指定
平成16年3月1日	研究用幹細胞バンク（無菌細胞処理施設等）の設置
平成16年4月1日	独立行政法人国立病院機構に移行、名古屋医療センターに改称
平成20年4月1日	臨床研究センター（5部13室）に再編成

平成 21 年 4 月 1 日	国立大学法人名古屋大学大学院医学系研究科連携講座開設 「分子総合医学専攻 免疫不全統御学講座（連携）」
平成 22 年 4 月 1 日	「治験管理室」を「臨床研究支援室」に改称
平成 25 年 4 月 1 日	臨床研究センター(5 部 14 室)に再編成
平成 25 年 5 月 9 日	厚生労働省の臨床研究中核病院整備事業に係る臨床研究中核病院に 選定
平成 25 年 5 月 31 日	放射線棟竣工、外来化学療法室の拡充
平成 25 年 10 月 1 日	臨床研究事業部 7 室を新たに設置し、臨床研究センター6 部 21 室と なる
平成 26 年 8 月 1 日	臨床研究センター臨床研究事業部に「安全性情報室」を設置
平成 27 年 4 月 1 日	臨床研究センター臨床研究事業部に「統計解析室」「生体情報解析室」 を設置 計 10 室となる
平成 28 年 9 月 1 日	日本医療開発研究機構 (AMED) 臨床ゲノム情報統合データベース整備 事業（がん領域）に選定

### 3. 歴代部長・センター長

田村 潤	昭和 51 年 5 月 10 日～昭和 53 年 3 月 31 日
磯部吉郎	昭和 53 年 9 月 16 日～昭和 60 年 3 月 31 日
牧山友三郎	昭和 60 年 5 月 1 日～昭和 61 年 3 月 31 日
田中正夫	昭和 62 年 4 月 1 日～平成 9 年 8 月 31 日
内海 眞	平成 10 年 4 月 1 日～平成 15 年 8 月 31 日 (平成 14 年 10 月 1 日よりセンター長)
堀部敬三	平成 16 年 1 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日
永井宏和	平成 31 年 4 月 1 日～

## 4. 組織図



## 5. 構成員

### 臨床研究センター長 永井宏和

以下、専任 94 名、併任 111 名、その他 137 名

### 臨床研究企画管理部

令和 2 年 3 月 1 日現在

職名	氏名	専任・併任	備考
臨床研究企画管理部長	永井 宏和	併任	臨床研究センター長、血液・腫瘍研究部長
副臨床研究企画管理部長	坂 英雄	併任	がん総合診療部長、呼吸器内科医長
副臨床研究企画管理部長	齋藤 俊樹	併任	再生医療研究部長
上席研究員	堀部 敬三	併任	シニア医師（小児科）
客員研究員	渡邊 智之		愛知学院大学心身科学部健康栄養学科 教授
客員研究員	村松 秀城		名古屋大学医学部附属病院小児科 講師
客員研究員	山田 真弓		NPO 法人臨床研究支援機構
客員研究員	嶋田 明		岡山大学病院小児科 准教授
客員研究員	堀 壽成		愛知医科大学医学部 准教授
客員研究員	久保 昭仁		愛知医科大学 呼吸器・アレルギー内科 特任教授
客員研究員	洪 泰浩		和歌山県立医科大学 内科学第三講座 准教授
客員研究員	谷口 千枝		椙山女学園大学看護学部 基礎看護学 助教
客員研究員	中柄 昌弘		名古屋大学医学部附属病院 先端医療・臨床研究支援センター 病院助教
客員研究員	安藤 昌彦		名古屋大学医学部附属病院 先端医療・臨床研究支援センター 病院教授
客員研究員	吉岡 弘鎮		関西医科大学附属病院呼吸器腫瘍内科 准教授
客員研究員	堀 和美		公立学校共済組合 東海中央病院 内科医長
客員研究員	堀 浩樹		三重大学大学院医学系研究科基礎医学系 講座医学医療教育学 教授
客員研究員	高橋 良博		青森県立中央病院小児科 副部長
客員研究員	今村 俊彦		京都府立医科大学小児科学教室 講師
客員研究員	大和 玄季		群馬県立小児医療センター血液腫瘍科 医長
客員研究員	末延 聡一		大分大学医学部大分こども急性救急疾患学部門医療・研究事業 教授

客員研究員	原 勇介		群馬大学医学部附属病院小児科 助教
客員研究員	柴 徳生		横浜市立大学小児科 講師
客員研究員	小林 良二		札幌北榆病院小児思春期科 部長
客員研究員	照井 君典		弘前大学大学院医学研究科小児科学講座 准教授
客員研究員	盛武 浩		宮崎大学医学部小児科 教授
客員研究員	児玉 祐一		鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 助教
客員研究員	林 泰秀		上武大学 副学長
客員研究員	嶋 晴子		慶應義塾大学医学部小児科 助教
客員研究員	森 鉄也		聖マリアンナ医科大学小児科 准教授
客員研究員	坂口 公祥		浜松医科大学医学部附属病院小児科 講師
客員研究員	松尾 英将		京都大学大学院人間健康科学系専攻 助教
客員研究員	柳沢 龍		信州大学医学部先端細胞治療センター 准教授/同大学附属病院輸血部 副部長
客員研究員	中澤 理香		東京医療センター臨床研究センター感覚 器センター人工臓器・機器開発研究部門 客員研究員
客員研究員	岩淵 英人		静岡県立こども病院 病理診断科 科長
客員研究員	坂本 謙一		国立成育医療研究センター フェロー
客員研究員	小関 道夫		岐阜大学医学部附属病院 小児科 講師
客員研究員	矢野 未央		京都市立病院小児科 医長
客員研究員	松田 守弘		医療法人川崎病院 総合診療科部長 兼 救急科部長
客員研究員	岡本 さくら		麻酔科医師
客員研究員	阿尾 有朋		東京家政学院大学児童学科 准教授
客員研究員	長谷川 大輔		聖路加国際病院小児科 医幹
客員研究員	宮村 能子		大阪大学大学院医学系研究科小児科学 助教
客員研究員	川崎 朋範		埼玉医科大学国際医療センター病理診断 科 教授
	松村 剛	併任	刀根山病院
	高瀬 謙	併任	九州医療センター
	角田 晃一	併任	東京医療センター人工臓器機器開発部 部長
	吉田 功	併任	四国がんセンター血液腫瘍内科医長
	山崎 聡	併任	九州医療センター

	横山 明弘	併任	東京医療センター
研究員	前田 尚子	併任	小児科医長
研究員	梶田 泰一	併任	脳神経外科部長
非常勤職員	望月 幸	専任	事務助手
非常勤職員	山川 はな	専任	事務助手
非常勤職員	津田 真由美	専任	事務助手
非常勤職員	山内 三佳	専任	事務助手
非常勤職員	伊藤 紀代美	専任	事務助手
非常勤職員	下村 桂子	専任	事務助手
非常勤職員	鎌倉 真弓	専任	事務助手
非常勤職員	加藤 恭子	専任	事務助手
非常勤職員	小野江 恵美子	専任	事務助手
非常勤職員	山口 かつら	専任	事務助手
非常勤職員	畑中 めぐみ	専任	看護師
<b>臨床疫学研究室長</b>	齋藤 明子	専任	
研究生	永井 かおり		NPO 法人臨床研究支援機構
研究生	米島 麻三子		NPO 法人臨床研究支援機構
研究生	竹内 一美		NPO 法人臨床研究支援機構
研究生	岡野 美江		NPO 法人臨床研究支援機構
研究生	長崎 智代香		NPO 法人臨床研究支援機構
研究生	渡辺 莉紗		NPO 法人臨床研究支援機構
研究生	今井 優子		NPO 法人臨床研究支援機構
研究生	高村 圭		NPO 法人臨床研究支援機構
研究生	中山 環		NPO 法人臨床研究支援機構
研究生	中島 真理子		NPO 法人臨床研究支援機構
研究生	山田 志布		NPO 法人臨床研究支援機構
研究生	宇津野 美登里		NPO 法人臨床研究支援機構
研究生	縣 久美子		NPO 法人臨床研究支援機構
研究生	森下 明野		NPO 法人臨床研究支援機構
<b>情報システム研究室長</b>	齋藤 俊樹	併任	NPO 法人再生医療研究部長
客員研究員	近藤 修平		NPO 法人臨床研究支援機構
客員研究員	山本 松雄		NPO 法人臨床研究支援機構
客員研究員	清水 克祐		(株) エムケイシステム
研究員	中村 智信	併任	腎臓内科医長
研究員	山家 由子	併任	糖尿病・内分泌内科医長
研究員	島田 昌明	併任	医療連携部長
研究員	浦田 登	併任	消化器科医師
研究員	富田 保志	併任	統括診療部長
研究員	関 幸雄	併任	救急部長

研究員	片岡 政人	併任	病棟部長
研究員	加藤 恵利子	併任	放射線科医長
研究員	岡 さおり	併任	呼吸器科医師
研究員	富田 彰	併任	手術部長
研究員	宇佐美 雄司	併任	歯科口腔外科医長
研究員	宗宮 奈美恵	併任	麻酔科医師
研究員	大野 真佐輔	併任	脳神経外科医師
研究員	萩原 啓明	併任	心臓血管医長
研究員	荒川 美貴子	併任	歯科口腔外科医師
研究員	大澤 栄実	併任	慢性疾患看護専門看護師
研究員	秋田 直洋	併任	小児科医師
研究生	大塚 真理子		NPO 法人臨床研究支援機構
研究生	小林 礼奈		NPO 法人臨床研究支援機構
研究生	濱野 康司		NPO 法人臨床研究支援機構
研究生	高見 恵理		NPO 法人臨床研究支援機構
<b>生物統計研究室長</b>	嘉田 晃子	専任	
客員研究員	田中 司朗		京都大学大学院医学研究科臨床統計学 特定教授
客員研究員	平川 晃弘		東京大学大学院医学系研究科生物統計情 報学講座 特任准教授
<b>研究管理室長</b>	永井 宏和	併任	血液・腫瘍研究部長
副室長	田中 貴志	併任	管理課長
研究経理係長	中川 慧祐	専任	
研究企画調整係長	田中 貴志	併任	管理課長
臨床研究支援係長	今井 由和	併任	業務班長
臨床試験調整係長	永井 宏和	併任	血液・腫瘍研究部長
主任薬剤師	安達 尚哉	専任	治験主任
主任薬剤師	中山 忍	専任	治験主任
主任薬剤師	米島 正	併任	治験主任
薬剤師	石井 ゆに香	専任	
薬剤師	永田 翔子	専任	
研究企画調整係	宮崎 正輝	専任	
非常勤職員	南海 綾子	専任	事務助手
非常勤職員	社本 綾子	専任	事務助手
非常勤職員	飯田 容子	専任	事務助手
非常勤職員	縣 明美	専任	事務助手
非常勤職員	米村 麻紗子	専任	事務助手
非常勤職員	馬淵 美穂	専任	事務助手
非常勤職員	石井 阿由子	専任	事務助手

非常勤職員	渡邊 章子	専任	事務助手
<b>CRC 室長</b>	北川 智余恵	併任	臨床腫瘍科医長
副室長	中井 正彦	併任	薬剤部長
副室長	村上 和代	併任	副看護部長
治験主任	米島 正	専任	治験主任
副看護師長	中村 和美	専任	
副看護師長	加藤 愛衣	専任	
看護師	村田 佐恵子	専任	
看護師	鈴木 真佐美	専任	
看護師	長谷川 真奈美	専任	
看護師	西川 奈津紀	専任	
薬剤師	柴田 久美子	専任	
看護師	宮寄 麻衣子	専任	
看護師	五十嵐 奈美	専任	
看護師	井上 千広	専任	
臨床検査技師	田邊 和枝	専任	
臨床検査技師	鶴田 優子	専任	
非常勤職員	林 美里	専任	臨床検査技師
非常勤職員	高松 しのぶ	専任	臨床検査技師
非常勤職員	橋本 瑞穂	専任	看護師
非常勤職員	寺井 公世	専任	事務助手
研究生	大友 みどり		NPO 法人臨床研究支援機構
研究生	三澤 佳奈		NPO 法人臨床研究支援機構
<b>シーズ探索企画室長</b>	二村 昌樹	併任	小児科医長
シーズ探索企画主任	小暮 啓人	併任	呼吸器内科医師
非常勤職員	齊藤 優子	専任	事務助手
非常勤職員	水谷 愛以	専任	事務助手
研究員	鈴木 道太	併任	膠原病内科医長
研究員	須崎 法幸	併任	脳神経外科医長
研究員	小林 麗	併任	神経内科医長
研究員	吉野 能	併任	泌尿器科医長
研究員	島田 昌明	併任	医療連携部長
<b>研究開発推進室長</b>	関水 匡大	専任	小児科医師
主任薬剤師	伊藤 豊	専任	治験主任
主任薬剤師	永谷 憲司	専任	治験主任
非常勤職員	浅田 隆太	専任	岐阜大学附属病院臨床研究支援センター 准教授
非常勤職員	吉見 香織	専任	事務助手
研究生	日野 綾香		NPO 法人臨床研究支援機構

研究生	熊谷 香苗		NPO 法人臨床研究支援機構
研究生	斎藤 あかね		NPO 法人臨床研究支援機構
研究生	松浦 宏美		株式会社アイクロスジャパン
<b>品質保証室長</b>	伊藤 典子	専任	データ科学室長 教育・研修室長
研究生	水尾 斉		株式会社アイクロスジャパン
研究生	中川 奈緒子		株式会社アイクロスジャパン
<b>データ管理室長</b>	齋藤 明子	併任	臨床疫学研究室長
看護師	三和 郁子	専任	
看護師	生越 由枝	専任	
看護師	佐藤 則子	専任	
診療放射線技師	西岡 絵美子	専任	
<b>試験薬管理室長</b>	中井 正彦	併任	薬剤部長
副室長	岩谷 靖雅	併任	感染・免疫研究部長
室員	林 誠	併任	副薬剤部長
室員	竹内 正紀	併任	副薬剤部長
室員	溝神 由美子	併任	薬務主任
室員	井上 裕貴	併任	調剤主任
室員	平野 淳	併任	製剤主任
<b>安全性管理室長</b>	中井 正彦	併任	薬剤部長
主任薬剤師	米島 正	併任	治験主任
<b>モニタリング・監査室長</b>	齋藤 明子	併任	臨床疫学研究室長
主任薬剤師	米島 正	併任	治験主任
看護師	長門 佳世子	専任	
看護師	坂本 志織理	専任	
看護師	松元 未登里	専任	
薬剤師	佐野 晃宏	専任	
非常勤職員	伊藤 由子	専任	事務助手
研究生	松浦 宏美		株式会社アイクロスジャパン
研究生	後藤 英樹		クレイス株式会社
研究生	中川 沙織		クレイス株式会社
研究生	川崎 臣人		クレイス株式会社
研究生	丹羽 裕二		アイクロス株式会社
研究生	大田 裕介		アイクロス株式会社
<b>統計解析室長</b>	橋本 大哉	専任	
<b>データ科学室長</b>	伊藤 典子	併任	品質保証室長 教育・研修室長
研究生	加藤 紀祿		NPO 法人臨床研究支援機構
<b>生体試料管理室長</b>	眞田 昌	併任	高度診断研究部長
臨床検査技師	中筋 美穂	専任	

生体情報解析室長	蜂谷 敦子	専任	
臨床検査技師	生田目 幸	専任	
臨床検査技師	早瀬 容子	専任	
	安田 貴彦	併任	分子診断研究室長
<b>教育・研修室長</b>	伊藤 典子	併任	品質保証室長 データ科学室長
副室長	嘉田 晃子	併任	生物統計研究室長
室員	中村 和美	併任	副看護師長
非常勤職員	牧野 考代	専任	事務助手
<b>広報・相談室長</b>	岩谷 靖雅	併任	感染・免疫研究部長
副室長	稲垣 磨奈美	併任	副看護部長
副室長	服部 浩佳	併任	予防・治療研究室長
	今橋 真弓	併任	感染症研究室長
<b>東京モニタリング・DM 室長</b>	土田 尚	併任	機構本部治験研究部長

### 血液・腫瘍研究部

職名	氏名	専任・併任	備考
<b>血液・腫瘍研究部長</b>	永井 宏和	併任	臨床研究センター長、血液内科医長
流動研究員	萩原 和美	専任	
客員研究員	小島 勇貴		国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科
客員研究員	津下 圭太郎		愛知県警察本部厚生課 専属産業医
客員研究員	國富 あかね		大津赤十字病院血液内科 医師
客員研究員	宮田 泰彦		ヤンセンファーマ
非常勤	江口 加代子	専任	実験助手
<b>病因・診断研究室長</b>	永井 宏和	併任	血液・腫瘍研究部長
研究員	竹田 伸	併任	副院長
研究員	服部 佳永子	併任	中3病棟看護師長
<b>予防・治療研究室長</b>	服部 浩佳	専任	遺伝診療科医長、小児科医師
研究員	沖 昌英	併任	呼吸器内科医長
研究員	小暮 啓人	併任	呼吸器内科医師
研究員	近藤 建	併任	緩和ケア内科科長 外科シニア医師
研究員	佐藤 康幸	併任	外来部長、乳腺外科医長
研究員	林 孝子	併任	乳腺外科医師
研究員	岡本 典子	併任	泌尿器科医長
研究員	岩瀬 弘明	併任	医療連携部長、消化器内科医長
研究員	田口 育	併任	認定遺伝カウンセラー
客員研究員	野々川 陽子		研究休職 (名古屋学芸大学)
客員研究員	粥川 由佳		研究休職 (名古屋市立大学)

## 再生医療研究部

職名	氏名	専任・併任	備考
再生医療研究部長	齋藤 俊樹	専任	
幹細胞研究室長	飯田 浩充	併任	血液内科医長
室員	須崎 法幸	併任	脳神経外科医長
非常勤職員	山本 美智代	専任	実験助手
非常勤職員	鷺津 早苗	専任	実験助手
細胞療法研究室長	齋藤 俊樹	併任	再生医療研究部長
研究員	生田目 幸	併任	臨床検査科 臨床検査技師
研究員	早瀬 容子	併任	臨床検査科 臨床検査技師
機能再建研究室長	片山 雅夫	併任	膠原病内科医長
室員	佐藤 智太郎	併任	整形外科医長、医療情報部長
室員	金子 敦史	併任	整形外科医長

## 感染・免疫研究部

職名	氏名	専任・併任	備考
感染・免疫研究部長	岩谷 靖雅	専任	
研究員	蜂谷 敦子	併任	生体情報解析室長
研究員	森 美喜子	併任	内科専攻医
流動研究員	大出 裕高	専任	
客員研究員	俣野 哲朗		国立感染症研究所エイズ研究センター センター長
客員研究員	明里 宏文		京都大学霊長類研究所 教授
客員研究員	村上 努		国立感染症研究所エイズ研究センター・第三室 室長
客員研究員	椎野 禎一郎		国立感染症研究所感染症疫学センター 主任研究官
客員研究員	松岡 和弘		NPO 法人臨床研究支援機構
客員研究員	松田 昌和		NPO 法人臨床研究支援機構
客員研究員	中村 範子		愛知県衛生研究所生物学部ウイルス研究室 研究員
客員研究員	杉浦 互		ピオメリユー・ジャパンメディカルアフェアーズ
客員研究員	城石 智未		富山フィルム株式会社 医薬品・ヘルスケア研究所
客員研究員	根本 理子		岡山大学大学院環境生命科学研究科 助教 (特任)
客員研究員	中島 雅晶		塩野義製薬
客員研究員	助川 明香		エイズ予防財団

客員研究員	戸上 博昭		国立研究開発法人長寿医療研究センター薬 剤部 製剤・試験主任
客員研究員	駒野 淳		大阪薬科大学
非常勤	澤田 昌美	専任	事務助手
非常勤	坂本 敦子	専任	事務助手
非常勤	岡崎 玲子	専任	実験助手
非常勤	中田 佳宏	専任	実験助手
非常勤	山村 喜美	専任	実験助手
非常勤	大野 美希	専任	実験助手
非常勤	内山 紘子	専任	事務助手
研究生	イアン バウデ イ	併任	名古屋市立大学大学院生
<b>免疫不全研究室長</b>	横幕 能行	併任	エイズ総合診療部長 エイズ治療開発センターセンター長
客員研究員	重見 麗		NPO 法人臨床研究支援機構
客員研究員	渡邊 綱正		聖マリアンナ医科大学消化器・肝臓内科 講師/同大学病院消化器・肝臓内科 医長
研究員	松岡 亜由子	併任	エイズ診療科心理療法士
研究員	羽柴 知恵子	併任	副看護師長
研究員	福島 直子	併任	薬剤師
研究員	平野 淳	併任	薬剤師
研究員	加藤 万理	併任	薬剤師
非常勤	大林 由美子	専任	事務助手
非常勤	梅村 由佳	専任	事務助手
<b>感染症研究室長</b>	今橋 真弓	専任	
非常勤	久保田 舞	専任	実験助手

## 高度診断研究部

職名	氏名	専任・併任	備考
<b>高度診断研究部長</b>	眞田 昌	専任	
流動研究員	飯島 友加	専任	
流動研究員	山田 朋美	専任	
流動研究員	岩本 栄介	専任	
室員	秋田 直洋	併任	小児科医師
臨床検査技師	中筋 美穂	専任	
客員研究員	保坂 真澄		NPO法人臨床研究支援機構
客員研究員	加藤 元博		国立成育医療研究センター小児がんセン ター移植・細胞治療科 診療部長
客員研究員	吉田 健一		京都大学医学研究科腫瘍生物学助教

研究生	藤原 峻		昭和大学大学院生
研究生	上野 浩生		京都大学大学院生
研究生	金森 貴之		名古屋市立大学大学院生
研究生	麩山 美華		NPO法人臨床研究支援機構
研究生	石田 智美		NPO法人臨床研究支援機構
研究生	毛利 真由		NPO法人臨床研究支援機構
研究生	岡田 佳奈子		NPO法人臨床研究支援機構
事務助手	三谷 郁	専任	
<b>分子診断研究室長</b>	安田 貴彦	専任	
客員研究員	國島 伸治		岐阜医療科学大学保健科学部教授
<b>画像診断研究室長</b>	大岩 幹直	併任	放射線診断科医長
客員研究員	吉川 和明		財団法人島根県環境保健公社浜田支所
客員研究員	廣藤 喜章		セントメディカル・アソシエイツ LLC
客員研究員	黒石 哲生		愛知県がんセンター研究所 疫学・がん予防部 客員研究員 名古屋大学大学院予防医学・医学判断学教室 客員研究員
客員研究員	村松 千左子		滋賀大学 データサイエンス学部 准教授
客員研究員	白岩 美咲		香川県立中央病院乳腺センター 部長
室員	遠藤 登喜子	併任	放射線診断科非常勤医師
室員	須田 波子	併任	乳腺外科非常勤医師
室員	高橋 優子	併任	乳腺外科非常勤医師
室員	奥田 聡	併任	副院長、臨床検査部長
室員	高橋 立夫	併任	脳神経外科 シニア医師
室員	岡田 久	併任	脳神経内科医師
室員	森田 孝子	併任	乳腺外科医師
<b>病理診断研究室長</b>	西村 理恵子	併任	病理診断科医長
客員研究員	湯浅 哲也		山形大学大学院理工学研究科教授
客員研究員	安藤 正海		東京理科大学教授
客員研究員	砂口 尚輝		名古屋大学医学部保健学科准教授
客員研究員	森谷 鈴子		滋賀医科大学付属病院病理部准教授
客員研究員	島雄 大介		北海道科学大学
客員研究員	高橋 恵美子		愛知医科大学
室員	市原 周	併任	病理診断科医師
室員	久保田敏信	併任	眼科医長
室員	岩越 朱里	併任	病理診断科医師

## 6.国立病院機構ネットワーク共同研究

国立病院機構(NHO)のスケールメリット生かした臨床研究の発展を目指して、平成21年度からNHO独自の臨床研究活動実績評価システムに基づいた体制のもとにネットワーク共同研究を行っている。当センターは、血液疾患領域のグループリーダー施設(リーダー：永井宏和)、成育グループのリーダー施設(リーダー：二村昌樹)、エイズ領域のコ・グループリーダー施設(コ・グループリーダー：横幕能行)としてネットワーク共同研究の推進を図っている。血液疾患領域においては、かつて血液・造血器疾患分野の準ナショナルセンターとしてわが国の血液・造血器疾患分野の臨床研究の一翼を担い、その一環としてNHOの血液疾患診療施設で血液・造血器疾患分野政策医療ネットワークを形成して共同研究を実施し、現在もその活動を継続発展させている。エイズ領域では、大阪医療センターと連携してネットワーク研究を推進している。成育領域では、当院がリーダー施設として共同研究課題の推進している。

当院AROは上記3分野に関わらずNHO共同研究で行われている多くの試験の支援を精力的に行っており、NHOの臨床研究の推進に寄与している。

## 7. 保有する主な高額研究機器・施設

研究機器名称	主な用途	設置場所	設置年度
レーザーマイクロディセクションシステム AS・LMD	組織中切片中の標的細胞塊を、レーザーで切り出し回収する装置	高度診断研究部 病理診断研究室	2002
プレハブ式動物飼育システム	実験動物の飼育環境を適正に制御するシステム	動物実験棟	2004
バリアブルイメージアナライザー Typhoon9200-WKSYN	二次元画像解析、マイクロアレイ解析など多項目画像解析を行う画像解析装置	血液・腫瘍研究部 実験室	2004
P3レベル安全実験システム	P3レベルの拡散防止措置を要する実験室	感染・免疫研究部 BSL3 実験室	2004
DNA シーケンサー 310-100NT/kk	DNA の塩基配列を自動的に読み取る装置	再生医療研究部 細胞療法研究室	2004
無菌細胞処理施設 (CPCユニット)	細胞療法を行うための細胞を培養するために必要な清浄度が保たれている専用のクリーンルーム	再生医療研究部	2005
共焦点レーザー顕微鏡システム eC1 システム	高解像度と三次元情報の再構築が可能な顕微鏡	高度診断研究部 病理診断研究室	2007
微量放射線蛍光・発光測定装置 MicroBetaTRILUX	多目的な放射線蛍光・発光測定に使用するマイクロプレート型放射線測定装置	RI 実験室	2008
多機能遠心機システム Optima L-90K	最高回転数 90,000rpm の多機能超遠心分離機	感染・免疫研究部 BSL3 実験室	2008
化学発光検出装置システム ImageQuant LAS4000	化学発光、蛍光発光等の画像解析を行うイメージアナライザー	高度診断研究部 分子診断研究室Ⅲ	2010
高感度ルミノメーターシステム ARVOmx	ウェスタンブロットなどのイメージ検出	分子診断研究室Ⅲ	2011
ジェネティックアナライザー 3500XL	遺伝子配列解析	臨床検査科	2011

バイオメディカルフ リーザ MDF-U700VX-PJ MDF-594-PJ	臨床検体および抽出した試料の保存	感染・免疫研究部 試料冷凍保存室	2012
フローサイトメータ ー FACS Canto II	レーザー技術を用いてや細胞分析を 行うため	高度診断研究部 病理診断研究室	2013
マイクロチップ電気 泳動装置 TapeStation	核酸、タンパク質の電気泳動による 分離と定量を行う装置	再生医療研究部 実験室	2013
高速冷却遠心機 6000	サンプルを遠心分離する機器	血液・腫瘍研究部 病因・診断研究室	2013
リアルタイム PCR シ ステム QS7-04	PCR により核酸を増幅し、定量を行 う装置	再生医療研究部 実験室	2013
次世代シーケンサー Miseq システム	DNA 塩基配列を高速・大量に解読す る装置	感染・免疫研究部	2013
次世代シーケンサー HiSeq 2500 システム	DNA 塩基配列を高速・大量に解読す る装置	高度診断研究部	2014
次世代シーケンサー Miseq システム	DNA 塩基配列を高速・大量に解読す る装置	高度診断研究部	2014
サーバ用 UPS THA1000R-10	電源装置の一種で、二次電池など電 力を蓄積する装置を内蔵し、外部か らの電力供給が途絶えても一定時間 決められた出力で外部に電力を供給 することができる装置	図書検索室	2014
データベースサーバ C2108-RP2	HIV 遺伝子配列データの解析およ びデータ保存する	図書検索室	2014
卓上冷却遠心機 3780	検体分離・核酸抽出に利用する遠心 分離	感染・免疫研究部 一般実験室	2014
濃縮遠心機 SavantSpeedVac DNA120	核酸などの溶液の濃縮遠心に使用す る	血液・腫瘍研究部実 験室	2014
サーマルサイクラー C1000	核酸の自動増幅装置	血液・腫瘍研究部実 験室	2014

テレビ会議システム HDX6000-720	離れた距離でもテレビ画面を通して 会議することができるシステム	特別会議室 4F カンファレンス ルーム	2014
次世代シーケンサー 用サンプル前処理シ ステム Bravo	次世代シーケンサー用のサンプルを 自動調整する	血液・腫瘍研究部実 験室	2015
テレビ会議システム XT4300	離れた距離でもテレビ画面を通して 会議することができるシステム	第二会議室 臨床研究センター	2016
リアルタイム PCR 検 査システム オートシステム A	HCV、HBV、HIV の定量測定を実施す る。	臨床検査科	2016
DNA 断片化装置 ME220	高出力で安定した安定した (Ultrasonic) をサンプルに集中的 に照射する事により DNA を断片化 する装置。	高度診断研究部実 験室	2016
高圧細胞破砕機 EmulsiFlex-C3	サンプルに対して急激に高圧を与え ることで、サンプル内の細胞を破壊 させるための装置。	感染・免疫研究部実 験室	2016
リアルタイム PCR シ ステム Dice-Realtime SystemIII TP990	遺伝子解析・遺伝子検査を実施する ための装置。	感染・免疫研究部実 験室	2016
全自動遺伝子解析装 置 Gene Xpert シス テム GX-II	院内感染（細菌）のモニタリングを 行うための遺伝子解析装置	臨床検査科（細菌）	2017
テレビ会議システム	離れた距離でもテレビ画面を通して 会議することができるシステム	小会議室	2018
低圧クロマトグラフ ィーシステム	生体成分を分離・分析する装置	感染・免疫研究部実 験室	2018
倒立顕微鏡	細胞の形態を解析・分析するための 装置	感染・免疫研究部実 験室	2018
超低温フリーザー MDF-394-PJ	検体試料保管のための装置	感染・免疫研究部実 験室	2019

## 8. ラジオアイソトープ (R I) 管理室

管理区域担当者 岩谷靖雅

放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律およびその法律に基づいた(独)国立病院機構名古屋医療センター放射線障害予防規程に基づき、当該臨床研究センターに併設する放射線管理区域におけるラジオアイソトープ(RI)を用いた臨床研究(以下、放射線業務)を安全に実施する目的、および公共の安全を確保する目的で管理業務等を行った。令和元年度は、放射線同位元素を用いた臨床研究活動はなかったが、法規に準じ放射線主任技師の指導のもと、管理区域の設備等の維持と定期点検など、下記の業務を行った。当該年度における施設および公共への安全性が確保されていることが確認された。

(具体的な通例業務)

- 1：毎月、当該管理区域における安全状況等の調査及び点検を行った。
- 2：臨床研究センターRI管理区域にかかる帳簿、書類等の管理・保管をした。
- 3：利用登録者に対する定期教育訓練講習および健康診断受診確認作業を行った。

## 9. 動物実験棟

動物実験棟担当者 齋藤俊樹

動物実験棟は、臨床研究センター内に独立した二階建ての建物として併設されている。

動物実験管理委員会の定期開催を年1度以上行っている。また情報公開を推進し、名古屋医療センター臨床研究センターのホームページに「動物実験に関する情報」として規程、委員名簿、議事概要の掲載を継続している。

また空調のメンテナンス、空調調節用大容量サーモスタットの切り替え(冷房、暖房)については毎月1回の整備点検を行なっている。

動物実験は臨床研究を前臨床試験として支え、また基礎研究に必要不可欠なものである。今後重要性を認識しつつ一層の充実を図ると共に情報公開を推進していく予定である。

## 10. 獲得研究費（国立病院機構本部への報告より）

### 1) 日本学術振興会科学研究費

研究者名	主任・分担	新規・継続	研究事業名 (依頼業者名)	研究課題名
大出 裕高	主任	継続	科学研究費助成事業 基盤研究(C)	17K08872 宿主防御因子APOBEC3GとHIV-1 Vifの相互作用様式の解明
真田 昌	主任	継続	科学研究費助成事業 基盤研究(C)	17K10136 急性リンパ性白血病におけるクローン多様性の解析に基づく病態理解
松岡 和弘	主任	新規	科学研究費助成事業 若手研究	18K14685 ヒトプロテインアレイを用いた新規HIV宿主防御因子の網羅的な探索と解析
安田 貴彦	主任	継続	科学研究費助成事業 若手研究	18K16103 成人急性リンパ性白血病における年齢依存的な染色体転座とその発症機序に関する研究
嘉田 晃子	分担	継続	科学研究費助成事業 基盤研究(B)	18H02914 脳卒中中のLearning Health Systemに関する研究
二村 昌樹	分担	新規	科学研究費助成事業 基盤研究(C)	18K10475 アレルギーの子どもの養育者の育児ストレス軽減のための支援効果:ランダム化比較試験
安田 貴彦	分担	新規	科学研究費助成事業 基盤研究(B)	18H02645 ALL特異的融合遺伝子のin vivo機能解析から見た白血病多段階発症機構の解明
末永 雅也	主任	継続	科学研究費助成事業 若手研究	18K15314 循環腫瘍DNAを応用した膀胱癌術前治療の新規効果判定法とサーベイランス法の開発
岩谷 靖雅	主任	新規	科学研究費助成事業 基盤研究(B)	19H03482 APOBEC3Hによる抗レトロウイルス作用機序の全容解明
嘉田 晃子	主任	新規	科学研究費助成事業 基盤研究(C)	19K03627 集団類似性を利用した治療効果の一般化
今橋 伸彦	主任	新規	科学研究費助成事業 若手研究	19K17854 B細胞性腫瘍における解糖系亢進の新規機序の解明と治療標的としての有用性の検証

### 2) 厚生労働科学研究費

研究者名	主任・分担	新規・継続	研究事業名 (依頼業者名)	研究課題名
横幕 能行	主任	継続	エイズ対策政策研究事業	H29-エイズ-指定-001 HIV感染症の医療体制の整備に関する研究
横幕 能行	主任	継続	エイズ対策政策研究事業	H29-エイズ-一般-008 職域での健診機会を利用した検査機会拡大のための新たなHIV検査体制の研究
宇佐美 雄司	分担	継続	エイズ対策政策研究事業	H29-エイズ-指定-001 HIV感染症の医療体制の整備に関する研究
嘉田 晃子	分担	継続	難治性疾患等政策研究事業	H29-難治等(難)-一般-010 稀少てんかんに関する調査研究
齋藤 明子	分担	継続	難治性疾患等政策研究事業	H29-難治等(難)-一般-010 稀少てんかんに関する調査研究
齋藤 明子	分担	継続	難治性疾患等政策研究事業	H30-難治等(難)-一般-002 特発性好酸球増加症候群の診療ガイドライン作成に向けた疫学研究
堀部 敬三	分担	新規	がん対策推進総合研究事業	H30-がん対策-一般-001 思春期・若年成人(AYA)世代がん患者の包括的ケア提供体制の構築に関する研究
横幕 能行	分担	継続	エイズ対策政策研究事業	H30-エイズ-一般-009 HIV感染症における医療経済的分析と将来予測に資する研究
橋本 大哉	分担	継続	難治性疾患等政策研究事業	H30-難治等(難)-一般-005 筋ジストロフィーの標準的医療普及のための調査研究
今橋 真弓	分担	継続	エイズ対策政策研究事業	H29-エイズ-指定-001 HIV感染症の医療体制の整備に関する研究
長谷川 好規	分担	継続	難治性疾患政策研究事業	H29-難治等(難)-指定-023 びまん性肺疾患に関する調査研究
堀部 敬三	主任	新規	がん対策推進総合研究事業	19EA1012 AYA世代がん患者に対する精神心理的支援プログラムおよび高校教育の提供方法の開発と実用化に関する研究

3) 国立高度専門医療センター等研究費

研究者名	主任・分担	新規・継続	研究事業名 (依頼業者名)	研究課題名
永井 宏和	分担	継続	国立がん研究センター 研究開発費	29-A-3 リンパ系腫瘍多発性骨髄腫に対する標準的治療確立のための多施設共同研究
齋藤 明子	分担	継続	国立がん研究センター 研究開発費	29-A-15 共同研究グループ間およびがん診療連携拠点病院間の連携によるがん治療開発研究の効率化と質的向上のための研究

4) 日本医療研究開発機構研究費

研究者名	主任・分担	新規・継続	研究事業名 (依頼業者名)	研究課題名
遠藤 登喜子	分担	継続	医療分野研究成果展 開事業	送受相補型圧電MEMSによる超高感度超音波診断用プローブの評価・レビュー
梶田 泰一	分担	継続	難治性疾患実用化研究 事業	DBS実施患者の追跡、評価の実施
嘉田 晃子	分担	継続	臨床研究・治験推進研 究事業	プロトコール作成、統計解析(限局性皮膚異形成Ⅱ型のでんかん発作に対するシロリムスの有効性と安全性に関する無対照非盲検医師主導治験)
齋藤 明子、眞田 昌	分担	継続	革新的がん医療実用化 研究事業	小児造血器腫瘍臨床研究の質の向上に関する研究
齋藤 明子	分担	新規	革新的がん医療実用化 研究事業	アジア共同基盤を用いた分類系統不明瞭な白血病(ALAL)に対する標準治療の開発
齋藤 明子、眞田 昌	分担	継続	革新的がん医療実用化 研究事業	小児および若年成人におけるB前駆細胞性急性リンパ性白血病に対する多施設共同第Ⅱ/Ⅲ相臨床試験(ALL-B19)の試験開始支援と管理
齋藤 明子、眞田 昌、嘉田 晃子、関水 匡大	分担	継続	革新的がん医療実用化 研究事業	小児リンパ腫の標準治療確立研究開発と質の向上
齋藤 明子、嘉田 晃子	分担	継続	革新的がん医療実用化 研究事業	EBV-HLH18臨床試験における質管理(データマネジメント及びモニタリング)の統括(小児および若年成人のEBウイルス関連血球貪食性リンパ組織球症に対するリスク別多施設共同第Ⅱ相臨床試験)
齋藤 明子、嘉田 晃子	分担	継続	革新的がん医療実用化 研究事業	小児Ph染色体陽性白血病臨床研究の質の向上に関する研究
齋藤 明子	分担	継続	革新的がん医療実用化 研究事業	AML-D16臨床試験における質管理(ダウン症合併骨髄性白血病に対する標準的治療法の確立)
齋藤 明子、眞田 昌	分担	継続	革新的がん医療実用化 研究事業	小児造血器腫瘍(リンパ系腫瘍)臨床研究の質の向上に関する研究
齋藤 明子、眞田 昌	分担	継続	革新的がん医療実用化 研究事業	ML-17臨床試験における臨床情報や検査データの収集と管理
齋藤 明子	分担	継続	革新的がん医療実用化 研究事業	TAM-16臨床試験の質管理の方法論
齋藤 明子、嘉田 晃子、関水 匡大	分担	継続	臨床研究・治験推進研 究事業	データ管理等担当者として医師主導治験の準備と実施(クリゾチニブの再発または難治性小児ALK(anaplastic lymphoma kinase)陽性未分化大細胞型リンパ腫(anaplastic large cell lymphoma, ALCL)に対する第Ⅰ/Ⅱ 相および再発または難治性神経芽腫に対する第Ⅰ相医師主導治験)
齋藤 明子、橋本 大哉	分担	新規	革新的がん医療実用化 研究事業	難治性4期神経芽腫に対するKIRリガンドミスマッチ同種臍帯血移植の多施設共同単群試験(JCCG-NB-KIR-L-CBT)臨床試験の質管理
齋藤 明子	分担	新規	革新的がん医療実用化 研究事業	難治性小児AYA世代白血病患者に対するがん免疫療法最適医療実現のための多角的オミックス解析を用いた新規バイオマーカー探索
齋藤 俊樹	主任	新規	医薬品等規制調和・評価研究事業	アカデミアにおけるCDISC標準利用推進のための施設間連携に関する研究
眞田 昌	主任	継続	革新的がん医療実用化 研究事業	ゲノム情報と薬剤感受性予測に基づく、小児血液腫瘍における最適医療の実現に向けた研究
眞田 昌	分担	継続	革新的がん医療実用化 研究事業	BZM追加多剤併用療法の治療反応性予測マーカーの探索
眞田 昌	分担	新規	革新的がん医療実用化 研究事業	家族性/症候群合併白血病または二次がん発症者にみられる生殖細胞系列の分子病態の解析、および一般の小児白血病における生殖細胞系列バリエーションが発症及び臨床経過に与える影響の解析
眞田 昌	分担	継続	革新的がん医療実用化 研究事業	遺伝子解析(急性骨髄性白血病におけるPDXモデルで意義づけられた分子層別化システムの確立と臨床的実効性と有用性の検証)
島田 昌明	分担	継続	感染症実用化研究事業 肝炎等克服実用化研究事業 肝炎等克服緊急対策研究事業	症例の登録、臨床情報の解析(肝硬変患者の予後を含めた実態を把握するための研究)

永井 宏和	主任	継続	革新的がん医療実用化研究事業	Interim PETに基づく初発進行期ホジキンリンパ腫に対するABVD療法およびABVD/増量BEACOPP療法の非ランダム化検証的試験: JCOG1305試験
永井 宏和	分担	継続	革新的がん医療実用化研究事業	JCOG1111C試験の研究統括・調整と解析
永井 宏和	分担	新規	革新的がん医療実用化研究事業	ATLに対するHTLV-1標的樹状細胞ワクチン療法の医師主導治験の実施
橋本 大哉	分担	継続	臨床研究・治験推進研究事業	プロトコール作成、生物統計解析(難治性リンパ管異常に対するシロリムス療法確立のための研究)
長谷川 好規	分担	継続	難治性疾患実用化研究事業	IIPsにおけるクラウド型統合データベースを用いたインタラクティブなMDD診断システムの開発
蜂谷 敦子	分担	継続	感染症実用化研究事業 エイズ対策実用化研究事業	全国および東海ブロックにおける流行HIV株の動向調査研究
蜂谷 敦子	分担	新規	感染症実用化研究事業 エイズ対策実用化研究事業	HIV流行株の臨床ゲノム情報の公開と一般的利用に関する倫理的・社会的課題に関する研究
服部 浩佳	分担	継続	革新的がん医療実用化研究事業	難治性肉腫に対するワクチン併用TCR遺伝子改変T細胞輸注療法の実施(第I/II相治験の実施)
堀部 敬三	分担	継続	臨床ゲノム情報統合データベース整備事業	ゲノム医療の実装に資する臨床ゲノム情報統合データベースの整備と我が国の継続的なゲノム医療実施体制の構築
安田 貴彦	分担	継続	革新的がん医療実用化研究事業	遺伝子パネル開発

5) その他財団等からの研究費

研究者名	主任・分担	新規・継続	研究事業名 (依頼業者名)	研究課題名
安田 貴彦	主任	新規	一般社団法人 日本血液学会	AYA・成人B細胞性急性リンパ性白血病における新規サブタイプの同定
森田 恭成	主任	新規	公益信託 丸茂救急医学研究振興基金	本邦集中治療室における早期リハビリテーションとPost intensive care unit syndrome に関する多施設前向き観察研究
永井 宏和	分担	継続	自治医科大学	末治療症候性多発性骨髄腫に対するボルテゾミブ、シクロホスファミド、デキサメタゾンによる導入療法、自家末梢血幹細胞移植療法およびレナリドミドによる地固め療法・維持療法に関する有効性と安全性の検討(PIANO Study)
永井 宏和	分担	継続	昭和大学	限局性皮質異形成II型のでんかん発作に対するシロリムスの有効性及び安全性に関する無対照非盲検試験(医師主導治験)
永井 宏和	分担	継続	昭和大学	限局性皮質異形成II型のでんかん発作の前向きコホート研究
永井 宏和	分担	継続	岐阜大学	難治性・リンパ管疾患に対するNPC-12T(シロリムス)の有効性及び安全性を検討する多施設共同第III相医師主導治験
永井 宏和	分担	継続	難治性疾患等政策研究事業 代表 井上有史	希少難治性てんかんのレジストリ構築による総合的研究
永井 宏和	分担	継続	聖マリアンナ医科大学	クリゾチニブの再発または難治性小児ALK(anaplastic lymphoma kinase)陽性未分化大細胞型リンパ腫(anaplastic large cell lymphoma,ALCL)に対する第I/II相および再発または難治性神経芽腫に対する第I相医師主導治験
永井 宏和	分担	継続	大鵬薬品工業	高齢者化学療法未施行III/IV期扁平上皮肺癌に対するnab-Paclitaxel + Carboplatin併用療法とDocetaxel単剤療法のランダム化第III相試験
永井 宏和	分担	新規	ファイザー株式会社	日本における再発または難治性のCD22陽性小児急性リンパ性白血病患者を対象としたイノツズマブ オゾガマイシンの第I相試験
永井 宏和	分担	新規	中外製薬	再発又は難治性ALK陽性未分化大細胞リンパ腫患者を対象としたCH5424802の第II相試験(医師主導治験)
永井 宏和	分担	新規	ノーベルファーマ	続発性難治性気胸に対する滅菌調整タルクを用いた胸膜癒着術への第II相医師主導治験
永井 宏和	分担	新規	名古屋大学	ハイリスク4期神経芽腫に対するKIRリガンド不一致同種臍帯血移植についての臨床研究
永井 宏和	分担	新規	鹿児島大学	アジア共同基盤を用いた分類系統不明瞭な白血病(ALAL)に対する標準治療の開発
永井 宏和	分担	新規	中外製薬株式会社・日本新薬株式会社	再発濾胞性リンパ腫に対するobinutuzumabu + bendamustine併用の第II相試験
永井 宏和	分担	新規	金沢大学	Ptoshを用いた臨床試験開発・運用についてのデータマネジメント
永井 宏和	分担	新規	中外製薬株式会社	高齢者非扁平上皮非小細胞肺癌に対するカルボプラチンアテゾリズマブ併用後ペメトレキセド・アテゾリズマブ維持療法の第II相試験
永井 宏和	分担	新規	アステラス製薬株式会社	再発または難治性のFLT3遺伝子変異陽性急性骨髄白血病患者を対象とするMEC(ミトキサントロン/エトポシド/シタラビン)とギルテリチニブの逐次療法の非盲検、多施設共同、前向き介入試験の共同臨床研究

6) 民間セクターからの寄付金等

HOYA(株)	1 件
ジンマー・バイオメット合同会社	1 件
マルホ(株)	1 件
エーザイ(株)	3 件
協和発酵キリン(株)	2 件
興和創薬(株)	1 件
大鵬薬品工業(株)	4 件
武田薬品工業(株)	1 件
中外製薬(株)	6 件
日本血液製剤機構	1 件
ファイザー(株)	1 件

寄附金合計 22 件

## 11. 研修会・セミナーの開催実績

### ○臨床研究教育セミナー

回数	開催日	内容	講師(開催時の所属先)
第 78 回	2019/4/23	[第 1 部: DVD 上映] 統計解析 - 介入研究のデザイン - (2017/10/18 開催第 61 回)	嘉田晃子 (名古屋医療センター)
		[第 2 部: 口頭講演] 医薬品開発における規制と既承認医薬品情報の活用	浅田隆太 (岐阜大学)
第 79 回	2019/5/24	[第 1 部: DVD 上映] 医師主導治験、責任医師の役割 (2017/11/13 第 62 回)	永井宏和 (名古屋医療センター)
		[第 2 部: 口頭講演] 特定臨床研究の実施と院内の手続き	中山忍 (名古屋医療センター)
第 80 回	2019/6/20	[第 1 部: DVD 上映] レギュラトリーサイエンス戦略相談について (2017/5/17 第 57 回)	関水匡大 (名古屋医療センター)
		[第 2 部: 口頭講演] 統計解析結果を報告するときの注意点	橋本大哉 (名古屋医療センター)
第 81 回	2019/7/23	[第 1 部: DVD 上映] 統計解析 - 臨床研究におけるサンプルサイズの設定 - (2018/2/21 第 65 回)	橋本大哉 (名古屋医療センター)
		[第 2 部: 口頭講演] 臨床の疑問に適した研究デザインを選ぼう! - その看護ケア、科学的に検証してみませんか -	西山知佳 (京都大学)
第 82 回	2019/8/23	[第 1 部: DVD 上映] 臨床研究の品質管理と品質保証 (2017/12/20 第 63 回)	齋藤明子 (名古屋医療センター)
		[第 2 部: 口頭講演] 特定臨床研究の実際とマネジメント的な考え方	岩崎幸司 (大阪大学)
第 83 回	2019/9/12	[第 1 部: DVD 上映] 医薬品の審査～臨床試験が終わってから世の中で使われるようになるまで (2017/7/19 第 59 回)	浅田隆太 (岐阜大学)
		[第 2 部: 口頭講演] 白血病とゲノム情報～研究から診療へ～	真田昌 (名古屋医療センター)
第 84 回	2019/10/16	[第 2 部: DVD 上映] ゲノム医療 ～臨床に役立つゲノム医療とは～ (2018/9/10 第 71 回)	服部浩佳 (名古屋医療センター)

		[第2部:口頭講演]呼吸器領域における臨床研究の進め方	小暮啓人 (名古屋医療センター)
第85回	2019/11/12	[第1部:DVD上映]統計解析(基礎) (2018/11/12 第73回)	橋本大哉 (名古屋医療センター)
		[第2部:口頭講演]院内の臨床研究の活性化	永井宏和 (名古屋医療センター)
第86回	2019/12/17	[第1部:DVD上映]臨床の疑問に適した研究デザインを選ぼう! -その看護ケア、科学的に検証してみませんか- (2018/8/27 第70回)	西山知佳 (京都大学)
		[第2部:口頭講演]はじめての学会発表～失敗しないためのABC～	二村昌樹 (名古屋医療センター)
第87回	2020/1/20	[第1部:DVD上映]データマネジメント(基礎) (2019/1/21 第75回)	永谷憲司 (名古屋医療センター)
		[第2部:口頭講演] GCP 刷新(GCP renovation)のインパクト	小宮山靖 (ファイザーR&D 合同会社)
第88回	2020/2/12	[第1部:DVD上映]多施設共同試験の実施～研究調整医師・研究事務局の役割と業務の実際～ (2018/1/15 第64回)	中山忍 (名古屋医療センター)
		[第2部:口頭講演]臨床研究におけるP値の解釈	嘉田晃子 (名古屋医療センター)

○臨時臨床研究教育セミナー(DVD上映)

	開催日	内容	講師(開催時の所属先)
臨時	2019/4/15	臨床研究におけるデータ利用	小宮山靖 (ファイザー株式会社)
臨時	2019/4/16	人を対象とする医学系臨床研究に関する倫理指針について	平野隆司 (国立長寿医療研究センター)
臨時	2019/4/17	研究の活性化	土田尚 (国立病院機構本部)
臨時	2019/4/18	臨床の疑問に適した研究デザインを選ぼう! -その看護ケア、科学的に検証してみませんか-	西山知佳 (京都大学)

臨時	2019/4/22	ゲノム医療 ~臨床に役立つゲノム医療とは~	服部浩佳 (名古屋医療センター)
臨時	2019/4/25	臨床試験・臨床研究におけるRBMー実例紹介を交えてー	林行和 (エイツーヘルスケア株式会社)
臨時	2019/4/26	臨床研究の解析対象集団	嘉田晃子 (名古屋医療センター)
臨時	2019/6/26	特定臨床研究の実施と院内の手続き	中山忍 (名古屋医療センター)
臨時	2019/7/25	統計解析結果を報告するときの注意点	橋本大哉 (名古屋医療センター)
臨時	2019/8/28	臨床の疑問に適した研究デザインを選ぼう！ーその看護ケア、科学的に検証してみませんかー	西山知佳氏 (京都大学)
臨時	2019/9/27	特定臨床研究の実際とマネジメント的な考え方	岩崎幸司 (大阪大学)
臨時	2019/10/31	白血病とゲノム情報~研究から診療へ~	真田昌 (名古屋医療センター)
臨時	2019/11/26	呼吸器領域における臨床研究の進め方	小暮啓人 (名古屋医療センター)
臨時	2019/12/26	院内の臨床研究の活性化	永井宏和 (名古屋医療センター)
臨時	2020/1/29	はじめての学会発表~失敗しないためのABC~	二村昌樹 (名古屋医療センター)
臨時	2020/2/27	GCP 刷新(GCP renovation)のインパクト	小宮山靖 (ファイザーR&D 合同会社)

延べ参加人数は 1517 名(遠隔参加 646 名、名古屋医療センター会場受講 871 名)であった。

## 12. 治験（市販後臨床試験を含む）に関する実績

1) 契約件数：98 件（うち医師主導治験：11 件）

内訳

- ・前年度からの継続件数：65 件（うち医師主導治験：8 件）
- ・新規契約件数：33 件（うち医師主導治験：3 件）

2) 令和元年度に終了した治験の実施率：55.4%

### 13. 研究成果の発表実績

(1) 学会発表	：	国内	466 件	
		<u>国際</u>	<u>43 件</u>	
		合計	481 件	
(2) 論文発表	：	邦文	84 編	(うち筆頭著者 77 編)
		<u>欧文</u>	<u>144 編</u>	<u>(うち筆頭著者 23 編)</u>
		合計	228 編	(うち筆頭著者 100 編)

## II . 国立病院機構共同臨床研究

国立病院機構運営費交付金研究費  
令和元年度 国立病院機構共同臨床研究一覧

1. NHO ネットワーク共同研究

(グループリーダー研究費)

領域	研究課題名	研究代表者
血液	グループリーダー費	永井 宏和
小児・周産期	コ・グループリーダー費	二村 昌樹
エイズ	グループリーダー費	横幕 能行

(主任研究者)

領域	研究課題名	研究代表者
がん(一般)	乳癌特殊型の臨床・病理学的意義の解明および新分類の提唱	川崎 朋範
がん(呼吸器)	PD-L1強陽性根治切除不能進行・再発非扁平非小細胞肺癌に対するペムプロリズマブ療法とペムプロリズマブ+カルボプラチン+ペメトレキセド併用療法とのランダム化第2相試験	小暮 啓人
多施設共同	国立病院機構におけるがん領域バイオバンクの実行可能性に関する研究	齋藤 俊樹
がん(一般)	乳房温存と放射線非照射を両立する高精度断端検索システムの開発	西村 理恵子
小児・周産期	乳児期における栄養摂取と湿疹が食物アレルギー感作に及ぼす影響に関する出生コホート研究	二村 昌樹
血液	B細胞性急性リンパ性白血病におけるターゲットキャプチャーRNA-seqを用いたサブタイプ診断の実行可能性に関する研究	安田 貴彦

(分担研究者)

領域	研究課題名	研究代表者	研究分担者
血液	末治療濾胞性リンパ腫におけるObinutuzumabの治療成績、QOL、費用対効果、予後に関する多施設前向きコホート研究(PEACE-FL)	堤育代 (水戸医療センター)	飯田 浩充
心脳大血管	虚血性脳卒中患者における脳微小出血進展への抗血栓薬の関与に関する研究	中村麻子 (九州医療センター)	奥田 聡
外科	本邦における成人鼠径ヘルニア術後慢性疼痛の実態調査とリスク因子解析 -多施設共同前向きコホート研究-	成田匡大 (京都医療センター)	片岡 政人
多施設共同	メトトレキサート(MTX)関連リンパ増殖性疾患の病態解明のための多施設共同研究	星田義彦 (大阪南医療センター)	片山 雅夫
免疫・アレルギー	喘息診療の実態調査と重症喘息を対象としたクラスター解析によるフェノタイプ・エンドタイプの同定	太田健 (東京病院)	坂 英雄
消化器	原発性胆汁性肝硬変の発症と重症化機構の解明のための多施設共同研究	中村稔 (長崎医療センター)	島田 昌明
消化器	日本人自己免疫性肝炎(AIH)に関する分子疫学研究	右田清志 (長崎医療センター)	島田 昌明
消化器	薬物性肝障害および急性発症型自己免疫性肝炎を含む急性肝炎の発生状況および重症化、劇症化に関する因子に関する研究	山崎一美 (長崎医療センター)	島田 昌明
消化器	消化器内視鏡洗浄の標準化を目指した洗浄工程の見直しに関する多施設共同研究	榑原祐子 (大阪医療センター)	島田 昌明
消化器	B型慢性肝疾患に対する核酸アナログ長期投与例の課題克服および電子的臨床検査情報収集(EDC)システムを用いた多施設大規模データベースの構築	石田永 (大阪医療センター)	島田 昌明

領域	研究課題名	研究代表者	研究分担者
消化器	体幹部定位放射線療法後の潜在的Abscopal効果による幹細胞癌再発抑制:探索的観察研究	小森敦正 (長崎医療センター)	島田 昌明
がん(一般)	免疫組織学的バイオマーカーによる子宮間葉性腫瘍の予後予測法の確立に関する研究:PRUM-Ibio study	林琢磨 (京都医療センター)	中西 豊
多施設共同	メトトレキサート(MTX)関連リンパ増殖性疾患の病態解明のための多施設共同研究	星田義彦 (大阪南医療センター)	西村 理恵子
免疫・アレルギー	喘息診療の実態調査と重症喘息を対象としたクラスター解析によるフェノタイプ・エンドタイプの同定	大田健 (東京病院)	橋本 大哉
小児・周産期	早期新生児期の鶏卵摂取による即時型鶏卵アレルギーの発症予防効果のランダム化比較試験による検証	佐藤さくら (相模原病院)	二村 昌樹
内分泌・腎疾患	わが国における日常診療での甲状腺機能異常症の早期診断・治療のための臨床指標の新規確立	田上哲也 (京都医療センター)	山家 由子
内分泌・腎疾患	ヒト糖尿病性腎症(糸球体硬化症)の予防を目指す研究:感受性遺伝子の同定と生活環境因子の影響	服部正和 (京都医療センター)	山家 由子
循環器	真の心房細動再発リスク同定のための新規バイオマーカーCA-125の検討	関口治樹 (横浜医療センター)	山下 健太郎
循環器	左室機能の保たれた非閉塞型肥大型心筋症における心不全と睡眠時無呼吸症候群との関連性に関する研究	網代洋一 (横浜医療センター)	山田 高彰
内分泌・腎疾患	大規模糖尿病・肥満症コホートを生かした認知機能低下・認知症発祥の余地因子の解明(JOMS/J-DOS2)	浅原哲子 (京都医療センター)	山田 努

## 2. 指定研究

課題略称	研究課題名	研究代表者
NKT	Ⅱ-ⅢA期非小細胞肺癌完全切除症例を対象とした $\alpha$ GalCer-pulsed 樹状細胞療法ランダム化第Ⅱ相試験	坂 英雄

## 3. EBM 研究

課題略称	研究課題名	研究代表者	研究分担者
H31-EBM-02	PD-L1高発現の非扁平非小細胞肺癌に対するペムブロリズマブとペムブロリズマブ+カルボプラチン+ペメトレキセドのランダム化第3相試験	小暮 啓人 (名古屋医療センター)	小暮 啓人
NGSMM	未治療多発性骨髄腫における遺伝子解析による治療感受性・予後予測因子の探索的研究	神谷悦功 (東名古屋病院)	飯田 浩充
NHODR	国立病院機構認知症登録研究(The NHODR study)～認知症介護状況の実態調査と予後への影響～	重松一生 (南京都病院)	岡田 久
CPI	免疫抑制患者に対する13価蛋白結合型肺炎球菌ワクチンと23価莢膜多糖体肺炎球菌ワクチン単独接種の有効性の比較—二重盲検無作為化比較試験—	丸山貴也 (三重病院)	片山 雅夫
Elucidator	第三世代EGFR-TKIオンメルチニブ治療における血漿循環腫瘍DNAを用いた治療耐性関連遺伝子スクリーニングの前向き観察研究	田宮朗裕 (近畿中央呼吸器センター)	坂 英雄
G-FORCE	日本人の肥満症の発症と治療効果・抵抗性に関連する遺伝素因の探索—オーダーメイド医療の確立—	浅原哲子 (京都医療センター)	山田 努

## ネットワーク共同研究グループ

(グループリーダー活動報告)

NHO ネットワーク共同研究グループ (血液疾患領域)

NHO ネットワーク共同研究グループ (エイズ領域)

NHO ネットワーク共同研究グループ (小児・周産期領域)

### NHO ネットワーク共同研究グループ (血液疾患領域)

グループリーダー 永井 宏和

国立病院機構臨床研究事業は全国 141 施設の国立病院機構のネットワークを活用し、診療の科学的根拠となるデータを集積し、エビデンスの形成し、本邦の医療の質の向上を目指している。NHO ネットワーク共同研究はこの臨床研究事業の中心となっている。血液グループでは、血液腫瘍性疾患の臨床試験、支持療法の臨床試験、血液良性疾患の臨床試験、疫学研究などを推進している。血液疾患グループは全国 31 施設で構成されており、グループリーダー施設を当院が担当している。グループリーダーは、血液グループの臨床研究の統括・推進を行う。毎年度 2 回、進行中の臨床試験・今後の研究方針・グループ運営に関して討議するグループの全体会議を主催している。

血液グループの特徴として看護ネットワークの構築がある。医療の質の向上は医師のみによって達成されるものではなく、看護部門をはじめとする他部門のレベルアップも必須である。そのため、看護研究を全国的規模で行うためのプラットフォームとして血液看護ネットワークを組織している。

#### NHO 共同研究血液グループにて行っている臨床試験

「高齢者びまん性大細胞型B細胞リンパ腫の治療実態の調査、および治療戦略の開発」  
主任研究者：永井宏和 (名古屋医療センター)

「NHO血液・造血器疾患ネットワーク参加施設に新たに発生する多発性骨髄腫の予後に関する臨床的要因を明らかにするコホート研究」  
主任研究者：米野琢哉 (水戸医療センター)

「R-GDP療法に関する「再発又は難治性の高齢者びまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対する第II相試験」  
主任研究者：山崎聡 (九州医療センター)

「多発性骨髄腫の遺伝子異常と治療効果および予後に関する研究」  
主任研究者：角南一貴 (岡山医療センター)

「加齢性Epstein-Barr virus関連リンパ増殖性疾患におけるPD-1/PD-L1シグナルの病態への関与と予後予測に関する解析」  
主任研究者：國富あかね (名古屋医療センター)

「成人初発未治療びまん性大細胞型B細胞リンパ腫におけるR-CHOP単独治療と放射線併用療法の治療成績、QOL、費用、費用対効果の多施設共同前向きコホート研究」  
主任研究者：太田育代（水戸医療センター）

「高齢者移植非適応再発・難治末梢性T細胞リンパ腫に対するゲムシタビン、デキサメサゾン、シスプラチン（GDP）療法＋ロミデプシン療法の第II相試験」  
主任研究者：山崎聡（九州医療センター）

B細胞性急性リンパ性白血病におけるターゲットキャプチャーRNA-seqを用いたサブタイプ診断の実行可能性に関する研究（NHOH-RNAseq-BALL）  
主任研究者：安田貴彦（名古屋医療センター）

未治療濾胞性リンパ腫におけるObinutuzumabの治療成績、QOL、費用対効果、予後に関する多施設前向きコホート研究（PEACE-FL）  
主任研究者：太田育代（水戸医療センター）

〈会議・研修会〉

令和元年度第1回血ネットワークグループ会議・看護ネットワーク会議

令和元年6月7日：名古屋医療センター

令和元年度第2回血液ネットワークグループ会議

令和元年11月8日：安保ホール

## NHO ネットワーク共同研究グループ（エイズ領域）

コ・グループリーダー 横幕 能行

エイズ領域（以下エイズ・グループ）では、本邦のエイズ診療ブロック拠点である仙台医療センター、名古屋医療センター、大阪医療センターそして九州医療センターが中心となり現在 21 施設が参加している。昨年度は、総計年約 400 名の新たな HIV 感染者がエイズ・グループの病院において診断され治療を受け、診療の均てん化が進みつつあるものの、この数は我が国の新規 HIV 感染者のおよそ 25 %に相当し、エイズ・グループは本邦のエイズ診療を支える中心的な医療ネットワークとして活動している。

エイズ・グループは HIV 感染者の診断・治療だけでなく、豊富な症例数を元に多くの臨床的・基礎的研究についても積極的に取り組んでいる。

NHO ネットワーク研究では「UGT1A1 遺伝子多型のドルテグラビル血中濃度に及ぼす影響に関する研究」、「感染早期患者に対する MVC を加えた強化療法の効果と安全性に関する研究」、「特徴的な高サイトカイン血症を呈する HIV-1 感染者に関する調査研究」などの先進的な取り組み、また「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究」班（名古屋医療センター 横幕能行：厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業）、「服薬アドヒランス向上に関する研究」班（大阪医療センター 白阪琢磨：AMED エイズ対策実用化研究事業）、「国内で流行する HIV とその薬剤耐性株の動向把握に関する研究」班（国立感染研究所 菊池正：AMED エイズ対策実用化研究事業）などの全国規模の研究班とも活発に連携し活動している。

その中で、名古屋医療センターは NHO エイズ・グループのコ・リーダーとしてもう一つのコ・リーダーである大阪医療センターと協力しながらグループの研究活動において主導的な役割を果たしている。

### 【会議】

2019 年度 NHO ネットワーク共同研究 第 1 回エイズグループ会議

2019 年 6 月 14 日（金）：AP 東京八重洲通り 7 階 会議室 R

2019 年度 NHO ネットワーク共同研究 第 2 回エイズグループ会議

2020 年 2 月 7 日（金）：AP 東京八重洲通り 10 階 会議室 X

## NHO ネットワーク共同研究グループ（小児・周産期領域）

グループリーダー 二村 昌樹

小児・周産期グループ（旧成育グループ）は、小児・新生児科、産婦人科、小児外科と多岐にわたる領域の研究グループであり、全国 42 施設が参加している。2018 年度からは名古屋医療センターがリーダー施設を務めている。また、2019 年度からは、ネットワークグループの再編により「成育領域」より「小児・周産期領域」と名称が改正された。

特に少子高齢化が危惧されている我が国においては、小児・周産期領域の臨床研究によるエビデンス構築により、多くの子どもたちの疾患治療ならびに発症予防方法の確立が我々のグループに課せられた責務と考えている。

小児・周産期グループでは年 2 回のグループ会議を開催し、各領域のミーティングを含めた活発な議論によって新規ならびに継続研究課題のブラッシュアップを行っている。また新たな主任研究者の育成を念頭に、グループ会議では臨床研究の基礎知識を習得するためミニ講義や配布資料の充実を図っている。

### 【2019 年度実施の研究課題】

「乳児期における栄養摂取と湿疹がアレルギー感作に及ぼす影響に関する出生コホート研究」

主任研究者：二村昌樹（名古屋医療センター）

「胎児のホルモン異常と停留精巣発生リスクに関する研究」

主任研究者：生野猛（小倉医療センター）

「NICU 共通データベースを利用した SGA（Small-for-Gestational Age）児における頬粘膜 DNA メチル化と生活習慣病の関連に関する研究」

主任研究者：山澤一樹（東京医療センター）

「乳幼児の即時型鶏卵アレルギーに対する新生児早期の母の鶏卵摂取による発症予防効果のランダム化比較試験による検証」

主任研究者：佐藤さくら（相模原病院）

「日本人妊娠糖尿病既往女性の産褥 5 年の糖尿病発症の実態と発症関連リスク因子および予防的因子の解明」

主任研究者：安日一郎（長崎医療センター）

「NICU 共通データベースから見た成育医療における周産期医療の評価と異常に対する早期発見、介入の確立に関する研究」

主任研究者：盆野元紀（三重中央医療センター）

「West 症候群発病後の発達障害出現に関わる後天的要因の研究」

主任研究者：高橋 幸利 先生（静岡てんかん・神経医療センター）

「人工知能を用いた分娩時大量出血症例における凝固障害の病態解明と新しい産科 DIC スコアの開発」

主任研究者：多田 克彦 先生（岡山医療センター）

「国立病院機構小児科における定期的小児アレルギーチーム派遣が食物アレルギー診療に与えるインパクトの検討」

主任研究者：本村 知華子 先生（福岡病院）

#### 【会議】

2019 年度第 1 回小児・周産期ネットワーク共同研究 グループ会議

2019 年 7 月 5 日（金）：名古屋医療センター外来管理棟 5 階 特別会議室

2019 年度第 2 回小児・周産期ネットワーク共同研究 グループ会議

2019 年 12 月 6 日（金）：名古屋医療センター外来管理棟 5 階 特別会議室

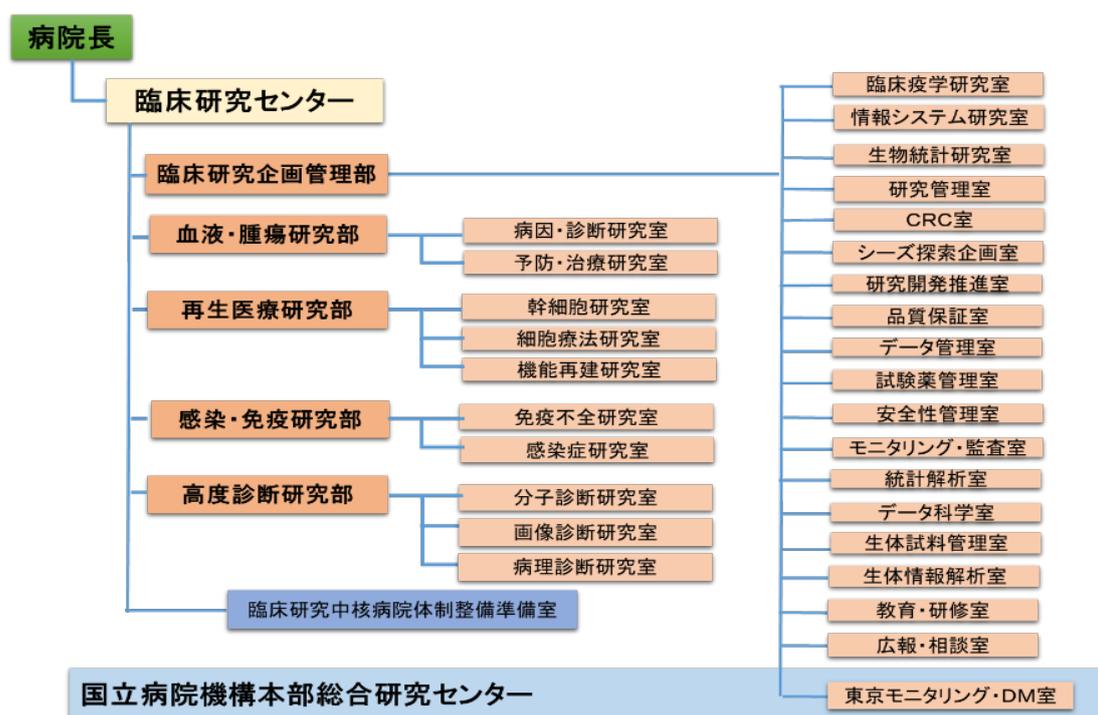
### Ⅲ . 研究実績

# 臨床研究センター

平成 14 年に臨床研究部より臨床研究センターに再編された。平成 25 年 4 月に臨床研究中核病院整備事業（平成 27 年度より臨床研究品質確保体制整備事業）の対象に選定されて以来、平成 29 年度まで 5 年間にわたり、国際標準の臨床研究・医師主導治験の実施と支援に取り組んできた。当事業で培った Academic Research Organization (ARO)機能を充実し、国立病院機構での臨床研究の推進するため、平成 30 年 7 月に 5 部 29 室とし本部総合研究センターと連携した組織改編が行われた。ARO 機能は臨床研究企画管理部に実装された。医師主導治験 10 件を主導的に実施してきている。これらの医師主導治験の結果に基づきブレンツキシマブ ベドチンの小児用法用量追加を含む承認事項一部変更承認され、アレクチニブの再発再燃 ALK 陽性未分化大細胞型リンパ腫に対する適応拡大が承認された。臨床研究品質確保体制整備事業の成果目標が達成できたものとする。ARO は国立病院機構だけではなく、アカデミアなどを対象に広く研究者主導の臨床試験の支援を行い、日本におけるエビデンス創出に貢献している。

また、血液疾患領域やエイズ領域を中心に先進的研究活動を推進するとともに、NHO のネットワークを生かしながら、院内の診療部門と連携して医療の質の向上に資する研究を推進している。感染・免疫研究部は、名古屋大学大学院連携講座「免疫不全統御学講座」を担当しており、エイズ研究を中心とした臨床研究拠点として名古屋大学の研究分野を補完し、同領域の教育拠点を担っている。高度診断研究部では、AMED 臨床ゲノム情報統合データベース整備事業を通じて京都大学および東京大学医科学研究所と連携したゲノム解析センターが一層整備され、精力的に網羅的な遺伝子解析研究を行っている。本事業で構築した造血器腫瘍の臨床ゲノム情報データベース(Knonc)は造血器腫瘍としては世界最大級となっており、今後の利活用が期待される。また、クリニカルシーケンス体制やバイオバンクを整備し、保険診療下のがんゲノム医療を見据えた院内体制の構築を進めている。

(臨床研究センター組織体制図)



## 臨床研究企画管理部

平成 25 年 10 月に臨床研究事業部として整備され、平成 30 年 6 月まではシーズ探索企画室、研究開発推進室、データ管理室、試験薬管理室、品質保証室、モニタリング支援室、統計解析室、安全性情報室、データ科学室、生体試料管理室、生体情報解析室、細胞培養加工室、教育・研修室、広報・相談支援室、研究管理室の 15 室で運営されている。平成 30 年 7 月より、組織改編に伴いこれまで臨床試験研究部として活動を行っていた臨床疫学研究室、臨床研究支援室、情報システム研究室、生物統計研究室と統合し新たに臨床研究企画管理部として再編がなされた。

国立病院機構 (NH0) の全国病院ネットワークをいかして、ICH-GCP 準拠の臨床試験、希少疾患等開発しにくい分野での医師主導治験、市販薬の組合せ等により最適な治療法を見出す臨床試験を迅速、高品質かつ低コストに実施できる体制を整備し、医師主導治験および国際水準の臨床試験を実施・支援する。また、臨床研究中核病院体制準備事業を着実に推進していくため、NH0 外での連携強化を図りながら活動を実施している。

また、名古屋医療センター内で実施される各種臨床研究の支援および推進を図っている。研究者交流および情報公開のための企画運営を行い、院内のみならず、近隣の医療機関・研究機関、および、一般市民への情報発信に努めている。

(研究概要)

乳癌新規治療法に関する研究

進行再発乳癌の化学療法に関する研究

乳癌治療成績向上に関する研究

消化器がん治療に関する研究

食道癌に対する放射線化学療法第Ⅱ相試験に関する研究

潰瘍性大腸炎の新規内科的治療に関する研究

高齢者悪性リンパ腫の化学療法における RDI の維持に関する研究

悪性リンパ腫治療に関する研究

「血液造血器疾患を有する成人感染症に対する抗菌剤の有用性」に関する研究

造血幹細胞移植に関する研究

「血液造血器疾患の疫学調査研究」に関する研究

小児造血器疾患に関する研究

脳卒中に関する研究

下垂体機能低下症に関する研究

関節リウマチに関する研究

関節リウマチに対する生物学的製剤に関する研究

シェーグレン症候群の診断に関する研究

HIV, HCV 重複感染の病態と治療に関する研究

光干渉による非接触型眼軸測定装置によるパーソナル A 定数構築に関する研究

## 1. 各研究室の紹介

### 臨床疫学研究室

臨床疫学研究室は、成人・小児血液疾患をはじめ、エイズ、肺がん、てんかんなど幅広い疾患領域における疫学研究や臨床研究を企画・推進し、根拠(Evidence)の創出を目指した質の高いデータを導くため、研究デザイン及び質確保に関する方法論の検討を行った。

国立病院機構の血液ネットワークグループに対して、疾患登録のシステムを構築し、血液・造血器疾患の発生数、治療法と予後に関する実態把握が可能になっている。この情報を基に、リンパ腫や骨髄腫などを中心とした治療開発研究や、これに患者の生活の質(QOL)や経済解析などを組み合わせた臨床試験の企画・実践に繋げるなど、疫学研究と臨床研究を有機的に融合させる仕組みの構築と実用化を行った。平成26年より国立病院機構内施設で行われる血液疾患以外の疾患ネットワーク研究グループ(呼吸器、循環器、消化器、重心、成育など)の研究についても、プロトコル立案段階から研究デザインも含め支援している。

名古屋医療センター臨床研究センターの臨床疫学研究室は、情報システム研究室や生物統計研究室と共に、特定非営利活動法人臨床研究支援機構(NPO-OSCR)などと協同で、国立病院機構外の施設も含む研究団体(日本小児血液・がん学会、日本血液学会、日本小児がん研究グループ(JCCG)血液腫瘍分科会(JPLSG)、他)の臨床研究支援も行っているが、その業務手順の整備、効率化、標準化に関する教育的支援や、データ管理の方法論に関する研究活動は当研究室が担当している。昨年度に引き続き本年度も、データ管理の方法論について、積極的に研究発表を行った。

臨床研究や疾患登録事業は、医療の質向上に不可欠であるが、その方法論やデータ管理が不適切である場合、質の高いEvidence創出は期待出来ない。今後も重要性を認識しつつ実務と研究活動を推進していく予定である。

### 研究概要

- ・血液・造血器疾患、てんかん、成育、エイズ、呼吸器、循環器、消化器、重症心身障害などを有する患者を対象とした多施設共同研究(疫学研究や臨床研究)の企画と推進
- ・臨床研究デザインに関する研究
- ・臨床試験の品質管理と品質保証に関する研究
- ・希少疾患の臨床試験方法論に関する研究
- ・医療の質を評価するアウトカム研究の企画と推進

### 情報システム研究室

臨床研究に関わる下記のITシステム開発・運用を行っている。

- ・電子的データ収集(EDC)システム Ptosh
- ・がん臨床ゲノム情報データベース Knonc

### 生物統計研究室

生物統計研究室では、希少難治性疾患等に関する臨床研究のデザインに関する研究を行い、実際の臨床研究に展開している。希少疾患領域においては、対象者数が少ないため検証的な試験を実施するのが困難な場合が多い。そこで、疾患登録から観察研究や介入研究へ展開するデザインや外部対照群の利用を検討している。

### 研究概要

生物統計研究室

- ・ 血液・造血器疾患、希少疾患等の臨床研究における研究計画作成協力と統計解析の実施  
医師主導治験（小児血液、呼吸器、希少難治性てんかん）や疾患ネットワーク研究グループ（血液、呼吸器、循環器、成育など）の研究について、研究デザイン、症例数、解析方法等の設定や、統計解析を実施した。
- ・ 脳卒中の医療体制の整備のための研究  
平成 23 年度の DPC データから全国規模で脳卒中に関する分析を継続している。6 年間のデータを用いて、包括的脳卒中センターの要件を表す CSC(Comprehensive Stroke Center)スコアの改善が脳梗塞の転帰改善に寄与していることを明らかにした。
- ・ 臨床研究デザイン  
疾患登録を利用する研究デザインとして、「限局性皮質異形成 II 型のてんかん発作に対するシロリムスの有効性と安全性に関する無対照非盲検試験」に外部対照群を設定し、統計解析計画を検討した。

## 研究管理室

GCP の理念である治験における倫理性、科学性、信頼性を確保しながら、質の高い治験を推進すべく、室員が一丸となって業務に当たっている。また、2007年より厚生労働省の「新たな治験活性化5カ年計画」における「治験拠点医療機関」（国立病院機構枠）の指定を受け、現在「臨床研究・治験活性化協議会参加機関」として、我が国の臨床研究・治験推進の一翼を担っている。

### 1. 沿革

- 1999年10月 治療棟東南の地下に治験管理室が完成。
- 2002年10月 臨床研究センター政策医療企画研究部本治験管理室に所属替え
- 2010年 4月 臨床研究支援室に名称変更。
- 2011年 4月 治験ユニット、臨床研究ユニット設置。
- 2012年 6月 臨床研究センターの4階に移転。
- 2013年12月 治験ユニット、臨床研究ユニット廃止し、治験事務局部門、臨床研究事務局部門、CRC 部門に再編。  
臨床研究センターの4階改装のため、外来管理診療棟2階に仮移転。
- 2014年 4月 臨床研究センターの4階改装完成、移転。
- 2015年 3月 臨床研究審査委員会が倫理審査委員会認定制度構築事業で厚生労働省より認定。
- 2017年 4月 治験の品質確保を図るため、LDM の配置を行い、CRC との業務の棲み分けを実施。
- 2017年 8月 再生医療等の安全性の確保等に関する法律第26条第4項の規定により特定認定再生医療等委員会の認定を受け、研究管理室に当該委員会事務局を設置。
- 2018年 3月 臨床研究法第23条第4項により臨床研究審査委員会の認定を受け、研究管理室に当該委員会事務局を設置。これまでの統合指針下の臨床研究審査委員会は研究倫理審査委員会に名称変更、当該委員会事務局名称も同様に変更。
- 2018年 7月 臨床研究支援室を CRC 室と研究管理室に再編。
- 2018年11月 カット・ドゥ・スクエア（以下、CtDoS2）を導入し電磁化を開始

### 2. 組織

2019年4月1日現在、研究管理室の構成は以下の通りである。

- ・研究管理室室長 1名（医師(併任)）
- ・研究管理室副室長 2名（医師(併任)、管理課(併任)）
- ・常勤室員 8名（医師1名(併任)、薬剤師3名(内、併任1名)、事務員4名(内、併任2名)）
- ・非常勤事務員 7名

月1回原則として第3月曜日に CRC 室員と研究管理室員に加え、臨床検査科副技師長と放射線科副技師長の参加の元に治験推進連絡会を開催し、治験、臨床研究に関わる問題の検討を行っている。

### 3. 受託研究契約・実施状況

#### (1) . 治験

治験（製造販売後臨床試験を含む）の契約件数について、年度毎の新規受託契約数を表1に示す。2019年度の新規治験・製造販売後臨床試験の受託件数が33件と、昨年度と同様な件数であった。2019年度の傾向としては、国立病院機構本部からの紹介課題（CRB 課題）が前年度より増加したこと、および新規治験を受託した診療科数が、7診療科から9診療科に増加したことが挙げられる。また、医療製品の企業治験を初めて1件受託した。

次に、年度毎の契約課題数（新規契約課題数＋継続契約課題数）を図1に示す。2020年3月末の時点で稼働している課題数は98件と特に大きな変化はない。

治験の終了件数と実施率（製造販売後臨床試験を除く）の推移を図2に示す。2019年度の実施率は55.4%と低く、目標とする水準（70%）を下回っている。実施率が低いことで、新規受託時の選定調査時などで指摘され実施につながらない恐れもあることから早急に実施率を向上させる対策を必要がある。

受託契約全体（治験、製造販売後臨床試験、製造販売後調査等）の契約金額を図3に示す。約1億7000万円と昨年度と比較し減少した。減少した要因の一つとして2018年度は治験薬投与の新規登録患者数が56名であったが、2019年度は38名に減少しており、治験の新規登録患者数が大きな要因であると考えられる。今後、当院において治験を実施していることを患者さんだけでなく、一般の方にも知ってもらおう試みを実施していきたい。

表1. 治験・製造販売後臨床試験の新規契約件数

	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
課題数	35	27	31	31	33
国内	22	16	14	16	13
国際共同	13	11	17	15	20
医師主導	2	3	2	3	3
企業治験	33	24	29	28	30
IRB 課題	27	22	30	27	24
CRB 課題	8	5	1	4	9
製販後	1	1	0	0	2
第 I 相	5	4	3	4	4
第 I・II 相	0	2	2	2	2

第Ⅱ相	4	7	5	10	7
第Ⅱ・Ⅲ相	2	0	1	0	1
第Ⅲ相	22	13	18	14	17
医療機器	1	0	0	0	0
拡大治験			1	1	0

図1. 治験・製造販売後臨床試験の実施状況

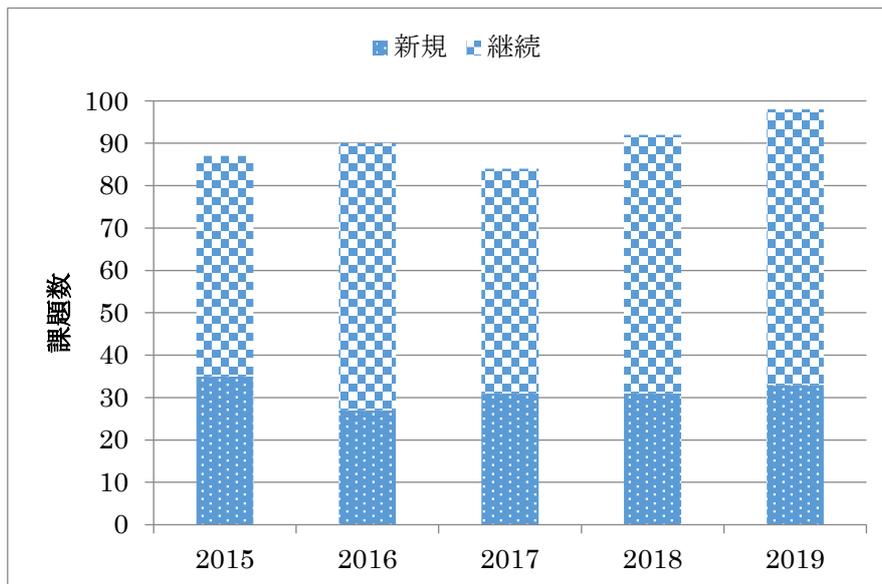


図2. 治験の終了件数と実施率

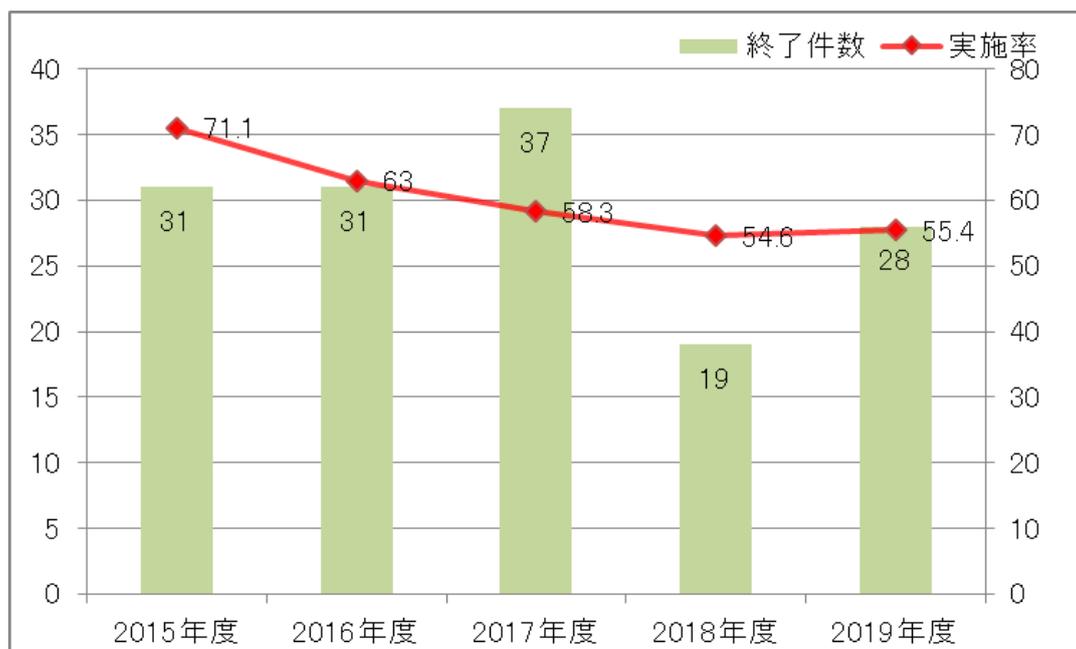
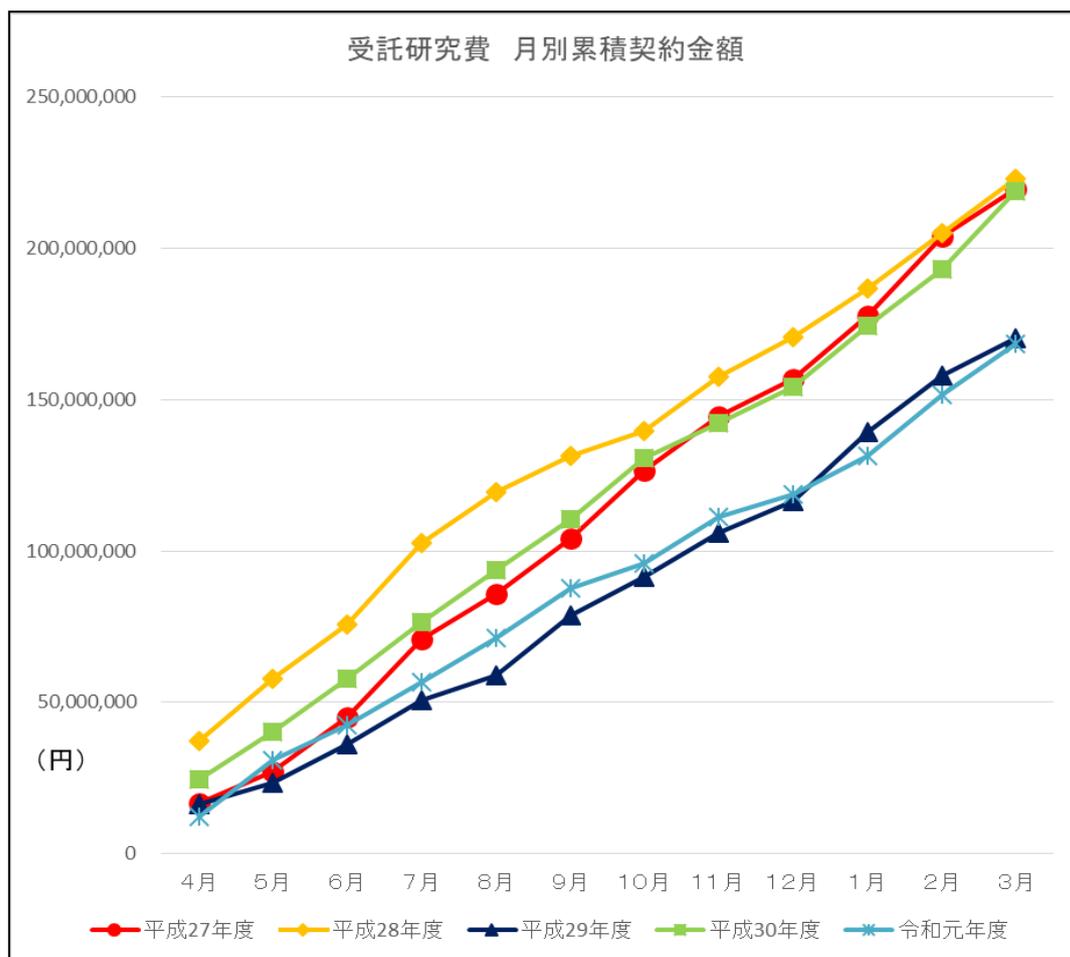


図3. 治験・製造販売後臨床試験の契約金額



#### 4. 臨床研究実施状況

##### (1) . 特定臨床研究の実施状況

臨床研究法施行から1年経過後となる2019年度の特定臨床研究の実施は89件、うち9件が新規に jRCT 公表にて研究実施となった。(表2)

当院の認定臨床研究審査委員会で新規審査を受託した件数は、特定臨床研究9件(自施設が参加しない課題1件)であった。

当院の認定臨床研究審査委員会においては、国立病院機構東海北陸地域の医療機関からの審査受託を受ける役割であるが、2019年度の当該地域からの新規審査依頼は1件のみであり、引き続き特定臨床研究等についての審査依頼及び相談等に対応する。

表2. 特定臨床研究の実施状況 (2018年度)

	代表機関	実施件数(jRCT 公表)
新規課題	当院	1
	他機関	8
継続課題	当院	3
	他機関	77
合計		89

## (2) . 臨床研究の新規申請件数及び総実施件数（特定臨床研究を含む）

2019年度の新規申請された臨床研究は105件、そのうち臨床研究法の適応範囲に該当する介入研究は15件、手技等による介入研究（法対象外）0件及び観察研究は90件であった。臨床研究法の適応範囲に該当する介入研究の15件については、臨床研究法の努力義務に相当する研究はなく特定臨床研究のみであった。また、2019年度に研究終了となった課題は74件（臨床研究法の適応範囲に該当する介入研究2件、法対象外の介入研究0件及び観察研究72件）であった。

新規申請件数は、前年度より約20%減少（図4）しており、臨床研究法での一括審査の対応において各研究での参加機関の厳選や、非特定臨床研究の申請の動きがなかったことが影響していると思われる。

2019年度の臨床研究の総実施件数は475件、うち特定臨床研究90件（19%）、非特定臨床研究22件（5件）、観察/介入（法対象外）研究は363件（76%）であり、割合において前年度から大きな変化はない。法対象外の介入研究には、手術手技の他、再生医療法で実施している研究課題が1件含まれている。また、全体の76%と多くを占める観察/介入（法対象外）研究のうち、当院が代表機関を担う研究課題は約1/3であった。（図5）

2019年度は2018年度での臨床研究法への経過措置対応に追われた状況の影響も大きく、前半は新規課題の検討・申請が進まない状況にあったが、後半において少しずつ申請がされたが件数の伸びは少なかった。今後、統合指針の改正もあり、臨床研究に対する相談にも積極的に対応し、院内・院外に関わらず臨床研究の新規依頼の増加に努める。

図4. 臨床研究の新規申請件数の推移

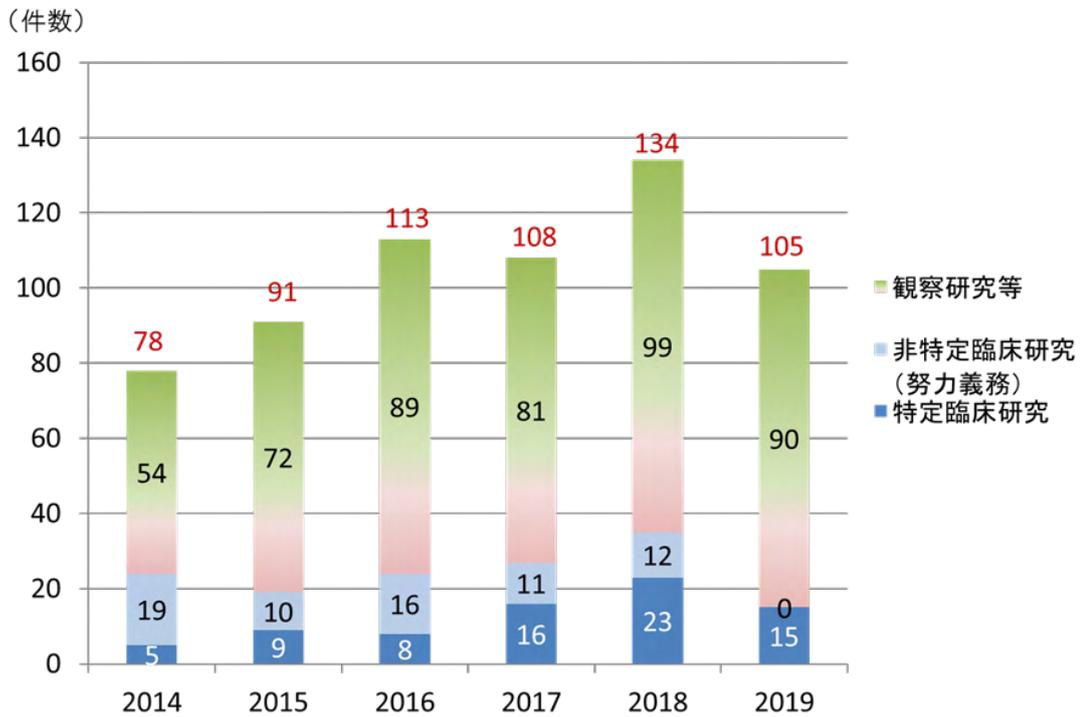
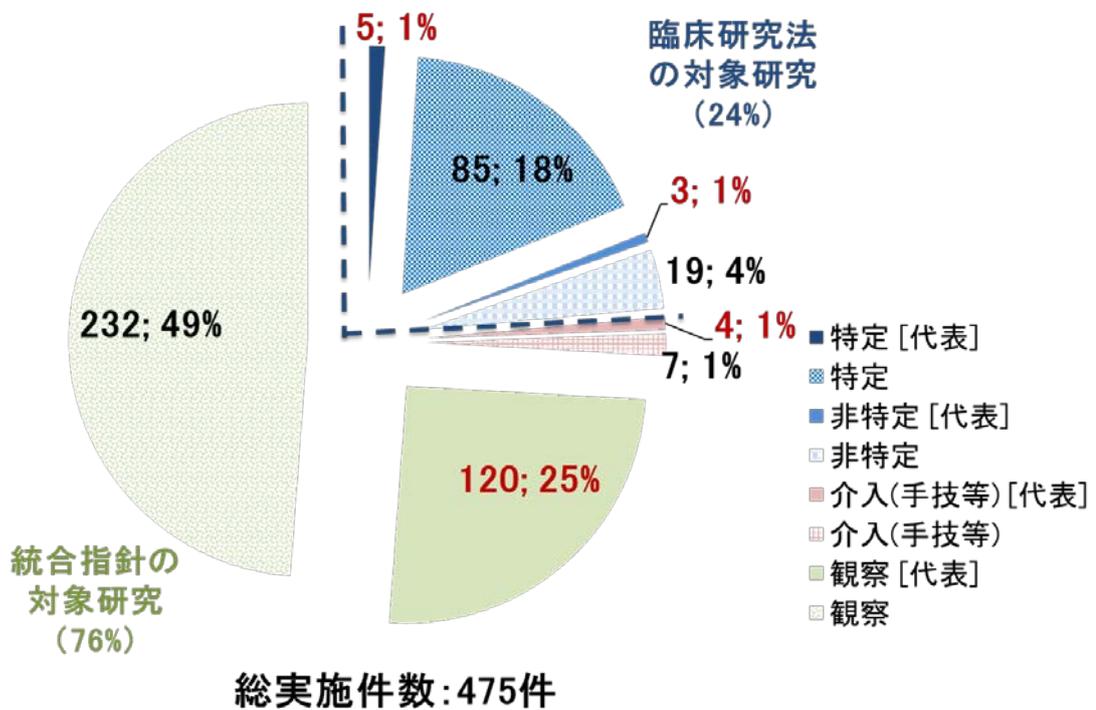


図5. 2019年度 臨床研究実施件数



## 5. 臨床研究ライセンス管理

2019年度の臨床研究ライセンス取得者数は715人、そのうち新規取得者は142人であった。また、臨床研究ライセンスの更新においては、600人（88.9%）が更新を行った。

2019年度は臨床研究ライセンス更新条件の一つである臨床研究教育セミナーの受講の機会を増やすために、日中に臨床研究教育セミナーの再DVD上映を行った。2019年度、813人の者が臨床研究教育セミナーを受講した。

## CRC 室

CRC 室では、名古屋医療センターで実施している臨床研究や治験が円滑に遂行するため、CRC が臨床研究・治験における研究者の支援、患者さんのサポート、関連する部門との調整、治験依頼者の対応といった多岐にわたる業務を行っている。

### 1. 組織

2019年4月1日現在、CRC 室の構成は以下の通りである。（2018年7月1日に臨床研究支援室からCRC 室と研究管理室に再編）

- ・CRC 室長（腫瘍内科医長）
- ・CRC 副室長（薬剤部長，副看護部長）
- ・主任薬剤師 1名，薬剤師 1名，
- ・副看護師長 2名，看護師 7名，非常勤看護師 1名
- ・臨床検査技師 2名，非常勤臨床検査技師 1名
- ・非常勤事務員 1名

### 2. 実施状況

#### （1）． 治験の支援

企業治験のみならず医師主導治験の支援も積極的に行っている。また、第 I 相試験や国際共同治験を積極的に受託している。年間あたりの新規治験課題数は約30課題を受託し、常に90～100課題の治験の支援を行っている。

治験支援体制はチーム制で業務を行っており、チームで被験者や研究者の支援・CRC スキルアップできる体制としている。

症例集積性の向上のため、下記に掲げる取組みを行ってきた。

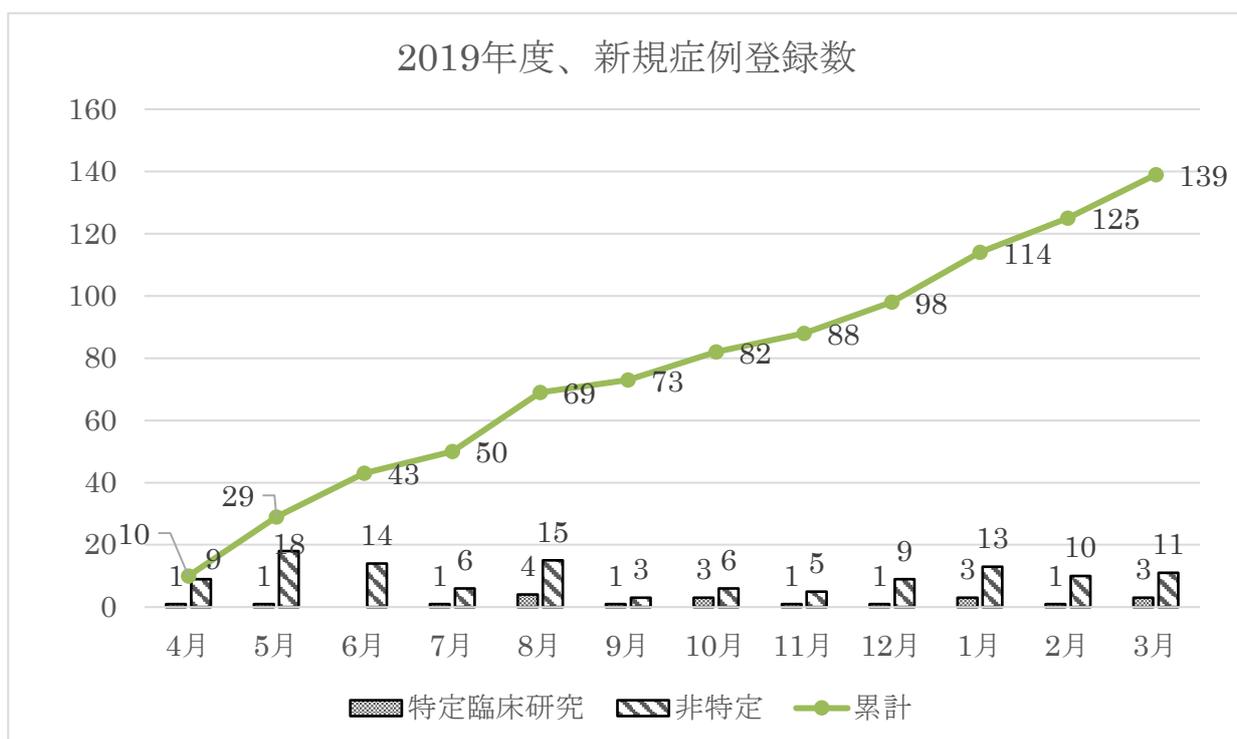
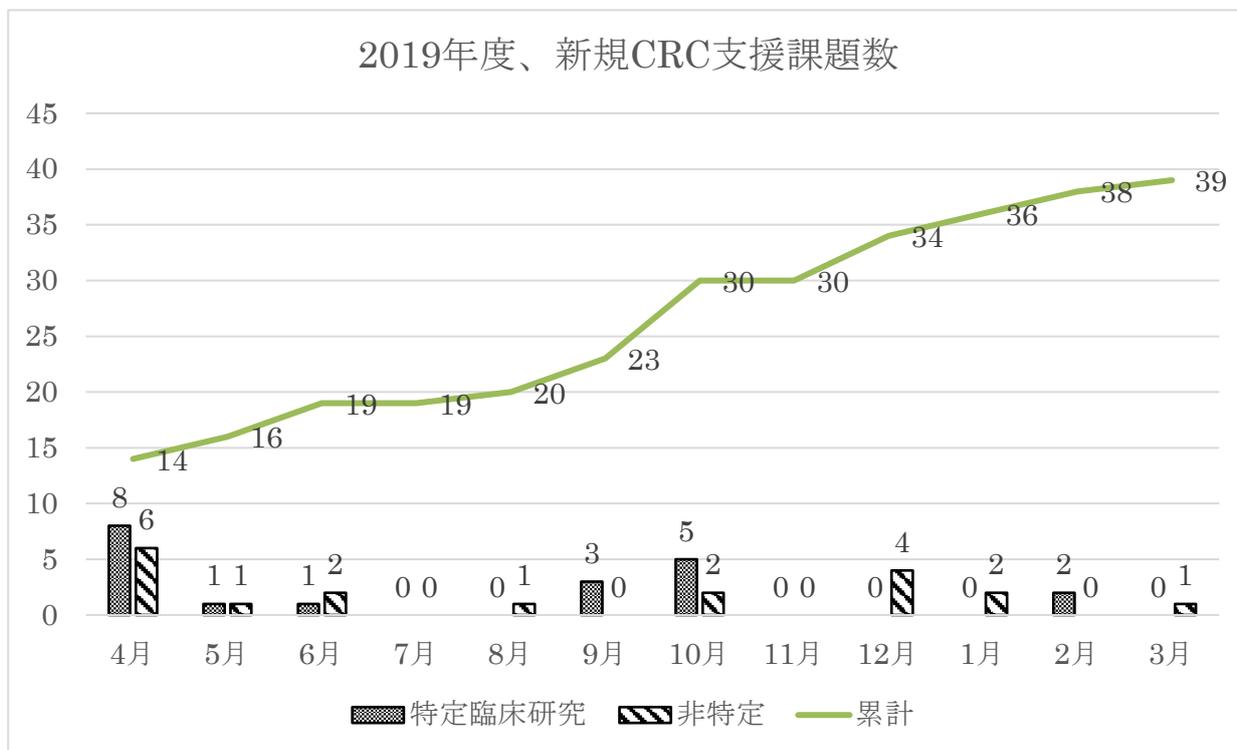
2018年より治験事務局とCRC が協力し、近隣病院やクリニックに対して、患者紹介レターを配付してきた。今年度の新たな取り組みとして、治験・臨床研究に特に貢献された医師等を表彰した。

また、治験・臨床研究を遂行するにあたり、通常業務と異なる手順で検査・処理等を行う必要があるため、多くの医療スタッフが抱える治験・臨床研究に対して、不安や負担を感じていることがわかったため、医療スタッフの不安軽減を目的として、治験・臨床研究の説明会を開催した。

#### （2）． 臨床研究の支援

これまで先進医療 B、国際共同臨床研究、EBM 推進のための大規模臨床研究、NHO ネットワーク共同研究の一部について CRC 支援を行ってきた。臨床研究法施行に伴い 2018 年から臨床研究専任のチ

ームを立ち上げ、特定臨床研究、NHO 主導の臨床研究について求められる規制要件に応じた一定の支援基準を設け CRC 支援を開始した。CRC が関与した課題数は、2018 年 4 月以前からの支援数を合わせて 2019 年 3 月末現在で 70 課題となっている。図 1,2 に 2019 年度に新たに支援を開始した課題数及び患者登録数を示す。適切な同意取得、タイムリーな SAE 報告等倫理委員会手続き、プロトコル遵守、ALCOA の原則に従った原資料の作成等の支援を行い、関係者の啓発・教育活動も進めながら臨床研究の品質向上を目指している。



## シーズ探索企画室

- ・国立病院機構内外の医師主導臨床研究ならびに医師主導治験の企画の支援を行う。
- ・国立病院機構内外のシーズ探索およびその臨床応用の支援を行う。
- ・院内の若手医療者から全国規模で臨床研究を行うことが出来る人材の育成を行う。
- ・月 2 回の頻度で臨床研究ランチョンミーティングを開催し、医療者に臨床研究の知識習得とリサーチクエッションから研究立案への援助を行う。

## 研究開発推進室

- ・出口を見据えた医薬品、医療機器及び再生医療製品の開発戦略の策定・プロジェクトマネジメントを行う。
- ・医薬品医療機器総合機構（PMDA）の事前面談及び対面助言（薬事戦略相談を含む）における相談資料の作成、対応等を支援する。
- ・厚生労働省の先進医療事前相談の実施支援を行う。
- ・臨床研究・医師主導治験のプロトコル等の作成を支援する。
- ・臨床研究の研究調整事務局業務を行う。
- ・医師主導治験の治験調整事務局業務を行う。
- ・英文論文の作成・投稿支援を行う。

## 品質保証室

- ・臨床研究企画管理部が支援する実施・支援体制の品質管理および品質保証を実施する。

## データ管理室

- ・ICH-GCP、J-GCP、倫理指針準拠の臨床研究におけるデータマネジメント業務を中心とした品質管理業務とこれを実現するための品質管理体制整備を行う。
- ・ISO9001/27001(品質管理・情報セキュリティマネジメント)認証を更新取得する。この活動を通して、品質管理業務の恒常的改善を図る。
- ・国際的に認められたデータセンター機能を有した ECRIN 認証の取得を目指す。

### ①データ管理部門：

各種臨床研究(医師主導治験、ICH-GCP 準拠臨床試験、及びエビデンス創出を目的とした倫理指針下の臨床試験など)に対するデータマネジメント業務を行う。

### ②システム開発部門：

臨床研究で使用するシステム面での整備を実施する。独自開発中の EDC システムを整備し、CDISC、ICH-GCP に対応した Web ベースの EDC を構築する。

## 試験薬管理室

- ・名古屋医療センターが実施する治験および臨床試験の試験薬管理業務、及び臨床研究企画管理部が支援する各種臨床研究における中央試験薬管理業務を実施する。

## 安全性管理室

- ・臨床研究企画管理部が支援する各種臨床研究において発生する安全性情報管理業務を実施する。

## モニタリング・監査室

- ・臨床研究企画管理部が支援する医師主導治験、ICH-GCP 準拠臨床試験、臨床研究法下の特定臨床研究、及びエビデンス創出を目的とした倫理指針下の臨床試験を対象としたモニタリングの実施。

## 統計解析室

- ・名古屋医療センターが ARO (Academic Research Organization) として支援する治験・臨床研究のデザイン設定と解析を実施する。

## データ科学室

- ・臨床研究企画管理部が支援する各種臨床研究において、データマネジメント、統計解析及びシステム開発を含む効率的な研究の運営をテーマとして研究支援を実施する。
- ・薬事承認申請における CDISC 標準の電子データ申請に対応するための体制および教育も含めた効率化を検討する。

## 生体試料管理室

- ・中央診断ならびにシーケンス目的に他施設ならびに臨床研究グループから提供された資料の一時管理ならびに委託管理を実施する。
- ・名古屋医療センターバイオバンク整備事業として、検体保存管理システムの構築と運用を行う。

## 生体情報解析室

- ・クリニカルシーケンスの実装とゲノム医療の推進のため、臨床還元を目指したシーケンス解析の精度向上を行う。
- ・臨床研究中核病院承認に向けた基盤整備として、バンキングされた試料を活用した臨床研究を支援、遺伝子解析を通じた臨床研究の推進・支援(高度診断研究部との共同)を実施する。

## 教育・研修室

- ・臨床研究が適切、かつ円滑に進むように臨床研究の計画や実施において役に立つ研修、臨床研究教育セミナー、臨床研究企画実践セミナー等を企画し、定期的を実施する。
- ・臨床研究ライセンス制度の整備を進め、院内で実施される臨床研究の活性化を図る。

## 広報・相談室

- ・ARO 機能に関するパンフレットを作成・更新する。
- ・臨床試験情報を公開するホームページを作成・改訂する。
- ・学会等で ARO 機能紹介のためのブースを出展する。
- ・がんゲノム医療体制の整備を行う。
- ・相談支援センター、がんゲノム医療相談、臨床研究・治験相談、院内苦情窓口との連携強化を行う。

## 東京モニタリング・DM 室

- ・NHO ネットワーク共同研究及び EBM 研究に関するモニタリング、監査を実施する

### 3. ARO 事業としての活動

#### ①中部先端医療開発円環コンソーシアム（C-CAM）への参加

名古屋大学を中心とした中部地域の大学等が協働する共同体であり、社会のニーズに的確に応えるため、互いに連携して新たな医療技術や医療機器の開発事業を行い、もって我が国のみならず人類の健康と平和に貢献することを基本理念とし、難病や希少疾患等の未だに有効な治療方法が明らかにされていない疾病や、患者の生活の質の向上のための医療技術の改良等について、前臨床試験や臨床試験を行うことにより開発を加速し、いち早く患者の下へ届けることを目的としている。毎月の連絡会議や各分野のワーキンググループ等において情報共有等を図りながら活動を実施している。

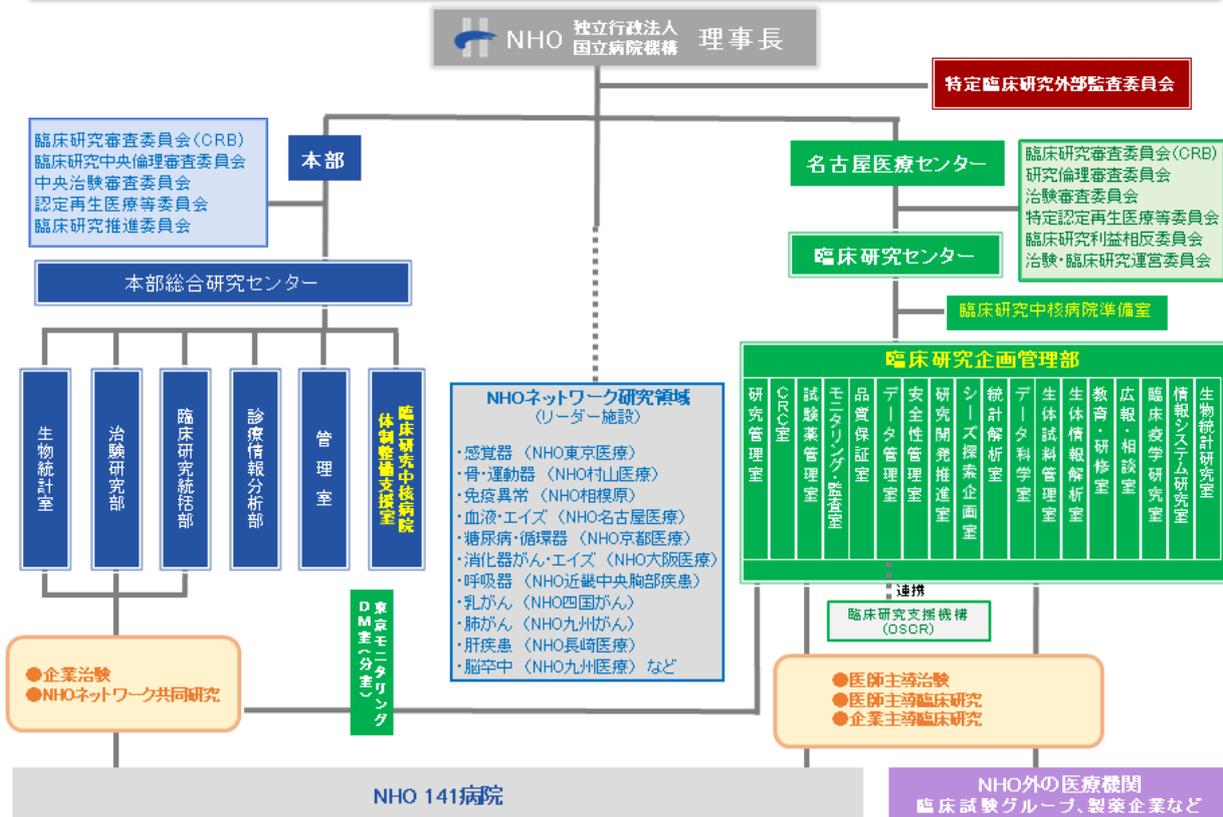
#### ②ARO 協議会への参加

日本のアカデミアにおける新規医薬品・医療機器、医療技術の開発を推進して、国民の健康と公衆衛生の向上に資するために必要な基盤を構築・整備し、アカデミアにおける新規医薬品・医療機器、医療技術の開発を支援する組織の発展と同組織間の連携を推進するとともに、行政当局、医療機関、企業、市民との連携を円滑にし、また実効性のあるものとするを目的としており、当院もアカデミアとしての役割を担うために各分野の専門家連絡会議に参加し、情報共有等を図りながら活動を実施している。

#### ③CJUG への参加

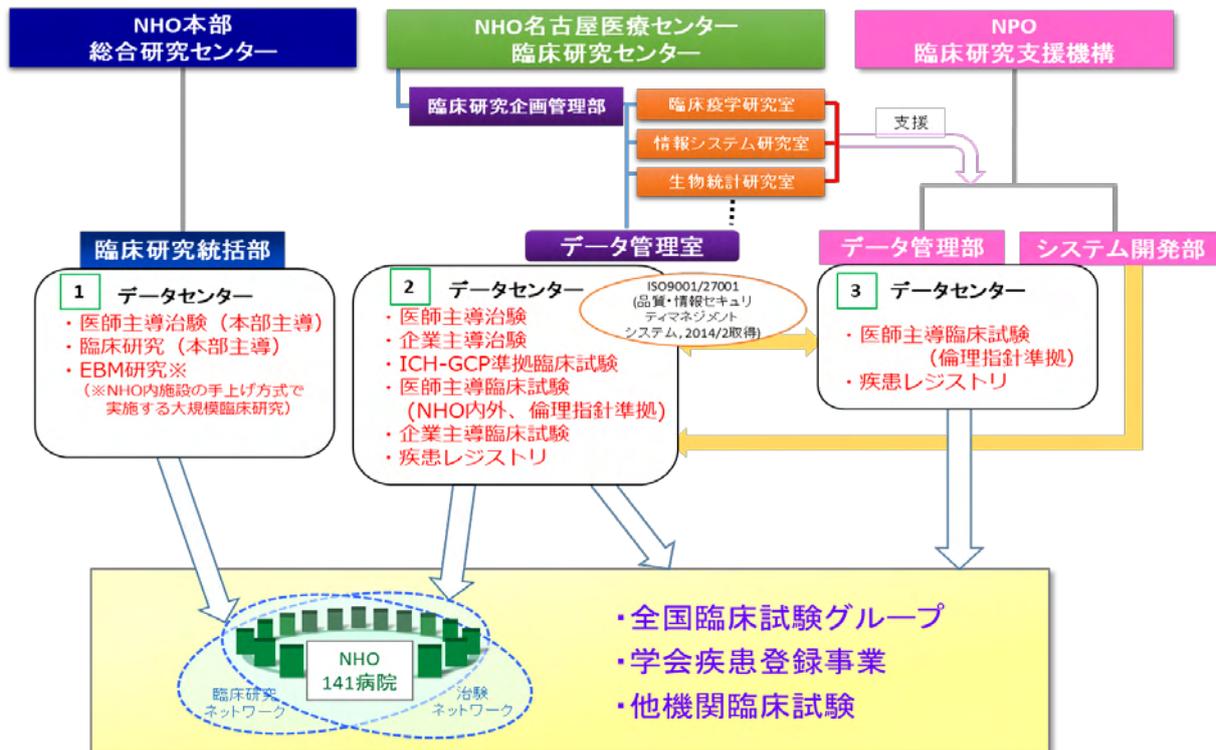
PMDA への申請電子データ提出対応では世界的な標準開発機関である CDISC (Clinical Data Interchange Standards Consortium) の標準規格が採用され、ARO も CDISC 標準の対応を検討する必要がある。CJUG (CDISC Japan User Group) は 2003 年に日本の CDISC ユーザグループとして発足した CDISC の導入経験等を共有するための会であり、CDISC 普及に取り組んでいる。当院も CJUG に参加し企業や他のアカデミアとの情報共有することで効果的な導入を検討している。

# 国立病院機構における臨床研究の支援体制



1

## データセンター運営体制



### 3-1. ARO 事業の成果概要

ICH-GCP 準拠の臨床試験、希少疾患等開発しにくい分野での医師主導治験、市販薬の組合せ等により最適な治療法を見出す臨床試験を迅速、高品質かつ低コストに実現するための体制整備を行う。シーズ汲み上げ部門の強化、評価制度の構築、教育・研修体制の整備、中央倫理審査委員会の機能拡充、高機能EDCシステムの開発、広報・情報発信の拡充、被験者保護の充実、被験者及びその家族への教育・情報提供の充実等を推進する取り組みを実施した。

- ・研究相談を今年度新規 61 件、支援業務検討会議を延べ 302 回開催し、理研、大学等のアカデミアおよび企業のみならず、NHO ネットワーク共同研究グループからシーズを汲み上げ、出口戦略を見据えた臨床試験の企画・立案を支援した。
- ・教育・研修部門を中心に、院内外の医療機関の臨床研究に関わる医師や支援者を対象に 1 か月に 1 回以上教育・研修を、TV 会議システムを活用したライブ配信を含めて実施した。また、CITI Japan（現 eAPRIN）等 e-learning を活用して院内研究ライセンスを整備した。
- ・質及び透明性の高い倫理審査体制を構築するため、倫理審査委員会（旧：臨床研究審査委員会、現：研究倫理審査委員会）を開催している。当委員会は倫理指針に基づいて他施設の研究及び多施設共同臨床試験における中央倫理審査委員会機能を備えている。また、臨床研究法に対応した臨床研究審査委員会に関して、新規課題 1 3 件の審査を実施し、1 2 件の審査が完了した。特定認定再生医療等委員会を設置しており、随時審査を受けられる体制を構築している。
- ・独自の EDC システムの機能強化として、多言語対応されたモニタリング報告書作成・レビュー支援システムの Web アプリケーション、国際標準のプロトコル雛形に準拠したプロトコル作成支援システムを構築した。
- ・独自に開発・運用している EDC に関し、ICH-GCP 準拠の国際共同研究を実現するための対応をおこなった。また、1997 年に設立、2000 年に NPO として法人化された世界的な標準開発機関（SDO）としての CDISC(Clinical Data Interchange Standards Consortium)による、質の高い医学研究を国際的に推進するための、情報システムの相互運用性を可能にする、国際的データ標準としての SDTM で定められた標準変数に予めマッピングした症例報告書(CRF)を作成できる仕様を追加し、現在運用中である。
- ・臨床研究企画管理部データセンターにて、ISO9001:2015(品質マネジメントシステム)、及び ISO27001:2013(情報セキュリティマネジメントシステム)の認証継続に関し、2019 年 2 月に審査をうけ認証継続取得している。ISO9001/27001 の中で、品質方針・目標を設定し、スキル管理シートを用いた半年毎の目標設定とその評価から、個々のスキル向上を確認し、引き続き質の高い臨床試験支援に努めた。また、国際標準の規格を有したデータセンターである認証を受けるため 2018 年 9 月に ECRIN データセンター認証の監査を受けた。ECRIN 審査会よりの指摘事項について対応中である。
- ・今年度は、103 研究を支援した。うち、医師主導治験は 7 研究（CRZ-NBALCL, FCDS-01, J-TALC2, NPC-12T-LM, ALC-ALCL, INO-Ped-ALL-1, NPC-12T-CVA）、ICH-GCP 準拠の国際共同研究は 3 研究（IntReALL SR 2010, ASIA-DS-ALL-2016, ASIA-ALAL2019）、その他臨床研究法下の特定臨床研究・先進医療 B 研究 38 試験などを行った。
- ・ICH-GCP 準拠の臨床研究を実施する際のモニタリングについて適切なコストで質を維持するために、NHO 内で構築したモニタリングハブでの活動を論文化した後、令和元年度からは名古屋医療センター1 施設にて、9 試験(医師主導治験 7 試験 ; CRZ-NBALCL, FCDS-01, J-TALC2, NPC-12T-LM, ALC-ALCL, INO-Ped-ALL-1, NPC-12T-CVA)、ICH-GCP 準拠国際共同研究 2 試験 ; IntReALL SR 2010, DS-ALL)のモニタリン

グ支援を継続実施した。

- ・臨床研究・治験に関する情報発信を NH0 本部と連携して行った。名古屋医療センターにおいては、展示会等への出展を 1 回（DIA）実施し、積極的に広報活動を推進した。院内に設置している相談窓口において、被験者およびその家族に対して相談等を実施した。
- ・令和元年度より月に 2 回、Lunchon Meeting を開催した。臨床研究に興味のある職員と積極的なコミュニケーションをとり、研究シーズへとつなげる取り組みを行った。
- ・製薬企業 MA（メディカルアフェアーズ）訪問を行った。当院が臨床研究中核病院整備事業に採択されてからこれまでの活動・実績をアピールし、製薬企業からの立場からは ARO に何を期待されているかを汲み上げた。製薬企業からの情報収集も併せて行い、今後の ARO 事業としての取り組みにフィードバックをした。
- ・臨床研究法施行に伴い研究者の負担が増大することから、当院に所属する研究者が臨床研究を実施しやすい体制を整備し、臨床研究の活性化を図る事を目的とした臨床研究助成制度を整備した。令和元年度は 1 件の助成を行った。

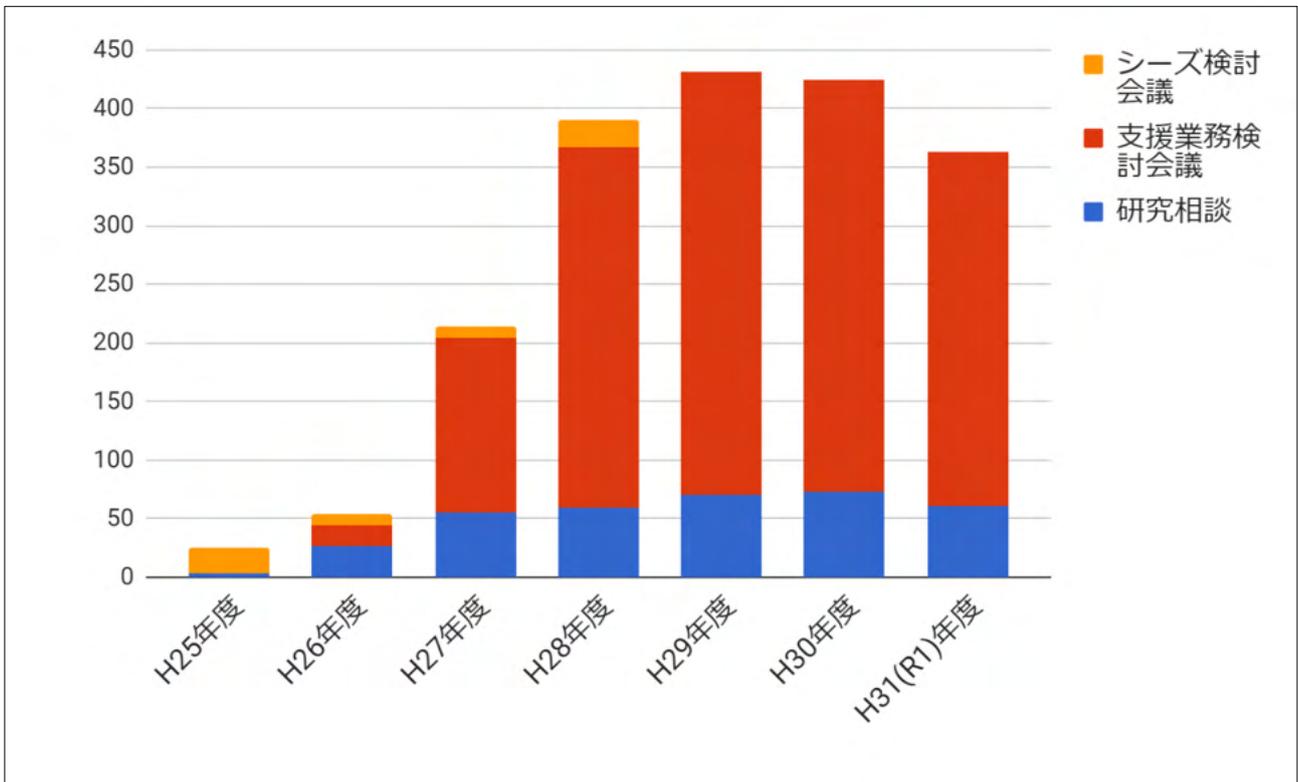
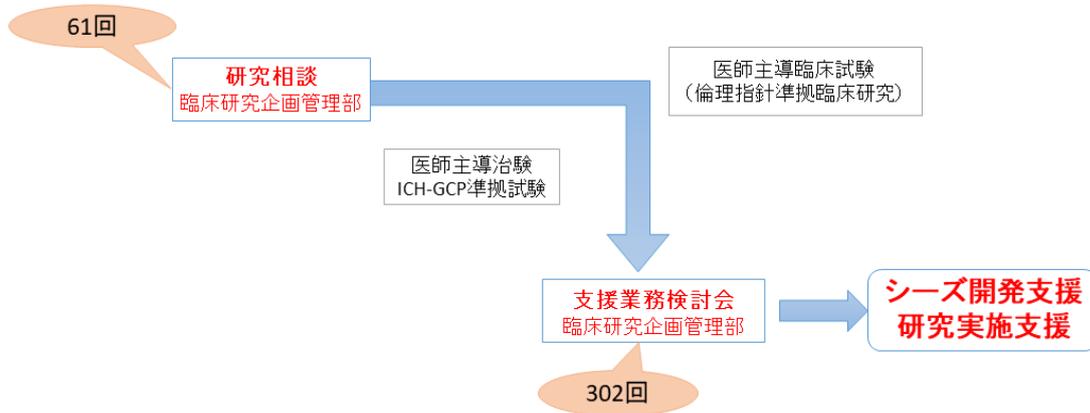
### 3-2. 研究相談・検討会議、シーズ検討会議、支援業務検討会議の実績

当院臨床研究事業部では医師、医学研究者や企業の関係者を対象に、再生医療を含むあらゆる新規医薬品・医療機器等の開発戦略か ICH-GCP 対応多施設共同試験、国際共同研究、疾患登録システムに至るまで多面的な内容について、相談支援を実施している。

令和元年度は、研究相談を 61 回、支援業務検討会議（同一課題 2 回目以降支援課題）を 302 回実施した。

## 研究相談・検討会議、支援業務検討会議の実績の年次推移

### R1年度 名古屋医療センターにおける研究相談支援実績



※シーズ検討会議は平成 29 年度より支援業務検討会議に統合

3-3. シーズー一覧(H2.3.10 現在)

1	2	3	4	5	6	7	8
プロトコルID	オリジン	開発責任者	研究課題名	試験物/技術名	対象疾患	疾患分類	開発トランク
CRZ-NBALCL	海外機関・企業	森 鉄也	小児ALK陽性未分化大細胞リンパ腫に対するcrizotinibの開発	クリゾチニブ	未分化大細胞リンパ腫	血液 小児	治験
IntReALL SR 2010	その他	堀部 敏三	再発小児急性リンパ性白血病の標準的治療法の確立に関する国際共同臨床試験	BFM2002, UKALL R3	再発ALL	がん 小児	臨床研究
NKTLCL	自機関	坂 英雄	II-III期非小細胞肺癌完全切除患者を対象としたα GalCer-pulsed 樹状細胞療法ランダム化第II相試験	α GalCer-pulsed 樹状細胞	II-III期非小細胞肺癌	呼吸器	先進医療
CAPITAL	国内企業 海外機関・企業	弦間 昭彦	高齢者化学療法未施行IIIb/IV期扁平上皮肺癌に対するnab-Paclitaxel + Carboplatin併用療法とDocetaxel単剤療法のランダム化第III相試験 (CAPITAL study)	CAPITAL	nab-Paclitaxel + Carboplatin併用療法とDocetaxel単剤療法	がん 高齢	臨床研究
J-TALC2	海外機関・企業	坂 英雄	難治性気胸に対する滅菌調整タルクによる適応拡大のための第2相試験 (医師主導治験)	滅菌調整タルク	手術困難な難治性気胸の治療	呼吸器	治験
FCDS-01	海外機関・企業	加藤 光広	限局性皮膚異形成に対するシロリムスの開発	シロリムス	限局性皮膚異形成	神経	治験
ASIA-DS-ALL-2016	自機関	岡本 康裕	アジア国際共同臨床試験を通じた DS-ALL における標準治療の開発	DS-ALL	Down症に伴う急性リンパ性白血病(ALL)	小児	臨床研究
NHON-Tranilast-MD	国内企業	松村 剛	筋ジストロフィー心筋障害に対するTRPV2阻害薬の多施設共同非盲検単群試験	トラニラスト	筋ジストロフィー心筋障害	神経	先進医療
NHO-Bev-FOLFOX-SBC	海外機関・企業	山下 晴弘	原発性小腸癌に対するベバシズマブの医師主導治験	ベバシズマブ、FOLFOX	小腸がん	がん	治験
INO-Ped-ALL-1	海外機関・企業	堀部 敏三	再発または難治性のCD22陽性小児急性リンパ性白血病患者を対象としたイノツズマブ オゾガマイシンの第I相試験 (医師主導治験)	イノツズマブ	小児ALL	がん 小児	治験
ASIA-ALAL2019	国内企業 海外機関・企業	岡本 康裕	アジア協同基盤を用いた分類系統不明瞭な白血病(ALAL)に対する標準治療の開発	ALAL	分類系統不明瞭な白血病	血液 小児	臨床研究
NMC-CJLSG1901	国内企業 海外機関・企業	小暮 啓人	高齢者肺癌に対する Pembrolizumab+Pemetrexed の第2相試験	CJLSG1901 ペンブロリズマブ		がん 高齢	臨床研究
NMC-CJLSG1902	国内企業 海外機関・企業	井谷 英敏	高齢者非扁平上皮非小細胞肺癌に対するカルボプラチン・ペメトレキセド・アテゾリズマブ併用後ペメトレキセド・アテゾリズマブ維持療法の第II相試験	CJLSG1902 ペメトレキセド・アテゾリズマブ	高齢者非扁平上皮非小細胞肺癌	がん 高齢	臨床研究
Riociguat-CTEPH	国内企業 海外機関・企業	下川原 裕人	BPA治療による血行動態改善後のCTEPH患者における心肺運動負荷試験時ピーク心係数に及ぼすリオシグアットの効果～多施設共同二重盲検ランダム化比較試験～	Riociguat	BPA治療による血行動態改善後のCTEPH患者	肺高血圧	臨床研究

## 薬事戦略相談一覧

シーズ	対象疾患	事前面談	対面助言
クリゾチニブ	ALK陽性ALCL	2014.5.19 2015.1.26 2016.4.19 2016.8.30	2016.11.4
ボルテゾミブ	ALL(第Ⅰ相)	2014.5.29	2014.8.5
	ALL(第Ⅱ相)	2016.3.28	2016.6.3
ブレンツキシマブ ベドチン (遺伝子組換え)	CD30陽性HL CD30陽性ALCL	2014.7.11	2014.10.15
アレクチニブ塩酸塩	ALK陽性ALCL	2014.9.8 2014.12.5	2015.1.28
タルク	難治性気胸	2014.10.7	2015.2.20
シロリムス(錠剤)	複雑型脈管異常	2015.11.2 2016.10.20	2017.1.19
シロリムス	FCDに伴うてんかん	2016.1.7 2016.5.30	2017.9.29
ベバシズマブ FOLFOX	小腸がん	2017.11.27	2018.3.19 2018.8.7 フォロー アップ面談
ベンダムスチン	悪性リンパ腫	2019.1.28	
シロリムス(顆粒)	複雑型脈管異常	2018.9.11 2018.12.21	2019.3.26
ブリナツモマブ	ALL(第Ⅲ相)	2020.2.13	

### 3-4. 教育研修の実績

2019年度は臨床研究教育セミナーを11回、臨時臨床研究教育セミナー（臨床研究ライセンス取得用）を16回実施した。

- ・研修の目標は、1)適応となる指針や規定に基づき倫理的及び科学的で且つ信頼性のある臨床研究が実施できるようにすること、2)国立病院機構全体として、日本発の革新的な医薬品・医療機器等の創出、難治性疾患や小児疾患等の新規治療開発、最適な治療法の確立をめざした国際水準の質の高い臨床研究の推進できるようにすること、3)政策医療に関することなど国立病院機構の特徴を生かして臨床研究の発展に寄与できるようにすること、4)さまざまな役割を担う人それぞれが臨床研究に対する理解を深めるとともに、専門別の知識の習得や臨床研究を進めるための力を養うことができるようにすること、5)医療機関における臨床研究の活性化である。
- ・対象は、国立病院機構内・外の臨床研究に関わる者または関わる予定の者である。

### 3-5. 臨床研究中核病院体制整備事業関連会議・行事

- ・令和元年6月13日（木）13:00～17:00 革新的医療技術創出拠点プロジェクト第1回全体会議（日本医療研究開発機構201会議室）

## 4. 研究費：ARO 事業関連

年度	研究課題名（研究費区分）
2019年度	日本医療研究開発機構（AMED）臨床研究・治験推進研究事業「クリゾチニブの再発または難治性小児 ALK（anaplastic lymphoma kinase）陽性未分化大細胞型リンパ腫（anaplastic large cell lymphoma, ALCL）に対する第 I/II 相および再発または難治性神経芽腫に対する第 I 相医師主導治験」研究分担者 齋藤明子、嘉田晃子、関水匡大
2019年度	アジア協同基盤を用いた分類系統不明瞭な白血病（ALAL）に対する標準治療の開発 研究分担者 齋藤明子、嘉田晃子
2019年度	日本医療研究開発機構（AMED）臨床研究・治験推進研究事業「難治性リンパ管異常に対するシロリムス療法確立のための研究」研究分担者 橋本大哉
2019年度	厚生労働省科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業「筋ジストロフィーの標準的医療普及のための調査研究」研究分担者 橋本大哉
2019年度	NHO ネットワーク共同研究費 「本邦における 20 年の喘息診療の変遷調査と重症喘息を対象としたクラスター解析によるフェノタイプ・エンドタイプの同定」（H28-NHO（免疫）-01 3年計画の3年目） 齋藤明子、橋本大哉（研究協力者）
2019年度	NHO ネットワーク共同研究費 「原発性小腸癌患者の治療と予後に関する多施設共同前向き観察研究」（H29-NHO（癌消）-01 3年計画の3年目） 齋藤明子（研究協力者）
2019年度	NHO ネットワーク共同研究費 「長引く咳嗽患者の全国多施設前向き調査研究—新たなエビデンス創出による効率的な診療方法の確立に向けて」（H29-NHO（免疫）-02 3年計画の3年目） 関水匡大、齋藤明子、橋本大哉（研究協力者）

2019 年度	NHO ネットワーク共同研究費 「経皮的心肺補助離脱のデイリー予測スコア作成に関する研究」(H29-NHO (循環)-01 3年計画の3年目) 齋藤明子、橋本大哉 (研究協力者)
2019 年度	NHO ネットワーク共同研究費 「左室機能の保たれた非閉塞型肥大型心筋症における心不全と睡眠時無呼吸症候群との関連性に関する研究」 (H30-NHO (循環) -02 3年計画の2年目) 関水匡大、齋藤明子、橋本大哉 (研究協力者)
2019 年度	NHO ネットワーク共同研究費 「急性肺塞栓症の予後に関する多施設共同コホート研究－慢性血栓塞栓性肺高血圧症の発症との関連－」 (H30-NHO (循環) -05 3年計画の2年目) 齋藤明子 (研究協力者)
2019 年度	NHO ネットワーク共同研究費 「高齢者移植非適応再発・難治末梢性 T 細胞リンパ腫に対する GDP+ロミデプシン療法の第 II 相試験」 (H30-NHO (血液) -01 3年計画の1年目) 齋藤明子 (研究協力者)
2019 年度	NHO ネットワーク共同研究費 「結節・気管支拡張型肺 MAC 症に対する間欠的治療と連日治療の多施設共同非盲検ランダム化比較試験」 (H30-NHO (呼吸) -01 3年計画の2年目) 関水匡大、齋藤明子、橋本大哉 (研究協力者)
2019 年度	NHO ネットワーク共同研究費 「小腸内視鏡におけるミダゾラム持続静注と塩酸ペチジン併用の有用性と安全性に関する多施設共同研究」 (H31-NHO (消化) -01 3年計画の1年目) 齋藤明子、嘉田晃子 (研究協力者)
2019 年度	NHO ネットワーク共同研究費 「未治療濾胞性リンパ腫における Obinutuzumab の治療成績、QOL、費用対効果、予後に関する多施設前向きコホート研究 (PEACE-FL)」 (H31-NHO (血液) -01 3年計画の1年目) 齋藤明子 (研究協力者)
2019 年度	NHO ネットワーク共同研究費 「B 細胞性急性リンパ性白血病におけるターゲットキャプチャーRNA-seq を用いたサブタイプ診断の実行可能性に関する研究」 (H31-NHO (血液) -02 3年計画の1年目) 齋藤明子、嘉田晃子 (研究協力者)
2019 年度	NHO ネットワーク共同研究費

	「TRPV2 阻害薬の筋ジストロフィー心筋障害への有効性・安全性評価」(H28-NHO (神経)-01 3年計画の3年目) 齋藤明子 (研究協力者)
2019年度	NHO ネットワーク共同研究費 「大腸憩室出血の標準的な診断・治療の確立を目指した無作為化比較試験」(H28-NHO (消化)-01 3年計画の3年目) 齋藤明子 (研究協力者)
2019年度	NHO ネットワーク共同研究費 「乳房温存と放射線非照射を両立する高精度断端検索システムの開発」 (H31-NHO (癌般) -01 3年計画の1年目) 伊藤典子 (研究協力者)

### 5. 委受託費等：ARO 事業関連

年度	研究課題名 (委託先)
2019年度	高齢者化学療法未施行 IIIB/IV 期扁平上皮肺癌に対する nab-Paclitaxel + Carboplatin 併用療法と Docetaxel 単剤療法のランダム化第 III 相試験 (大鵬薬品工業株式会社)
2019年度	希少難治性てんかんのレジストリ構築による総合的研究支援業務 (難治性疾患等政策研究事業研究代表者 井上 有史)
2019年度	クリゾチニブの再発または難治性小児 ALK (anaplastic lymphoma kinase) 陽性未分化大細胞型リンパ腫 (anaplastic large cell lymphoma, ALCL) に対する第 I/II 相および再発または難治性神経芽腫に対する第 I 相医師主導治験に係る研究支援業務 (聖マリアンナ医科大学)
2019年度	「未治療症候性多発性骨髄腫に対するボルテゾミブ、シクロホスファミド、デキサメタゾンによる導入療法、自家末梢血幹細胞移植療法およびレナリドミドによる地固め療法・維持療法に関する有効性と安全性の検討 (PIANO Study)」に係る臨床研究支援業務 (自治医科大学)
2019年度	難治性・リンパ管疾患に対する NPC-12T (シロリムス) の有効性及び安全性を検討する多施設共同第 III 相医師主導治験についての医師主導治験支援業務 (岐阜大学)
2019年度	限局性皮質異形成 II 型のでんかん発作に対するシロリムスの有効性と安全性に関する無対照非盲検試験 (医師主導治験) 支援業務 (昭和大学)
2019年度	限局性皮質異形成 II 型のでんかん発作の前向きコホート研究支援業務 (昭和大学)
2019年度	日本における再発または難治性の CD22 陽性小児急性リンパ性白血病患者を対象としたイノツズマブオゾガマイシンの第 I 相試験 (ファイザー R & D 合同会社)
2019年度	再発又は難治性 ALK 陽性未分化大細胞リンパ腫患者を対象とした CH5424802 第 II 相試験 (医師主導治験) (中外製薬株式会社)
2019年度	続発性難治性気胸に対する滅菌調整タルクを用いた胸膜癒着術の第 II 相医師主導治験 (ノーベルファーマ株式会社)
2019年度	再発濾胞性リンパ腫に対する obinutuzumab+bendamustine 併用の第 II 相試験における特定臨床研究契約
2019年度	難治性血管・リンパ管疾患に対する NPC-12T (顆粒剤・錠剤) の有効性及び安全性を検討する多施設共同第 III 相医師主導治験支援業務 (岐阜大学)

2019 年度	ハイリスク 4 期神経芽腫に対する KIR リガンド不一致同種臍帯血移植についての臨床研究支援業務
2019 年度	第一再発小児急性リンパ性白血病標準リスク群に対する第 III 相国際共同床研究についての臨床研究支援業務
2019 年度	「アジア協同基盤を用いた分類系統不明瞭な白血病 (ALAL) に対する標準治療の開発」についての臨床研究支援業務
2019 年度	Ptosh を用いた臨床試験開発・運用についてのデータマネジメント支援業務
2019 年度	ハイリスク 4 期神経芽腫に対する KIR リガンド不一致同種臍帯血移植についての臨床研究支援業務 (AMED 作成支援)
2019 年度	本邦における高齢者ぜん息患者の実態調査についての臨床研究支援業務
2019 年度	再発または難治性の FLT3 遺伝子変異陽性急性骨髄性白血病患者を対象とする MEC (ミトキサントロン/エトポシド/シタラビン) とギルテリチニブの逐次療法の非盲検、多施設共同、前向き介入試験の共同臨床研究契約
2019 年度	高齢者非扁平上皮非小細胞肺癌に対するカルボプラチン・ペメトレキセド・アテゾリズマブ併用後ペメトレキセド・アデゾリズマブ維持療法の第 II 相試験

## 血液・腫瘍研究部

### 概要

血液・腫瘍研究部は血液腫瘍をはじめ各種悪性腫瘍の病態を解明し、臨床への還元・応用を目指している。当部は病因・診断研究室、予防・治療研究室の2室から構成されている。各研究室では以下の研究課題に取り組んでいる。

### 病因・診断研究室

悪性腫瘍における遺伝子異常の解析は、病態解析・治療開発に重要であり、実臨床にも導入されつつある。遺伝子異常を標的とした分子標的療法の開発が急速に展開している。当室では ALK 陽性未分化大細胞型リンパ腫を対象とし、ALK 阻害剤であるアレクチニブの有効性と安全性を検証する医師主導治験を完遂した。このデータにより、再発・再燃の ALK 陽性未分化大細胞型リンパ腫に対してアレクチニブの保険承認が得られた。リンパ系腫瘍、神経芽腫における分子標的療法の効果的併用療法の開発を目的とし、各薬剤の併用効果の機序を分子遺伝学的な検討を行い、キナーゼ阻害剤とヒストン脱アセチル化阻害剤の相乗効果を発見した。

日本臨床腫瘍研究グループ (JCOG) 「Interim PET に基づく初発進行期ホジキンリンパ腫に対する ABVD 療法および ABVD/増量 BEACOPP 療法の非ランダム化検証的試験」を研究代表として進捗されている。日本医療研究開発機構研究費「アレクチニブ塩酸塩の医師主導治験」、国立病院機構血液ネットワークにて高齢者びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫の臨床第 II 相試験を研究代表として主導した。

### 研究概要

- ・高齢者びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫の治療開発
- ・再発又は難治性の ALK 陽性 ALCL に対するアレクチニブ塩酸塩の開発 (医師主導治験)
- ・Interim PET に基づく初発進行期ホジキンリンパ腫に対する ABVD 療法および ABVD/増量 BEACOPP 療法の非ランダム化検証的試験
- ・急性リンパ性白血病の微小残存病変の研究
- ・キナーゼ阻害剤と他の分子標的薬の相乗作用の解析

### 予防治療研究室

遺伝性腫瘍と細胞療法が臨床研究の2本柱である。

遺伝性・家族性腫瘍における臨床的研究では、多施設共同研究「家族性・若年性のがん及び遺伝性腫瘍に関する診断と研究」に参加して、院内の遺伝性腫瘍が疑われる患者に、遺伝学的検査を提供して遺伝性腫瘍の確定診断に寄与している。また網膜芽細胞腫に積極的に遺伝学的検査を導入し、片眼性網膜芽細胞腫のリスク層別化を行い、フォローアップに役立てている。さらに、厚労科研補助金がん政策研究事業「小児期に発症する遺伝性腫瘍に対するがんゲノム医療実装のための研究班」に参加して、Li-Fraumeni 症候群の診療ガイドラインを作成に参画した。

院内では、乳腺外科と連携し乳がん患者における遺伝性乳がん卵巣がん (HBOC) スクリーニングの取り組みを行っており、その成果を遺伝性腫瘍学会などで発表している。またがん遺伝子パネル検査におけるがんゲノム医療連携病院としての体制整備を行い、院内エキスパートパネルを主導している。

細胞療法では、多施設共同医師主導治験「難治性肉腫に対するワクチン併用 TCR 遺伝子改変 T 細胞輸注療法」の分担研究者となり、難治性肉腫に対する細胞療法の開発に携わっている。

## 研究概要

1. 遺伝性腫瘍疾患の臨床研究
  - (A) 遺伝性腫瘍の臨床研究
    - HBOC 患者の遺伝情報のニーズに関する研究
    - LI-Fraumeni 症候群のがんサーベイランス法の開発
  - (B) 網膜芽細胞腫の遺伝学的検査の臨床応用
    - 片眼性網膜芽細胞腫における *RBI* 遺伝学的検査の意義
2. 難治性肉腫に対するワクチン併用細胞療法の開発
3. 多診療科・多職種との連携に基づくゲノム医療定着への体制作り
  - A) がんゲノムに関する啓発・教育活動
  - B) がんゲノム医療に対する患者の理解・ニーズに関する調査

## 再生医療研究部

再生医療とは欠損あるいは機能不全に陥った臓器・組織を再構築することによって疾患の治療を行う新しい医療分野である。近年 ES 細胞、iPS 細胞等の多能性幹細胞に関する技術の急速な進歩が認められているが、再生医療を実現するためにはそれらの技術を実際の医療現場に導入するための橋渡しとなる研究が重要である。再生医療研究部は幹細胞研究室、細胞療法研究室、機能再建研究室の 3 つの研究室で構成されており、それぞれの分野の研究を行っている。

### 幹細胞研究室

同種造血幹細胞移植は、血液悪性腫瘍および再生不良性貧血、また小児においては血液疾患以外の腫瘍や代謝性疾患に対して、完治を目指せる重要な治療手段である。移植方法も近年多様化してきており、移植細胞源としては骨髄、末梢血、臍帯血が用いられ、移植前処置（移植前に行われる抗がん剤治療）の強度も従来の骨髄破壊的および強力的なものから骨髄非破壊的および軽度のものまで行われるようになった。移植を安全に行うためには、ドナーと患者の HLA をできるだけ合致させることが重要とされてきたが、最近では移植後にシクロフォスファミドを投与することにより、HLA が半合致のドナーからの移植が広く行われるようになってきている。同種造血幹細胞移植の第一の目標は、移植された造血幹細胞からドナー由来の造血が回復すること（生着）であるが、先に述べたような移植方法の多様化に伴って、それぞれの移植方法で確実に生着が得られるかどうかを確認することが重要となっている。そこで、我々は当院で行われる同種造血幹細胞移植を対象に、経時的なキメリズム解析（遺伝子多型を利用して移植患者の血液細胞がドナーに由来するかを調べる臨床検査）を行っている。また、移植前処置の検討を他施設臨床研究に参加して行っている。これらの手法を用いて、より安全で有効な移植方法の確立を目標としている。

### 細胞療法研究室

NKT 細胞療法を行うための GCTP に準じた運用による CPC の運用・管理・改善、ならびに治療目的の細胞培養を行っている。

### 機能再建研究室

リウマチ・膠原病における診断・治療における臨床的課題について継続的に取り組んでいる。膠原病診療に重要な合併症として種々の感染症について検討を行ってきた。現在、EBM 研究に参加し、免疫抑制患者における肺炎球菌ワクチンの連続接種の有用性についての研究は登録がすべて終了し観察期間に入っている。また、重要な合併症である悪性腫瘍について、RA 患者に合併するリンパ増殖性疾患の発症に関わる危険因子、特に遺伝子学的異常についての研究にも参加し成果を得ている。令和 2 年度には研究課題「関節リウマチ患者における帯状疱疹発症予防を目的とした帯状疱疹不活化ワクチン接種の有効性について」にて、NHO の EBM 推進のための大規模臨床研究に採択され（一次審査）、ブラッシュアップを進めているところである。さらに、血管炎症候群や SLE、膠原病性肺高血圧症における新規治療薬の開発の治験にも積極的に参加している。さらに、重要課題として 2015 年度より自己免疫疾患における網羅的自己抗体の解析（自己抗体プロファイリング）を利用した膠原病の診断・病態解明、治療への応用に向けた研究を多施設共同研究として開始し成果を得て自己抗体検出法の開発に向けて進めている。

## 研究概要

### 幹細胞研究室

・造血幹細胞移植後のキメリズム解析：当院および近隣施設において、生着が問題となる臍帯血移植や骨髄非破壊的前処置を用いた移植症例についてキメリズム解析を行っている。年間 10 程度の件数を解析している。

### 細胞療法研究室

- ・細胞療法のための GCTP に準じた運用による CPC 内での細胞培養・調整

### 機能再建研究室

- ・膠原病患者における感染症の発現および早期診断，予防，治療に関する研究
- ・関節リウマチ関連間質性肺病変の低分子代謝産物バイオマーカーの探索膠原病の発症における遺伝子の寄与の解明
- ・肺高血圧症の治療に関する研究
- ・関節リウマチ患者に合併するリンパ増殖性疾患の発症に関わる危険因子、特に遺伝子学的異常についての研究
- ・関節リウマチ患者における帯状疱疹発症予防を目的とした帯状疱疹不活化ワクチン接種の有効性についての多施設共同研究
- ・RA 患者の不安・抑うつに関する研究
- ・自己免疫疾患における網羅的自己抗体の解析（自己抗体プロファイリング）による疾患・病態の診断および治療への応用に関する研究
- ・難治性あるいは再発性大血管炎に対する生物学的製剤の有用性に関する研究

## 感染・免疫研究部

### 概要

HIV 感染症では、第二世代インテグラーゼ阻害剤をキードラッグとした強力な抗 HIV 治療により、感染者の予後は著しく改善されている。しかし、これらの最新の治療薬でさえも根治には至っておらず、終生にわたる服薬の継続が必要である。また、早期診断・治療に伴う TasP (Treatment as prevention) の普及は感染伝播の抑制に有効である(U = U: Undetectable = Untransmittable)ことが報告され、新規感染者数の減少が期待されているが、本邦において、新規感染者数は依然として減少へと転じていない。そのため、2つの大きな課題が生じている。ひとつは、HIV 感染とともに生きる人(People Living With HIV: PLWH)は、治療の長期化は服薬疲労、治療薬の慢性毒性そして薬剤耐性の獲得などのリスクを常に抱えていることになる。二つ目は、新規感染者数を抑制するための感染予防・啓発対策が不十分である可能性がある。そこで、感染・免疫研究部では、上述2つの課題を克服するために、1) 先進的な各種検査の実施をする、2) HIV 感染症の病態を詳細に理解する、3) 新規感染者数を低減する施策を導きだすための科学的論拠を取得する、4) 長期的な視野で新たな治療戦略を創出することなどを目的に基礎的な研究に取り組んでいる。感染・免疫研究部は感染症研究室と免疫研究室の2つの研究室を擁しており、感染症研究室は基礎的な視点からの HIV/AIDS の病態解析を、免疫研究室では臨床的な視点から診療現場における高度先進医療の実現に繋がる研究をそれぞれ主軸に据えた研究活動を行っている。

さらに、当研究部は、名古屋大学大学院医学研究科の連携大学院講座として大学院生の研究教育にも参画しており、大学院生の教育と研究指導も行っている。

### 免疫不全研究室

#### 1. 国内で流行する HIV とその薬剤耐性株の動向把握に関する研究：

厚生労働省エイズ対策事業研究班の代表として薬剤耐性 HIV の検査／疫学的動向調査などの全国ネットワークを統括および運営を行った。

#### 2. 薬剤耐性遺伝子検査：

新規 HIV/AIDS 診断症例および既治療症例における薬剤耐性 HIV の検査／解析により、至適治療を実現するための情報を医療現場に提供した。

#### 3. 国際共同治験：

次世代型インテグラーゼ阻害剤 cabotegravir は、筋注により2～3ヶ月にわたり服薬なしでウイルス制御を可能とする薬剤であり、生涯服薬が必要な HIV 感染症では、大きな治療変革を起こす可能性がある。本薬剤に対する国際共同治験へ参加し、研究を開始した。

#### 4. 薬剤耐性に関する国際共同研究：

米国の研究グループをはじめとする各国の薬剤耐性 HIV 研究グループとの連携により薬剤耐性ウイルスの伝搬情報などを共有し、グローバルな視点からの薬剤耐性 HIV の疫学研究を実施した。

## 5. HIV-2/AIDS の疫学および臨床検査研究：

HIV-2 感染者の治療効果モニタリング方法、適正な治療方法に関する検討を行った。HIV-2 疑義診断症例に関する血清学的・遺伝子学的精査解析を行った。

## 6.HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究

A) 中核拠点病院連絡会議の開催（5月、10月）し、各種研修などを通じて東海ブロックの HIV/AIDS 診療体制を拡充した。

B) 名古屋大学、名古屋市立大学との診療連携の充実をはかった。

## 7. HIV 感染症に合併する感染症の疫学的研究

HIV 感染症に合併するウイルス感染症（HHV8、HPV、HBV）の遺伝子配列に基づく疫学的情報分析を行った。

## 感染症研究室

### 1.薬剤耐性 HIV の出現機構に関する基礎研究

インテグラーゼ阻害剤 Elvitegravir、Raltegravir、Dolutegravir および Cabotegravir に対する薬剤耐性ウイルス出現の機序を分子生物学的、および構造生物学的に解明した。

### 2.新規抗 HIV 剤開発に向けた研究

現在までに進めてきた新規薬剤の候補化合物の詳細な分子生物学的な作用機序に加えて、薬剤刺激に遺伝子発現の変化などを分析することにより分子標的の絞り込みを行った。Vif 阻害剤、RNaseH 阻害剤、および新規化合物 4 オキソキノロン系化合物の開発に向けた基礎的研究に取り組んだ。HIV-2 感染者の治療効果モニタリング方法、適正な治療方法に関する検討を行った。

### 3.HIV 感染症の病態進行解明に向けた宿主防御因子の基礎

病態進行に影響を及ぼすと考えられる宿主防御因子(APOBEC3) の抗ウイルス作用メカニズムについて、分子生物学的および構造生物学的に解明した。

### 4.HIV のプロウイルス DNA を利用した臨床的指標を開発する基礎的研究

本研究課題についての研究（特にケモカインレセプタートロピズムと HIV-1 env 遺伝子との相関性についてプロウイルス DNA を利用した解明）を継続して行った。CCR5 拮抗薬 Maraviroc 治療効果を予測・判定できる遺伝的解析のためのデータベース作りに取り組んだ。

### 5.HIV 感染動向の地図化・生存解析

1993年~2018年までの当院初診患者の追跡を行い、生存解析を行った。また今後 HIV 感染動向を地図化することを念頭に、データベースの構築、ベースマップの作成を行った。

### 6. 新たな遺伝子配列解析技術の活用した HIV のウイルス動態を把握する解析研究

次世代シーケンサーillumina を用いた手法だけでなく、Nanopore Sequencing 技術により、薬剤耐性変異や組換え HIV を半定量的に検出する方法を構築した。

## 高度診断研究部

### 概要

高度診断研究部は、腫瘍性疾患を対象とした網羅的な遺伝子解析研究と多施設治療研究グループにおける中央診断と新規遺伝子診断技術としての臨床応用に向けた開発を行っている他、乳癌の早期画像診断に関する研究を行う画像診断研究室、乳腺病理に関する研究を主に行う病理診断研究室から構成されている。

### 高度診断研究部研究室

がんは、遺伝子異常により生じる疾患であり、本質的な理解には遺伝子を解析することが必要である。当研究室では、これまで小児白血病における微小残存病変や白血病特異的な構造異常の評価を臨床研究の中央診断施設として実施してきた。近年の遺伝子解析技術の進歩を踏まえて、新たな分子マーカーの探索ならびに既存のバイオマーカー解析における最新の技術応用を通じて、造血器腫瘍を対象に分子病態の解明から、診療上有用なバイオマーカーの探索、クリニカルシーケンスを念頭においた分子診断技術としての実用化に向けた開発などを通じて、がんの診療成績の向上に寄与することを目指した研究を進めている。

### 分子診断研究室

造血器腫瘍は遺伝子の異常が蓄積して発症するといわれている。従ってこれらの遺伝子異常を明らかにすることは、疾患の理解と治療法の開発につながると考えられる。本研究室では、白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫などの造血器腫瘍を対象に、ゲノム異常の探索を介して、その分子病態を明らかにすることを目指している。本年度は成人のB細胞性急性リンパ性白血病の融合遺伝子解析ならびに発現解析を実施し、融合遺伝子の全体像を明らかにするとともに、新規サブタイプの同定に成功した。

また、こうした遺伝子異常の同定技術を臨床に応用する試みも行っている。AMEDの研究プロジェクトである臨床ゲノム情報統合データベース整備事業の分担研究者として、造血器腫瘍に対するクリニカルシーケンスを造血器腫瘍98症例に対して実施し、得られたゲノム異常に臨床的解釈を加えた後、その報告書を担当医に返却する研究を実施した。また、NHOネットワーク研究に採択された「B細胞性急性リンパ性白血病におけるターゲットキャプチャーRNA-seqを用いたサブタイプ診断の実行可能性に関する研究」の研究を主導し、B細胞性急性リンパ性白血病のサブタイプ分類を実施し、その結果を担当医に返却している。ゲノム医療は今後のがん治療のあり方を大きく変える可能性を秘めており、本研究室ではその実現と普及に向けて研究成果を発信していく。

### 画像診断研究室

画像診断研究室では、乳癌の早期診断に貢献できる画像・病理診断を目標に乳房画像や画像ガイド下生検に関する研究を行っている。今年度からは、人工知能(AI)による画像診断支援に関するシステム開発・利用にも取り組む予定である。

乳房画像の中でも特に、検診や診療に広く使用されているマンモグラフィと乳房超音波検査について、  
1) 乳房用トモシンセシスの撮影新技術の開発と臨床評価 2) デジタルマンモグラフィのモニタ診断の精度管理 3) 高濃度乳房を客観的に評価するための乳腺量自動測定ソフトの臨床評価 4) 乳房超音波画像の精度管理 5) マンモグラフィに超音波検査を併用した乳がん検診の推進のための研究および啓蒙活動などをテーマに研究を進め、研究成果を学会・論文発表するとともに、当地域の診断力向上に貢献するように努めている。

デジタルマンモグラフィに関しては、富士フイルムメディカル社と協力し、乳房撮影装置の精度管理指

標を作成する研究が開始された。

これまで、当院の画像ガイド下による乳腺生検システム（細胞診・組織診）の構築に対しても尽力してきたが、実状にあわせた検査体制への見直しを行い、引き続き精度管理を行っていききたい。

## 病理診断研究室

当研究室では、主として乳腺を対象に、日常業務に関連した研究を行っている。

現在力を入れている研究は、乳癌乳房温存療法検体の高精度断端検索法（ポリゴンメソッド）の研究である。当院では、2000年頃から乳癌の乳房温存療法検体に対してポリゴンメソッドを行っており、その方法で断端が陰性であれば放射線照射を行っていない。乳管内癌についての当院の経験をまとめたところ、患側よりも対側の乳癌発生が多いことがわかった。それをまとめた論文が英文雑誌に掲載された。さらに、ポリゴンメソッドの具体的な方法を紹介するビデオを制作し、ホームページから閲覧できるようにした。

また、他施設の研究者とともに、屈折コントラスト CT を用いた画像解析の研究と、マンモグラフィにおける新しい画像処理技術の乳癌画像診断への適用の臨床研究にも取り組んだ。当院眼科とともにやっている眼の悪性リンパ腫の臨床病理学的研究も進行中である。日本病理学会が日本医療研究開発機構(AMED)委託事業として行っている病理診断人工知能の開発や、メトトレキサート (MTX) 関連リンパ増殖性疾患の病態解明のための多施設共同研究にも参加した。

## 研究概要

### 高度診断研究部研究室

- ・次世代（大量並列型）シーケンサーを用いた、小児急性リンパ球性白血病患者ならびに成人急性骨髄性白血病、骨髄異形成症候群の経時的臨床検体を対象とした、全エクソンシーケンス解析ならびに RNA シーケンス解析による網羅的な遺伝子解析に基づく病態解明研究
- ・次世代シーケンス技術を用いた白血病微小残存病変評価系の確立を目的とした技術開発
- ・リンパ系腫瘍における免疫グロブリン遺伝子再構成に基づくクロナリティーの解析
- ・多数例の小児急性リンパ性白血病症例を対象とした標的遺伝子シーケンスによる遺伝子異常の臨床的意義の解明と遺伝子変異に基づく予後予測モデルの構築（論文投稿中）
- ・多発性骨髄腫を対象とした標的遺伝子シーケンスにより、遺伝子異常の日本人患者の特徴と臨床的意義の解明し、国際誌に成果発表をした。
- ・早老症患者に発症した造血器腫瘍ならびに末梢血のクローン解析（論文投稿中）
- ・臨床ゲノム情報統合データストレージに向けた標的遺伝子シーケンス
- ・遺伝子パネル検査の実用化に向けたパネルの開発
- ・臨床ゲノム情報統合データベース整備事業としての、血液腫瘍患者を対象とした臨床還元を目的とした標的遺伝子シーケンス
- ・多発性骨髄腫患者の末梢血遊離 DNA および循環腫瘍細胞を対象とした経時的腫瘍量評価（NHO-EBM 研究）
- ・保険検査ならびに研究検査としての白血病微小残存病変の受託解析

### 分子診断研究室

- ・ AYA・成人急性リンパ性白血病における融合遺伝子解析

JALSG で収集された ALL202 研究の保存検体を用いて融合遺伝子解析を行った。合計 203 症例の解析を実施した。

- ・ 造血器腫瘍に対するクリニカルシーケンスの実行可能性研究

造血器腫瘍に対し、クリニカルシーケンスを実施しゲノム情報を取得した。得られたゲノム情報はエキスパートパネルで臨床的解釈が実施され、その内容を報告書に記載して担当医に返却した。合計 98 症例で解析を行った。

#### 画像診断研究室

- ・ 高精細直接変換型フラットパネルを応用したマンモグラフィ新技术（トモシンセシス）の臨床評価および始業時点検の基準案の作成
- ・ デジタルマンモグラフィ・トモシンセシスの撮影線量評価
- ・ 乳癌の検出感度を低下させる高濃度乳房を客観的に評価するための乳腺量自動測定ソフトを臨床活用する妥当性の検証。特に、畳み込みニューラルネットワークを用いた人工知能（AI）による高濃度乳房評価と比較することで乳腺量測定ソフト評価の意義を検討する
- ・ デジタルマンモグラフィソフトコピー診断の精度管理
- ・ 乳がんの画像診断と病理診断を支援する AI システムの開発を行いその有用性を検討する（個別化医療を目指した乳腺画像のラジオミクス解析 多施設共同研究 科研費）
- ・ 低侵襲・低リスクの乳腺穿刺吸引細胞診の診断能を向上させるための研究。cell block の併用が穿刺吸引細胞診の診断能向上に寄与できるかを検討
- ・ 乳房超音波検査の精度管理
- ・ マンモグラフィに超音波検査を併用した乳癌検診の推進のための研究

#### 病理診断研究室

- ・ 乳房温存と放射線非照射を両立する高精度断端検索システム
- ・ 細胞診検体を用いた乳癌薬物療法適応決定のための基礎研究
- ・ 屈折コントラスト CT を用いた画像解析
- ・ マンモグラフィにおける新しい画像処理技術の乳癌画像診断への適用の臨床研究
- ・ 眼の悪性リンパ腫の臨床病理学的研究
- ・ 病理診断支援のための人工知能（病理診断 AI）開発と統合的「AI 医療画像知」の創出
- ・ メトトレキサート（MTX）関連リンパ増殖性疾患の病態解明のための多施設共同研究

## IV . 業績集

臨床研究企画管理部

【論文】

	著者	題目	掲載誌 巻(号) : 頁	発行年月
1	Hasegawa D, Imamura T, Yumura-Yagi K, Takahashi Y, Usami I, Suenobu SI, Nishimura S, Suzuki N, Hashii Y, Deguchi T, Moriya-Saito A, Kato K, Kosaka Y, Hirayama M, Iguchi A, Kawasaki H, Hori H, Sato A, Kudoh T, Nakahata T, Oda M, Hara J, <u>Horibe K</u>	Japan Association of Childhood Leukemia Study Group (JACLS). Risk-adjusted therapy for pediatric non-T cell ALL improves outcomes for standard risk patients: results of JACLS ALL-02.	Blood Cancer J. 2020 Feb 27;10(2):23.	2020.2
2	Koga Y, <u>Sekimizu M</u> , Iguchi A, Kada A, Saito AM, Asada R, Mori T, <u>Horibe K</u> .	Phase I study of brentuximab vedotin (SGN-35) in Japanese children with relapsed or refractory CD30-positive Hodgkin's lymphoma or systemic anaplastic	Int J Hematol. 2020 May;111(5):711-718. Epub 2020 Jan 20.	2020.1
3	Tsutsumi M, Hattori H, Akita N, Maeda N, Kubota T, <u>Horibe K</u> , Fujita N, Kawai M, Shinkai Y, Kato M, Kato T, Kawamura R, Suzuki F, Kurahashi H.	A female patient with retinoblastoma and severe intellectual disability carrying an X;13 balanced translocation without rearrangement in the RB1 gene: a case report.	BMC Med Genomics . 2019 Dec ;12(1):182.	2019.12
4	Kimura S, Seki M, Kawai T, Goto H, Yoshida K, Isobe T, Sekiguchi M, Watanabe K, Kubota Y, Nannya Y, Ueno H, Shiozawa Y, Suzuki H, Shiraishi Y, Ohki K, Kato M, Koh K, Kobayashi R, Deguchi T, Hashii Y, Imamura T, Sato A, Kiyokawa N, Manabe A, Sanada M, Mansour MR, Ohara A, <u>Horibe K</u> , Kobayashi M, Oka A, Hayashi Y, Miyano S, Hata K, <u>Ozawa S</u> , Takita J	DNA methylation-based classification reveals difference between pediatric T-cell acute lymphoblastic leukemia and normal thymocytes.	Leukemia. 2020 Apr;34(4):1163-1168. Epub 2019 Nov 15.	2019.11
5	Shiba N, Yoshida K, Hara Y, Yamato G, Shiraishi Y, Matsuo H, Okuno Y, Chiba K, Tanaka H, Kaburagi T, Takeuchi M, Ohki K, Sanada M, Okubo J, Tomizawa D, Taki T	Transcriptome analysis offers a comprehensive illustration of the genetic background of pediatric acute myeloid leukemia.	Blood Adv. 2019 Oct 22;3(20):3157-3169.	2019.10
6	Hara Y, Shiba N, Yamato G, Ohki K, Tabuchi K, Sotomatsu M, Tomizawa D, Kinoshita A, Arakawa H, Saito AM, Kiyokawa N, Tawa A, <u>Horibe K</u> , Taga T, Adachi S, Taki T,	Patients aged less than 3 years with acute myeloid leukaemia characterize a molecularly and clinically distinct subgroup.	Br J Haematol. 2020 Feb;188(4):528-539.	2020.2
7	Terui K, Toki T, Taga T, Iwamoto S, Miyamura T, Hasegawa D, Moritake H, Hama A, Nakashima K, Kanazaki R, Kudo K, Saito AM, <u>Horibe K</u> , Adachi S,	Highly sensitive detection of GATA1 mutations in patients with myeloid leukemia associated with Down syndrome by combining Sanger and targeted next generation sequencing.	Genes Chromosomes Cancer. 2020 Mar;59(3):160-167.	2020.3

8	Ishimaru S, Okamoto Y, Imai C, Sakaguchi H, Taki T, Hasegawa D, Cho Y, Kakuda H, Sano H, Manabe A, Imamura T, Kato M, Arakawa Y, Shimonodan H, Sato A, Suenobu S, Inukai T, Watanabe A, Kawano Y, Kikuta A, <u>Horibe K</u> , <u>Ohara A</u> , <u>Koh K</u>	Nationwide Survey of Pediatric Hypodiploid Acute Lymphoblastic Leukemia in Japan.	Pediatr Int. 2019 Nov;61(11):1103-1108. Epub 2019 Nov 21.	2019. 11
9	Hasegawa D, Yoshimoto Y, Kimura S, Kumamoto T, Maeda N, Hara J, Kikuta A, Kada A, Kimura T, Iijima-Yamashita Y, Saito AM, <u>Horibe K</u> , <u>Manabe A</u> , <u>Ogawa</u>	Bortezomib-containing therapy in Japanese children with relapsed acute lymphoblastic leukemia.	Int J Hematol. 2019 Nov;110(5):627-634. Epub 2019 Aug 10.	2019. 11
10	Sakamoto K, Shiba N, Deguchi T, Kiyokawa N, Hashii Y, Moriya-Saito A, Tomizawa D, Taga T, Adachi S, <u>Horibe K</u> , <u>Imamura T</u> .	Negative CD19 expression is associated with inferior relapse-free survival in children with RUNX1-RUNX1T1-positive acute myeloid leukaemia: results from the Japanese Paediatric Leukaemia/Lymphoma Study Group AML-	Br J Haematol. 2019 Nov;187(3):372-376. Epub 2019 Jun 27.	2019. 11
11	Takachi T, Arakawa Y, Nakamura H, Watanabe T, Aoki Y, Ohshima J, Takahashi Y, Hirayama M, Miyamura T, Sugita K, Koh K, <u>Horibe K</u> , <u>Ishii E</u> , <u>Mizutani S</u> , <u>Tomizawa D</u> .	Personalized pharmacokinetic targeting with busulfan in allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in infants with acute lymphoblastic leukemia.	Int J Hematol. 2019 Sep;110(3):355-363.	2019. 9
12	Hirano H, Shimizu C, Kawachi A, Ozawa M, Higuchi A, Yoshida S, Shimizu K, Tataru R, <u>Horibe K</u> .	Preferences Regarding End-of-Life Care Among Adolescents and Young Adults With Cancer: Results From a Comprehensive Multicenter Survey in Japan.	J Pain Symptom Manage. 2019 Aug;58(2):235-243. e1.	2019. 8
13	Fujino H, Ishida H, Iguchi A, Onuma M, Kato K, Shimizu M, Yasui M, Fujisaki H, Hamamoto K, Washio K, Sakaguchi H, Miyashita E, Osugi Y, Nakagami-Yamaguchi E, Hayakawa A, Sato A, Takahashi	High rates of ovarian function preservation after hematopoietic cell transplantation with melphalan-based reduced intensity conditioning for pediatric acute leukemia: an analysis from the Japan Association of Childhood Leukemia Study (JACLS).	Int J Hematol . 2019 May;109(5):578-583.	2019. 5
14	Miyamura, T., Moritake, H., Nakayama, H., Tanaka, S., Tomizawa, D., Shiba, N., Saito, A. M., Tawa, A., Shimada, A., Iwamoto, S., Hayashi, Y., Koike, T., <u>Horibe, K.</u> , <u>Manabe, A.</u> , <u>Mizutani, S.</u> , <u>Taga, T.</u> and	Clinical and biological features of paediatric acute myeloid leukaemia (AML) with primary induction failure in the Japanese Paediatric Leukaemia/Lymphoma Study Group AML-05 study	Br J Haematol . 2019 Apr;185(2):284-288	2019. 4
15	Usami, I., Imamura, T., Takahashi, Y., Suenobu, S., Hasegawa, D., Hashii, Y., Deguchi, T., Hori, T., Shimada, A., Kato, K., Ito, E., Moriya-Saito, A., Kawasaki, H., Hori, H., Yumura-Yagi, K., Hara, J., Sato,	Discontinuation of l-asparaginase and poor response to prednisolone are associated with poor outcome of ETV6-RUNX1-positive pediatric B-cell precursor acute lymphoblastic leukemia	Int J Hematol . 2019 Apr;109(4):477-482.	2019. 4

16	Yanagaisawa, R., Matsuda, K., Ohga, S., Kanegane, H., Morimoto, A., Okamoto, Y., Ohara, A., Fukushima, K., Sotomatsu, M., Nomura, K., Saito, A. M., Horibe, K., Ishii, E. and	Factors predicting the recurrence of Epstein-Barr virus-associated hemophagocytic lymphohistiocytosis in children after treatment using the HLH-2004 protocol	Int J Hematol . 2019 May;109(5):612-617.	2019. 5
17	Hasegawa, D., Imamura, T., Yumura-Yagi, K., Takahashi, Y., Usami, I., Suenobu, S., Nishimura, S., Suzuki, N., Hashii, Y., Deguchi, T., Moriya-Saito, A., Kato, K., Kosaka, Y., Hirayama, M., Iguchi, A., Kawasaki, H., Hori, H., Sato, A., Kudoh, T., Nakahata, T., Oda, M., Hara, J., Horibe, K. and Japan Assoc Childhood,	Risk-adjusted therapy for pediatric non-T cell ALL improves outcomes for standard risk patients: results of JACLS ALL-02	Blood Cancer J . 2020 Feb 27;10(2):23.	2020. 2
18	堀部 敬三	【造血器腫瘍に対する新しい標準治療・開発中の治療薬】急性リンパ性白血病(ALL) プリナツモマブ	腫瘍内科24巻6号 Page575-580	2020. 2
19	堀部 敬三	【AYA世代のがんを考える】なぜAYA世代のがんが注目されるのか	保健の科学(0018-3342)61巻8号 Page508-513(2019. 08)	2019. 8
20	齋藤 明子, 傍島 秀晃, 目黒 文江, 福田 祐介, 稲吉 美由紀, 近藤 直樹, 平野 隆司, 米島 正, 中村 和美, 鶴田 優子, 長門 佳世子, 平野 陽子, 石山 薫, 辻本 有希恵, 小松原 一雄, 松下 五十鈴, 佐藤 榮梨, 麻生嶋 和子, 田島 実弥, 若狭 健太郎, 西村 友美, 武田 和憲, 江面 正幸, 松本 純夫, 武田 純三, 大島 久二, 是恒 之宏, 上松 正朗, 井口 東郎, 石井 浩, 岡田 靖, 大野 真司, 堀部 敬	ICH-GCP適用臨床試験に必要な効率化された施設訪問モニタリング支援体制の構築	薬理と治療(0386-3603)47巻Suppl. 1 Page s67-s86(2019. 08)	2019. 8
21	安田 貴彦, 堀部 敬三	造血器腫瘍領域におけるプレジジョン・メディシン	臨床血液(0485-1439)60巻9号 Page1386-1395(2019. 09)	2019. 8
22	田崎 牧子, 土屋 雅子, 富田 眞紀子, 荒木 夕宇子, 古屋 佑子, 平岡 晃, 堀部 敬三, 高橋 都	小児期、思春期、若年成人期発症がん経験者の就労に関するシステマティックレビュー	日本小児血液・がん学会雑誌(2187-011X)56巻1号 Page19-31(2019. 04)	2019. 9
23	土屋雅子、高橋 都、清水千佳子、小澤美和、樋口明子、桜井なおみ、堀	思春期・若年成人期(AYA期)発症がんサバイバーの就労に対する意識と医療施設・事業場での支援ニーズ	癌と化学療法(0385-0684)46巻4号 Page691-695(2019. 04)	2019. 4
24	森川 真紀, 尾崎 紀夫, 服部 浩佳, 堀部 敬三, 西田 佳弘	AYA世代の骨・軟部肉腫診療 AYA世代の骨・軟部肉腫患者およびサバイバーに対する遺伝カウンセリングの重要性	日本整形外科学会雑誌 93号12巻1067-1073	2019. 12
25	前田 尚子, 堀部 敬三, 西田 佳弘	AYA世代の骨・軟部肉腫診療 AYA世代骨・軟部肉腫サバイバーの晩期合併症と長期フォローアップ	日本整形外科学会雑誌93巻12号Page1062-1066	2019. 12
26	Kada A, Fukano R, Mori T, Kamei M, Tanaka F, Ueyama J, Sekimizu M, Osumi T, Mori T, Koga Y, Ohki K, Fujita N, Mitsui T, Saito AM, Hashimoto H, Kobayashi R	A Multicenter, Open-label, Clinical Trial to Assess the Effectiveness and Safety of Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation Using Reduced-intensity Conditioning in Relapsed/refractory Anaplastic Large-cell Lymphoma in Children	Acta Med Okayama 74(1):89-94	2020. 2

27	Ozeki M, Nozawa A, Yasue S, Endo S, Asada R, Hashimoto H, Fukao T.	The impact of sirolimus therapy on lesion size, clinical symptoms, and quality of life of patients with lymphatic anomalies.	Orphanet J Rare Dis. 14(1):141.	2019. 6
28	Nakagawa T, Hashimoto H, Yagi M, Kogure Y, Sekimizu M, Saito AM, Ogawa K, Inoue Y.	Multicentre, open label, randomised controlled trial comparing intermittent versus daily treatment for non-cavitary nodular/bronchiectatic Mycobacterium avium complex lung disease with rifampicin, ethambutol and clarithromycin (iREC): study protocol	BMJ Open Respir Res. 6(1):e000434.	2019年5

【学会発表】

	発表者	題目	発表機関	発表年月 (場所)
1	堀部敬三	AYA世代のがん 合同市民公開講座「がんとともに明日を生きる」	第30回日本医学会総会 2019中部第116回日本内科学会講演会	2019/4/26 名古屋
2	堀部敬三	特別講演 JACLS(小児白血病研究会)からJPLSG(JCCG血液腫瘍分科会)へ: 歴史と展望	第8回CCLSG/JACLS夏季セミナー	2019/7/1 滋賀
3	鈴木 礼子, 佐治 重衡, 堀部 敬三, 清水 千佳子	AYA世代の乳がん患者と向き合う 乳がん患者の抱える栄養と運動についての課題	第27回日本乳癌学会総会	2019/7/1 東京
4	堀部敬三	AYA世代における造血器腫瘍治療とブリナツモマブの役割	第133回沖縄臨床血液研究会	2019/7/26 沖縄
5	堀部敬三	A Phase 1b/2 Study of Blinatumomab in Japanese Subjects with Relapsed/Refractory Acute	第17回日本臨床腫瘍学会 学術集会	2019/7/18 京都
6	堀部敬三	パネルディスカッションNetwork formation in clinical research of rare cancers 希少がんの臨床研究にお	第17回日本臨床腫瘍学会 学術集会	2019/7/20 京都
7	堀部敬三	わが国の小児白血病リンパ腫の治療開発の歴史と展望	第54回小児血液腫瘍症例検討会	2020/1/11 東京
8	富中 美幸, 村端 真由美, 天野 敬史郎, 加藤 由香, 渡邊 健一郎, 前田 尚子, 堀部 敬三, 平山 雅浩	思春期の小児がん経験者と健常児の身体活動と健康関連QOL	第17回日本小児がん看護学会	2019/11/1 広島
9	富中 美幸, 村端 真由美, 谷村 晋, 天野 敬史郎, 堀部 敬三, 前田 尚子, 渡邊 健一郎, 加藤 由香, 平山 雅浩	中高生の身体活動と健康関連QOLの現状	第66回日本小児保健協会 学術集会	2019/6/1 東京
10	新井 英介, 西田 佳弘, 浦川 浩, 生田 国大, 大田 剛広, 酒井 智久, 前田 尚子, 服部 浩佳, 堀部 敬三	導入化学療法にVAIAを使用したEwing肉腫の治療成績	第52回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会	2019/7/1 埼玉
11	林 誠, 松野 英美, 近藤 建, 前田 尚子, 堀部 敬三, 中井 正彦	苦痛のスクリーニングを用いたAYA世代の苦痛に関する検討	第24回 日本緩和医療学会学術大会	2019/6/1 横濱
12	川崎 朋範, 寺本 典弘, 星田 義彦, 伊東 正博, 村田 有也, 倉岡 和矢, 谷山 清己, 大岩 幹直, 堀部 敬三, 永井 宏和	乳腺における神経内分泌腫瘍 Neuroendocrine mammary neoplasms	第73回国立病院総合医学会	2019/11/1 名古屋
13	Hiroya Hashimoto,	A SAS macro for visualization of a Bayesian single-arm phase II design and its application.	SIOP Europe 2019 Annual Meeting, Prague, Czech Republic	2019. 5 (Prague)

臨床疫学研究室

【論文】

著者	題目	掲載誌 巻(号) : 頁	発行年月
----	----	--------------	------

1	Miyamura T, Moritake H, Nakayama H, Tanaka S, Tomizawa D, Shiba N, <u>Saito AM</u> , Tawa A, Shimada A, Iwamoto S, Hayashi Y, Koike T, Horibe K, Manabe A, Mizutani S, Taga T, Adachi S.	Clinical and biological features of paediatric acute myeloid leukaemia (AML) with primary induction failure in the Japanese Paediatric Leukaemia/Lymphoma Study Group AML-05 study.	Br J Haematol. 185(2):284-288.	2019. 4
2	Kitagawa C, Mori M, Ichiki M, Sukoh N, Kada A, <u>Saito AM</u> , Ichinose Y.	Gefitinib Plus Bevacizumab vs. Gefitinib Alone for EGFR Mutant Non-squamous Non-small Cell Lung Cancer	In Vivo. 33(2):477-482.	2019. 3-4
3	Nakagawa T, Hashimoto H, Yagi M, Kogure Y, Sekimizu M, <u>Saito AM</u> , Ogawa K, Inoue Y.	Multicentre, open label, randomised controlled trial comparing intermittent versus daily treatment for non-cavitary nodular/bronchiectatic Mycobacterium avium complex lung disease with rifampicin, ethambutol and clarithromycin (iREC): study protocol	BMJ Open Respir Res. 30;6(1):e000434.	2019. 5
4	Yanagaisawa R, Matsuda K, Ohga S, Kanegane H, Morimoto A, Okamoto Y, Ohara A, Fukushima K, Sotomatsu M, Nomura K, <u>Saito AM</u> , Horibe K, Ishii E, Nakazawa Y.	Factors predicting the recurrence of Epstein-Barr virus-associated hemophagocytic lymphohistiocytosis in children after treatment using the HLH-2004 protocol.	Int J Hematol. 109(5):612-617.	2019. 5
5	Saka H, Oki M, Kada A, <u>Saito AM</u> .	An Open-label, Single-arm Study of CRYO2 for Debulking at the Site of Central Airway Obstruction or Stenosis.	In Vivo. 33(5):1641-1644.	2019 9-10
6	Sakamoto K, Shiba N, Deguchi T, Kiyokawa N, Hashii Y, Moriya-Saito A, Tomizawa D, Taga T, Adachi S, Horibe K, Imamura T.	Negative CD19 expression is associated with inferior relapse-free survival in children with RUNX1-RUNX1T1-positive acute myeloid leukaemia: results from the Japanese Paediatric Leukaemia/Lymphoma Study Group AML-	Br J Haematol. 187(3):372-376.	2019. 11
7	Hasegawa D, Yoshimoto Y, Kimura S, Kumamoto T, Maeda N, Hara J, Kikuta A, Kada A, Kimura T, Iijima-Yamashita Y, <u>Saito AM</u> , Horibe K, Manabe A, Ogawa C.	Bortezomib-containing therapy in Japanese children with relapsed acute lymphoblastic leukemia.	Int J Hematol. 110(5):627-634.	2019. 11
8	Ohmori H, Kada A, Nakamura M, <u>Saito AM</u> , Sanayama Y, Shinagawa T, Fujita H, Wakisaka A, Maruhashi K, Mizukami A, Takizawa N, Murata H, Inoue M, Kaneko H, Taniguchi H, Sano N, Tanuma N, Kumode M, Takechi T, Koretsune Y, Sumimoto R, Miyamoto T.	Deep Vein Thrombosis in Severe Motor and Intellectual Disabilities Patients and Its Treatment by Anticoagulants of Warfarin Versus Edoxaban.	Ann Vasc Dis. 25;12(3):372-378.	2019. 9
9	Yamasaki S, Kada A, Nagai H, Yoshida I, Choi I, <u>Saito AM</u> , Iwasaki H.	Phase II Trial Using Romidepsin after Gemcitabine, Dexamethasone, and Cisplatin Therapy in Elderly Transplant-Ineligible Patients with Relapsed/Refractory Peripheral T-Cell Lymphoma: Study Protocol	Acta Med Okayama. 73(5):469-474.	2019. 1
10	Yokoyama A, Kada A, <u>Saito AM</u> , Sawamura M, Komeno T, Sunami K, Takezako N.	Phase II Study of Treatment for Newly Diagnosed Multiple Myeloma Patients Over 75 Years Old with Alternating Bortezomib/dexamethasone and Lenalidomide/dexamethasone: the	Acta Med Okayama. 73(6):547-552.	2019. 12

11	Hara Y, Shiba N, Yamato G, Ohki K, Tabuchi K, Sotomatsu M, Tomizawa D, Kinoshita A, Arakawa H, <u>Saito AM</u> , Kiyokawa N, Tawa A, Horibe K, Taga T, Adachi S, Taki	Patients aged less than 3 years with acute myeloid leukaemia characterize a molecularly and clinically distinct subgroup.	Br J Haematol. 188(4):528-539.	2020.2
12	Kada A, Fukano R, Mori T, Kamei M, Tanaka F, Ueyama J, Sekimizu M, Osumi T, Mori T, Koga Y, Ohki K, Fujita N, Mitsui T, <u>Saito AM</u> , Hashimoto H, Kobayashi R	A Multicenter, Open-label, Clinical Trial to Assess the Effectiveness and Safety of Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation Using Reduced-intensity Conditioning in Relapsed/refractory Anaplastic Large-cell Lymphoma in Children	Acta Med Okayama. 74(1):89-94.	2020.2
13	Hasegawa D, Imamura T, Yumura-Yagi K, Takahashi Y, Usami I, Suenobu SI, Nishimura S, Suzuki N, Hashii Y, Deguchi T, Moriya- <u>Saito A</u> , Kato K, Kosaka Y, Hirayama M, Iguchi A, Kawasaki H, Hori H, Sato A, Kudoh T, Nakahata T, Oda M, Hara J, Horibe K; Japan Association of Childhood Leukemia Study Group (JACLS)	Risk-adjusted therapy for pediatric non-T cell ALL improves outcomes for standard risk patients: Results of JACLS ALL-02.	Blood Cancer J. 27;10(2):23.	2020.2
14	Takase K, Nagai H, Kadono M, Yoshioka T, Yoshio N, Hirabayashi Y, Ito T, Sawamura M, Yokoyama A, Yoshida S, Tsutsumi I, Otsuka M, Suehiro Y, Hidaka M, Yoshida I, Yokoyama H, Inoue H, Iida H, Nakayama M, Hishita T, Iwasaki H, Kada A, <u>Saito AM</u> , Kuroda Y	High-dose dexamethasone therapy as the initial treatment for idiopathic thrombocytopenic purpura.	Int J Hematol. 111(3):388-395.	2020.3

【学会発表】

	発表者	題目	発表機関	発表年月 (場所)
1	齋藤 明子	小児血液がん領域の研究における臨床研究法への対応	日本臨床試験学会 第5回教育セミナー	2019.8 (東京)
2	崔 日承, 宮田 泰彦, 吉田 功, 末廣 陽子, 平林 幸生, 日高 道弘, 米野 琢哉, 日下 輝俊, 上野 博則, 角南 一貴, 緒方 優子, 岩崎 浩己, 吉田 真一郎, 黒澤 光俊, 齋藤 明子, 永井 宏和	80歳以上の高齢者びまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対するR-mini CHP療法の第II相臨床試験 (R-mini CHP)	第81回日本血液学会学術集会	2019.10 (東京)
3	照井 君典, 土岐 力, 多賀 崇, 岩本 彰太郎, 宮村 能子, 富澤 大輔, 長谷川 大輔, 盛武 浩, 濱麻人, 中島 健太郎, 金崎 里香, 齋藤 明子, 堀部 敬三, 足立 壮一, 伊藤 悦朗	Down症候群関連骨髄性白血病におけるGATA1遺伝子変異解析: AML-D11登録症例の解析結果	第81回日本血液学会学術集会	2019.10 (東京)

4	齋藤 健, 八田 善弘, 早川 文彦, 今井 陽俊, 矢萩 裕一, 高橋 勉, 萩原真紀, 飯田 浩充, 皆内康一郎, 山崎 悦子, 杉浦 勇, 村山 徹, 佐倉 徹, 森 直樹, 熱田 由子, 齋藤 明子, 平川 晃弘, 清井 仁, 松村 到, 宮崎 泰司	再発難治成人急性リンパ性白血病に対するCLEC療法; JALSG RR-ALL214 (第一相試験)	第81回日本血液学会学術集会	2019.10 (東京)
5	富田 章裕, 安田 貴彦, 真田 昌, 三好 寛明, 大島 孝一, 加留部 謙之輔, 錦織 桃子, 倉橋 浩樹, 入山 智沙子, 岡本 晃直, 平賀 潤二, 楠本 茂, 福原 規子, 山本 松雄, 齋藤 明子, 永井 宏和, 岡本 昌隆, 服部 浩佳, 金森 貴之, 西島 大, 白石 友一, 宮野 悟, 小川 誠司, 堀部 敬三	悪性リンパ腫におけるクリニカルシーケンス: 臨床現場における網羅的遺伝子解析の実現可能性に関する研究	第81回日本血液学会学術集会	2019.10 (東京)
6	森 鉄也, 関水 匡大, 深野 玲司, 崔 日承, 竹内 賢吾, 立石 宇貴秀, 寺内 隆司, 嘉田 晃子, 齋藤 明子, 浅田 隆太, 堀部 敬三, 永井 宏和	小児および成人の再発または難治性ALK陽性ALCLに対するアレクチニブの第2相医師主導治験	第81回日本血液学会学術集会	2019.10 (東京)
7	横山 寿行, 安田 貴彦, 石川 裕一, 白杵 憲祐, 矢野 真吾, 伊藤 良和, 康 史朗, 木口 亨, 宮田 泰彦, 清井 仁, 松村 到, 宮崎 泰司, 服部 浩佳, 西島 大, 山本 松雄, 齋藤 明子, 倉橋 浩樹, 白石 友一, 宮野 悟, 真田 昌, 小川 誠司, 堀部 敬三	急性骨髄性白血病に対するクリニカルシーケンス実行可能性を検証する多施設共同研究	第81回日本血液学会学術集会	2019.10 (東京)
8	平林 真介, 安田 貴彦, 真田 昌, 服部 浩佳, 西島 大, 倉橋 浩樹, 白石 友一, 山本 松雄, 齋藤 明子, 加藤 元博, 村松 秀城, 熊本 忠史, 後藤 裕明, 小林 良二, 足立 壮一, 宮野 悟, 小川 誠司, 堀部 敬三, 直部 淳	小児造血器腫瘍におけるクリニカルシーケンスの実行可能性に関する研究	第81回日本血液学会学術集会	2019.10 (東京)
9	李 政樹, 安田 貴彦, 半田 寛, 石田 禎夫, 柴山 浩彦, 安倍 正博, 金森 貴之, 真田 昌, 服部 浩佳, 西島 大, 倉橋 浩樹, 白石 友一, 山本 松雄, 齋藤 明子, 宮野 悟, 小川 誠司, 堀部 敬三, 飯田 真介	多発性骨髄腫におけるクリニカルシーケンスの実行可能性の研究	第81回日本血液学会学術集会	2019.10 (東京)
10	Yamato G, Muramatsu H, Watanabe T, Deguchi T, Iwamoto S, Hasegawa D, Terui K, Ueda T, Yokosuka T, Tanaka T, Yanagisawa R, Koh K, Saito AM, Horibe K, Hayashi Y, Adachi S, Mizutani S, Taga T, Ito E, Watanabe K	Predictive factors of leukemia in patients with transient abnormal myelopoiesis: JCCG JPLSG TAM-10 study-	第61回日本小児血液・がん学会学術集会	2019.11 (広島)

11	Takahiro Aoki, Hiroyuki Takahashi, Shiro Tanaka, Norio Shiba, Daiichiro Hasegawa, Shotaro Iwamoto, Kiminori Terui, Hiroshi Moritake, Hideki Nakayama, Akira Shimada, Katsuyoshi Koh, Hiroaki Goto, Yoshiyuki Kosaka, <u>Akiko Saito</u> , Keizo Horibe, Akitoshi Kinoshita, Daisuke Tomizawa, Takako Miyamura	Predisposition to prolonged neutropenia after chemotherapy was associated with better prognosis in patients with acute myeloid leukemia	第61回日本小児血液・がん学会学術集会	2019.11 (広島)
12	Akira Shimada, Daiichiro Hasegawa, Toshihiko Imamura, Makoto Kaneda, Keiko Yagi, Yoshihiro Takahashi, Ikuya Usami, Souichi Suenobu, Shinichiro Nishimura, Keiko Hashii, Takao Deguchi, <u>Akiko Saito</u> , Kouji Kato, Yoshiyuki Kosaka, Masahiro Hirayama, Akihiro Iguchi, Hirohide Kawasaki, Hiroki Hori, Atsushi Sato, Tatsutoshi Nakahata, Megumi Oda, Hiroo Ueno, Masashi Sanada, Akiko Saito, Keizo Horibe, Akitoshi Kinoshita, Daisuke Tomizawa, Takako Miyamura	Genetic Alterations in Acute Mixed Leukemia, Result of JACLS-ALL02 study	第61回日本小児血液・がん学会学術集会	2019.11 (広島)
13	Yuki Arakawa, Junjiro Oshima, Toshihiko Imamura, Shohei Yamamoto, Atsushi Ogawa, Katsuyoshi Koh, Kunihiro Shinoda, Kozo Nagai, Hajime Hosoi, <u>Akiko Saito</u> , Atsushi Manabe, Daisuke Tomizawa, Takako Miyamura	Retrospective study on post-chemotherapy immune status of infants with low-and intermediate risk ALL: a report from the JPLSG MLL-10 trial	第61回日本小児血液・がん学会学術集会	2019.11 (広島)
14	Daisuke Tomizawa, Takako Miyamura, Toshihiko Imamura, Tomoyuki Watanabe, <u>Akiko Saito</u> , Atsushi Ogawa, Yoshihiro Takahashi, Masahiro Hirayama, Yuki Arakawa, Tomohiko Taki, Takao Deguchi, Toshinori Horii, Sakae Omori, Masami Haba, Akihiro Iguchi, Yuhki Koga, Atsushi Manabe, Keizo Horibe, Eiichi Taki, Katsuyoshi Koh	Risk stratification for infants with acute lymphoblastic leukemia: a report from the Japanese Pediatric Leukemia/Lymphoma Study Group MLL-10 trial	第61回日本小児血液・がん学会学術集会	2019.11 (広島)
15	Hisashi Ishida, Mio Yano, Takako Miyamura, Asahito Hama, Yoshiyuki Kosaka, Junichi Hara, <u>Akiko Saito</u> , Atsushi Sato, Hiroki Hori, Keizo Horibe, Toshihiko	Outcome of hematopoietic stem cell transplantation in complete remission for patients enrolled in JACLS ALL-02 study	第61回日本小児血液・がん学会学術集会	2019.11 (広島)

16	Mio Yano, Hisashi Ishida, Junichi Hara, Hiroshi Kawaguchi, Etsuro Ito, <u>Akiko Saito</u> , Atsushi Sato, Hiroki Hori, Keizo Horibe, Toshihiko Imamura	Outcome of hematopoietic stem cell transplantation in non-complete remission the patients enrolled in JACLS ALL-02 study	第61回日本小児血液・がん学会学術集会	2019.11 (広島)
17	Masahiro Sekimizu, Yuhki Koga, Akihiro Iguchi, Tetsuya Mori, Ryuta Asada, Akiko Kada, <u>Akiko Saito</u> , Keizo Horibe	Phase I trial of brentuximab vedotin for children with recurrent or refractory Hodgkin's lymphoma or systemic anaplastic large cell lymphoma	第61回日本小児血液・がん学会学術集会	2019.11 (広島)
18	Tetsuya Mori, Masahiro Sekimizu, Reiji Fukano, Ilseung Choi, Kengo Takeuchi, Ukihide Tateishi, Takashi Terauchi, Akiko Kada, <u>Akiko Saito</u> , Ryuta Asada, Keizo Horibe, Hirokazu	Alectinib in children with recurrent or refractory ALK-positive ALCL: phase 2 trial in both children and adults	第61回日本小児血液・がん学会学術集会	2019.11 (広島)
19	Akira Hayakawa, Yuki Nogami, Kazutoshi Koike, Hisamichi Tauchi, Eiichi Ishii, Katsuyoshi Koh, Takako Miyamura, Yasushi Ishida, <u>Akiko Saito</u> , Keizo Horibe, Atsushi Manabe, Miho Maeda, Daisuke Tomizawa	Late effects in survivors of infantile acute lymphoblastic leukemia: JILSG MLL96/98 & JPLSG MLL03 study follow-up	第61回日本小児血液・がん学会学術集会	2019.11 (広島)
20	Tomizawa D, Miyamura T, Imamura T, Watanabe T, <u>Saito AM</u> , Ogawa A, Takahashi Y, Hirayama M, Arakawa Y, Taki T, Deguchi T, Hori T, Omori S, Haba M, Iguchi A, Koga Y, Manabe A, Horibe K, Ishii E, Koh K	Intensive Chemotherapy Along with Aggressive Supportive Care Can Spare Stem Cell Transplantation in a Subset of Patients without Compromising an Outcome in Infants with Acute Lymphoblastic Leukemia; A Report from the Japanese Pediatric Leukemia/Lymphoma Study Group (JPLSG) Trial MLL-10.	61th ASH Annual Meeting & Exposition.	2019.12 (Orlando)
21	Taga T, Tanaka S, Terui K, Iwamoto S, Hiramatsu H, Miyamura T, Hashii Y, Hasegawa D, Moritake H, Nakayama H, Takahashi H, Shimada A, Taki T, Toki T, Ito E, Koh K, Hasegawa D, Hama A, <u>Saito AM</u> , Adachi S	Post-Induction Minimal Residual Disease Measured By Flow Cytometry and Deep Sequencing of Mutant GATA1 Are Both Significant Prognostic Factors for Children with Myeloid Leukemia and Down Syndrome: A Nationwide Prospective Study of the Japanese Pediatric Leukemia/Lymphoma Study Group.	61th ASH Annual Meeting & Exposition.	2019.12 (Orlando)
22	Mio Yano, Hisashi Ishida, Yoshiko Hashii, Asahito Hama, Yoshiyuki Kosaka, Tsukasa Hori, Junichi Hara, Hiroshi Kawaguchi, Etsuro Ito, <u>Akiko M Saito</u> , Atsushi Sato, Hiroki Hori, Keizo Horibe	Outcome of Hematopoietic Stem Cell Transplantation in the Patients with Pediatric Acute Lymphoblastic Leukemia Enrolled in the Japan Association of Childhood Leukemia Study (JACLS) ALL-02.	61th ASH Annual Meeting & Exposition.	2019.12 (Orlando)

23	Yuki Aoki, Akira Hayakawa, Kazutoshi Koike, Hisamichi Tauchi, Eiichi Ishii, Katsuyoshi Koh, Takako Miyamura, Yasushi Ishida, Akiko Kada, <u>Akiko M Saito</u> , Atsushi Manabe, Keizo Horibe, Shuki Mizutani, Miho Maeda, Daisuke Tomizawa	Late Effects in Survivors of Infant Acute Lymphoblastic Leukemia from the 3 Consecutive Japanese Nationwide Clinical Trials.	61th ASH Annual Meeting & Exposition.	2019.12 (Orlando)
24	Haruko Shima, Akiko Kada, Akihiko Tanizawa, Yuki Yuza, Akihiro Watanabe, Masaki Ito, Hideko Uryu, Katsuyoshi Koh, Chihaya Imai, Nao Yoshida, Yuhki Koga, Naoto Fujita, <u>Akiko M Saito</u> , Souichi Adachi, Eiichi Ishii, Hiroyuki	Discontinuation of Tyrosine Kinase Inhibitor in Children with Chronic Myeloid Leukemia (JPLSG STKI-14 study).	61th ASH Annual Meeting & Exposition.	2019.12 (Orlando)
25	Genki Yamato, Hideki Muramatsu, Tomoyuki Watanabe, Takao Deguchi, Shotaro Iwamoto, Daisuke Hasegawa, Kiminori Terui, Takahiro Ueda, Tomoko Yokosuka, Tsutomu Toki, Shiro Tanaka, Ryu Yanagisawa, Katsuyoshi Koh, <u>Akiko M Saito</u> , Keizo Horibe, Yasuhide Hayashi, Souichi Adachi, Shuki Mizutani, Takashi	Predictive Factors of the Development of Leukemia in Patients with Transient Abnormal Myelopoiesis and Down Syndrome: The Jccg Study JPLSG TAM-10	61th ASH Annual Meeting & Exposition.	2019.12 (Orlando)
26	中島 真理子、永井 かわり、西岡 絵美子、三和 郁子、佐藤 則子、生越 良枝、竹内 一美、米島 麻三子、岡野 美江、長崎 智代香、渡邊 莉紗、今井 優子、高村 圭、早瀬 環、山田 紫布、縣 久美子、宇津野 美登里、森下 明野、堀部 敬三、永井 安和、齋藤 明	特定臨床研究におけるCOI管理支援の紙ベース運用とEDC運用の労力比較	日本臨床試験学会 第11回学術集会総会	2020.2 (東京)
27	永井 かわり、齋藤 俊樹、山本 松雄、西岡 絵美子、三和 郁子、佐藤 則子、生越 良枝、竹内 一美、米島 麻三子、岡野 美江、長崎 智代香、渡邊 莉紗、今井 優子、高村 圭、早瀬 環、中島 真理子、山田 紫布、縣 久美子、宇津野 美登里、森下 明野、堀部 敬三、永井 安和、齋藤 明	多施設共同研究における認定臨床研究審査委員会への医薬品疾病等報告支援体制の構築	日本臨床試験学会 第11回学術集会総会	2020.2 (東京)

28	西岡 絵美子、永井 かおり、三和 郁子、佐藤 則子、生越 良枝、竹内 一美、岡野 美江、長崎 智代香、渡邊 莉紗、今井 優子、高村 圭、早瀬 環、中島 真理子、山田 紫布、縣 久美子、宇津野 美登里、森下 明野、濱野 康司、近藤 修平、齋藤 俊樹、堀部 敬三、永井 宏和、齋藤 明子	問合わせの内容分析とIT化による省力化の効果	日本臨床試験学会 第11回学術集会総会	2020.2 (東京)
29	米島 麻三子、永井 かおり、西岡 絵美子、三和 郁子、佐藤 則子、生越 良枝、竹内 一美、岡野 美江、長崎 智代香、渡邊 莉紗、今井 優子、高村 圭、早瀬 環、中島 真理子、山田 紫布、縣 久美子、宇津野 美登里、森下 明野、堀部 敬三、永井 宏和、齋藤 明子	有害事象grade収集形式の標準化による集計時間の省力化に関する検討	日本臨床試験学会 第11回学術集会総会	2020.2 (東京)
30)	齋藤 明子	多施設共同研究における臨床研究法への対応	日本臨床試験学会 第11回学術集会総会	2020.2 (東京)

## 情報システム研究室

### 【学会発表】

	発表者	題目	発表機関	発表年月 (場所)
1)	齋藤 俊樹, 安田 貴彦, 真田 昌, 永井 宏和, 堀部 敬三	がん領域におけるクリニカルシーケンスのための臨床ゲノム情報データベースの開発	第78回日本癌学会学術総会	2019年9月 (京都)
2)	齋藤 俊樹, 濱野 康司, 山本 松雄, 安田 貴彦, 近藤 修平, 真田 昌, 永井 宏和, 堀部 敬三	がん領域におけるクリニカルシーケンスのための臨床ゲノム情報データベースの開発	第57回 日本癌治療学会学術集会	2019年10月 (福岡)
3)	齋藤 俊樹, 濱野 康司, 山本 松雄, 近藤 修平, 永井 宏和, 安田 貴彦, 真田 昌, 堀部 敬三	がん領域におけるクリニカルシーケンスのための臨床ゲノム情報データベースの開発	第81回日本血液学会学術集会	2019年10月 (東京)
4)	齋藤 俊樹, 濱野 康司, 安田 貴彦, 山本 松雄, 真田 昌, 齋藤 明子, 堀部 敬三, 永井 宏和	がん臨床ゲノム情報データベース(ノンク, Knonc)の開発と運用	第二回日本メディカルAI学会学術集会	2020年2月 (東京)
5)	西岡 絵美子、永井 かおり、三和 郁子、佐藤 則子、生越 良枝、竹内 一美、岡野 美江、長崎 智代香、渡邊 莉紗、今井 優子、高村 圭、早瀬 環、中島 真理子、山田 紫布、縣 久美子、宇津野 美登里、森下 明野、濱野 康司、近藤 修平、齋藤 俊樹、堀部 敬三、永井 宏和、齋藤 明子	問合わせの内容分析とIT化による省力化の効果	日本臨床試験学会 第11回学術集会総会	2020年2月 (東京)

生物統計研究室

1	Kurogi R, <u>Kada A</u> , Ogasawara K, Kitazono T, Sakai N, Hashimoto Y, Shiokawa Y, Miyachi S, Matsumaru Y, Iwama T, Tominaga T, Onozuka D, Nishimura A, Arimura K, Kurogi A, Ren N, Hagihara A, Nakaoku Y, Arai H, Miyamoto S, Nishimura	Effects of case volume and comprehensive stroke center capabilities on patient outcomes of clipping and coiling for subarachnoid hemorrhage.	J Neurosurg. 2020 Mar 13:1-11. [Epub ahead of print]	2020.3
2	Takase K, <u>Nagai H</u> , Kadono M, Yoshioka T, Yoshio N, Hirabayashi Y, Ito T, Sawamura M, Yokoyama A, Yoshida S, Tsutsumi I, Otsuka M, Suehiro Y, Hidaka M, Yoshida I, Yokoyama H, Inoue H, Iida H, Nakayama M, Hishita T, Iwasaki H, <u>Kada A</u> , <u>Saito AM</u> , <u>Kuroda Y</u>	High-dose dexamethasone therapy as the initial treatment for idiopathic thrombocytopenic purpura.	Int J Hematol. 111(3):388-395.	2020.3
3	<u>Kada A</u> , Fukano R, Mori T, Kamei M, Tanaka F, Ueyama J, <u>Sekimizu M</u> , Osumi T, Mori T, Koga Y, Ohki K, Fujita N, Mitsui T, <u>Saito AM</u> , <u>Hashimoto H</u> , Kobayashi R.	A multicenter, open-label, clinical trial to assess the effectiveness and safety of allogeneic hematopoietic stem cell transplantation using reduced-intensity conditioning in relapsed/refractory anaplastic large-cell lymphoma in children.	Acta Med Okayama. 74(1):89-94.	2020.2
4	Yokoyama A, <u>Kada A</u> , <u>Saito AM</u> , Sawamura M, Komeno T, Sunami K, Takezako N.	Phase II study of treatment for newly diagnosed multiple myeloma patients over 75 years old with alternating bortezomib/dexamethasone and lenalidomide/dexamethasone: the	Acta Med Okayama. 73(6):547-552.	2019.12
5	Okamoto S, Somiya N, M Saito A, Kada A, Oki M, Saka H, Tomita A.	A prospective, randomized trial comparing respiratory status during anesthesia for airway stenting: spontaneous respiration versus controlled ventilation with muscle relaxants.	Anesth Analg. 2019 Nov 21. [Epub ahead of print]	2019.11
6	Yamasaki S, <u>Kada A</u> , <u>Nagai H</u> , Yoshida I, Choi I, <u>Miyata Y</u> , Miyazawa Y, <u>Saito A</u> , Iwasaki H.	Rituximab-mediated complement-dependent cytotoxicity enhanced by gemcitabine in older patients with previously rituximab-treated diffuse large B-cell lymphoma: study protocol.	Kurume Med J. 2019 Nov 29. [Epub ahead of print]	2019.11
7	Shima H, <u>Kada A</u> , Tanizawa A, Yuza Y, Watanabe A, Ito M, Uryu H, Koh K, Imai C, Yoshida N, Koga Y, Fujita N, <u>Saito AM</u> , Adachi S, Ishii E, Shimada H.	Discontinuation of tyrosine kinase inhibitor in children with chronic myeloid leukemia (JPLSG STKI-14 study).	Blood. 2019. 134(Supplement_1):25.	2019.11
8	Hasegawa D, Yoshimoto Y, Kimura S, Kumamoto T, <u>Maeda N</u> , Hara J, Kikuta A, <u>Kada A</u> , Kimura T, <u>Iijima-Yamashita Y</u> , <u>Saito AM</u> , <u>Horibe K</u> , Manabe A, Ogawa C.	Bortezomib-containing therapy in Japanese children with relapsed acute lymphoblastic leukemia.	Int J Hematol. 110(5):627-634.	2019.11

9	<u>Kada A</u> , Ogasawara K, Kitazono T, Nishimura K, Sakai N, Onozuka D, Shiokawa Y, Miyachi S, Nagata I, Toyoda K, Hashimoto Y, Hasegawa Y, Hoshino H, Yoshimura S, Suzuki M, Tsujino A, Matsuda S, Kurogi R, Kurogi A, Ren N, Nishimura A, Arimura K, Hagihara A, Tominaga T, Kayama T, Arai H, Suzuki N, Miyamoto S, Ogawa A, Iihara K; J-ASPECT Study Collaborators.	National trends in outcomes of ischemic stroke and prognostic influence of stroke center capability in Japan, 2010-2016.	Int J Stroke. 2019 Oct 25. [Epub ahead of print]	2019.10
10	Yamasaki S, <u>Kada A</u> , <u>Nagai H</u> , Yoshida I, Choi I, <u>Saito AM</u> , Iwasaki H.	Phase II trial using romidepsin after gemcitabine, dexamethasone, and cisplatin therapy in elderly transplant-ineligible patients with relapsed/refractory peripheral T-cell lymphoma: Study Protocol.	Acta Med Okayama. 73(5):469-474.	2019.10
11	Nishimura A, Nishimura K, Onozuka D, Matsuo R, <u>Kada A</u> , Kamitani S, Higashi T, Ogasawara K, Shimodozono M, Harada M, Hashimoto Y, Hirano T, Hoshino H, Itabashi R, Itoh Y, Iwama T, Kohriyama T, Matsumaru Y, Osato T, Sasaki M, Shiokawa Y, Shimizu H, Takekawa H, Nishi T, Uno M, Yagita Y, Ido K, Kurogi A, Kurogi R, Arimura K, Ren N, Hagihara A, Takizawa S, Arai H, Kitazono T, Miyamoto S, Minematsu K, Iihara K; J-ASPECT study collaborators.	Development of quality indicators of stroke centers and feasibility of their measurement using a nationwide insurance claims database in Japan — J-ASPECT study —.	Circ J. 2019. 83(11):2292-2302.	2019.10
12	Yamagami K, Kurogi R, Kurogi A, Nishimura K, Onozuka D, Ren N, <u>Kada A</u> , Nishimura A, Arimura K, Ido K, Mizoguchi M, Sakamoto T, Kayama T, Suzuki M, Arai H, Hagihara A, Iihara K; J-ASPECT Study Collaborators.	The influence of age on the outcomes of traumatic brain injury: findings from a Japanese nationwide survey (J-ASPECT study-traumatic brain injury).	World Neurosurg. 130:e26-e46.	2019.10

13	Ohmori H, <u>Kada A</u> , Nakamura M, Saito AM, Sanayama Y, Shinagawa T, Fujita H, Wakisaka A, Maruhashi K, Mizukami A, Takizawa N, Murata H, Inoue M, Kaneko H, Taniguchi H, Sano N, Tanuma N, Kumode M, Takechi T, Koretsune Y, Sumimoto R, Miyanomae T.	Deep vein thrombosis in severe motor and intellectual disabilities patients and its treatment by anticoagulants of warfarin versus edoxaban.	Ann Vasc Dis. 12(3):372-378.	2019.9
14	Saka H, Oki M, Kada A, Saito AM.	An open-label, single-arm study of CRY02 for debulking at the site of central airway obstruction or stenosis.	In Vivo. 33(5):1641- 1644.	2019.9
15	<u>Ichihara S</u> , <u>Moritani S</u> , <u>Nishimura R</u> , <u>Oiwa M</u> , <u>Morita T</u> , <u>Havashi T</u> , <u>Kato A</u> , <u>Endo T</u> , <u>Kada A</u> , <u>Ito N</u> , <u>Kuroishi T</u> , <u>Sato Y</u> .	Polygon method: a systematic margin assessment for breast conservation.	Cancer Med. 8(7):3359- 3369.	2019.7
16	<u>Kitagawa C</u> , <u>Kada A</u> , <u>Saito AM</u> , <u>Ichinose Y</u> , <u>Saka H</u> .	Rationale and design of a randomized phase 2 trial of gefitinib plus bevacizumab vs gefitinib alone in patients with epidermal growth factor receptor mutant non-squamous non-small-cell lung cancer: study protocol.	Kurume Med J. 65(2):77-81.	2019.5

【学会発表】

	発表者	題目	発表機関	発表年月 (場所)
1	Haruko Shima, <u>Akiko Kada</u> , Akihiko Tanizawa, Chikako Tono, Yuki Yuza, Akihiro Watanabe, Masaki Ito, Hideko Uryu, Katsuyoshi Koh, Chihaya Imai, Nao Yoshida, Yuhki Koga, Naoto Fujita, <u>Akiko M Saito</u> , Souichi Adachi, Eiichi Ishii and	Discontinuation of Tyrosine Kinase Inhibitor in Children with Chronic Myeloid Leukemia (JPLSG STKI-14 study)	61st American Society of Hematology (ASH) Annual Meeting	2019.12 (Orlando)

臨床研究支援室

【論文】

	著者	題目	掲載誌 巻(号) : 頁	発行年月
134	安達 尚哉	治験事務局業務効率化のためのカッ ト・ドゥ・スクエアを用いた文書管理 とその評価	日本病院薬剤師会雑誌 56(1), 48-52	43831
表]				
	発表者	題目	発表機関	発表年月 (場所)
1	縣 明美	治験審査委員会事務局 電磁化への取り 組み — 新システム導入に伴う問題と対策 —	第19回CRCと臨床試験の あり方を考える会議2019 in 横浜	2019/9/14
2	渡邊 章子	臨床研究ライセンス制度による研究者 教育のガバナンス強化	第19回CRCと臨床試験の あり方を考える会議2019 in 横浜	2019/9/14
3	中山忍	認定臨床研究審査委員会審査を効率的 かつ適切に行うための工夫	第19回CRCと臨床試験の あり方を考える会議2019 in 横浜	2019/9/14

【論文】

4	田邊 和枝	院内スタッフ向けの治験・臨床研究の啓蒙活動と今後の教育について	第19回CRCと臨床試験のあり方を考える会議2019 in 横浜	2019/9/14
5	五十嵐 奈美	災害時マニュアルを実効性あるものにする	第19回CRCと臨床試験のあり方を考える会議2019 in 横浜	2019/9/14
6	縣 明美	治験審査委員会事務局 業務支援システム導入に伴う問題と対策	第73回国立病院総合医学会	2019/11/9
7	中村 和美	がんゲノム医療連携病院におけるがん遺伝子パネル検査実施体制の構築	第73回国立病院総合医学会	2019/11/9
8	西川奈津紀	臨床研究を支援するCRCにかかる業務量調査	第73回国立病院総合医学会	2019/11/9
9	馬淵 美穂	臨床研究ライセンス制度の継続における課題	第73回国立病院総合医学会	2019/11/9
10	社本綾子	認定臨床研究審査委員会審査までの事前確認作業の効率化に向けて～事前確認等における作業量把握・課題抽出と対策の検討～	第73回国立病院総合医学会	2019/11/9
11	五十嵐 奈美	災害時治験スタッフがマニュアルに沿って実践できることを目指した取り組み	第73回国立病院総合医学会	2019/11/9
12	田邊 和枝	治験・臨床研究に関する院内スタッフ向け勉強会実施前後のアンケート結果から見えた効果的な教育・啓蒙活動の方法についての検討	第73回国立病院総合医学会	2019/11/9

血液・腫瘍研究部

【論文】

	著者	題目	掲載誌 巻(号) : 頁	発行年月
1)	Hagiwara S, Nagai H, Uehira T, Saito AM, Okada S.	Autologous peripheral blood stem cell transplantation for relapsed/refractory HIV-associated lymphoma: a phase II clinical	Int J Hematol. 111(3):434-439	2020.3
2)	Takase K, Nagai H, Kadono M, Yoshioka T, Yoshio N, Hirabayashi Y, Ito T, Sawamura M, Yokoyama A, Yoshida S, Tsutsumi I, Otsuka M, Suehiro Y, Hidaka M, Yoshida I, Yokoyama H, Inoue H, Iida H, Nakayama M, Hishita T, Iwasaki H, Kada A, Saito AM, Kurada Y.	High-dose dexamethasone therapy as the initial treatment for idiopathic thrombocytopenic purpura.	Int J Hematol. 111(3):388-395	2020.3
3)	Izutsu K, Minami Y, Fukuhara N, Terui Y, Jo T, Yamamoto G, Ishikawa T, Kobayashi T, Kiguchi T, Nagai H, Ohtsu T, Kalambakas S, Fustier P, Midorikawa S, Tobinai K.	Analysis of Japanese patients from the AUGMENT phase III study of lenalidomide + rituximab (R2) vs. rituximab + placebo in relapsed/refractory indolent non-Hodgkin lymphoma.	Int J Hematol. 111(3):409-416	2020.3
4)	Nagai H.	JSH practical guidelines for hematological malignancies, 2018: II. Lymphoma-10. Hodgkin lymphoma (HL).	Int J Hematol. 111(2):166-179	2020.2
5)	Yamasaki S, Kada A, Nagai H, Yoshida I, Choi I, Miyata Y, Miyazawa Y, Saito A, Iwasaki H.	Rituximab-Mediated Complement-Dependent Cytotoxicity Enhanced by Gemcitabine in Older Patients with Previously Rituximab-Treated Diffuse Large B-Cell Lymphoma: Study Protocol.	Kurume Med J.	2019.11.29
6)	Munakata W, Terauchi T, Maruyama D, Nagai H.	Revised staging system for malignant lymphoma based on the Lugano classification.	Jpn J Clin Oncol. 49(10):895-900	2019.10.1

【論文】

7)	Yamasaki S, Kada A, Nagai H, Yoshida I, Choi I, Saito AM, Iwasaki H.	Phase II Trial Using Romidepsin after Gemcitabine, Dexamethasone, and Cisplatin Therapy in Elderly Transplant-Ineligible Patients with Relapsed/Refractory Peripheral T-Cell Lymphoma: Study Protocol	Acta Med Okayama. 73(5):469-474	2019.10
8)	Hagiwara K, Tokunaga T, Iida A, Nagai H.	Combined Inhibition of ALK and HDAC Induces Synergistic Cytotoxicity in Neuroblastoma Cell Lines.	Anticancer research 39(7):3579-3584	2019.7
9)	Hagiwara S, Nagai H, Tanaka J, Okada S.	The current state of human immunodeficiency virus-associated lymphoma in Japan: a nationwide retrospective study of the Japanese Society of Hematology Blood Disease Registry.	Int J Hematol. 110(2):244-249	2019.8
10)	Toyoda K, Tsukasaki K, Machida R, Kadota T, Fukushima T, Ishitsuka K, Maruyama D, Nagai H.	Possibility of a risk-adapted treatment strategy for untreated aggressive adult T-cell leukaemia-lymphoma (ATL) based on the ATL prognostic index: a supplementary analysis of the IC0G9801	Br J Haematol. 186(3):440-447	2019.8
11)	Kunitomi A, Hasegawa Y, Imamura J, Yokomaku Y, Tokunaga T, Miyata Y, Iida H, Nagai H.	Two Cases with Acute Promyelocytic Leukemia and HIV: Case Reports and a Review of the Literature.	Intern Med.	2019.5.22
12)	Maruyama D, Nagai H, Fukuhara N, Kitano T, Ishikawa T, Nishikawa T.	Final analysis of a phase II study of ibrutinib in Japanese patients with relapsed/refractory mantle cell lymphoma.	J Clin Exp Hematop. 59(2):98-100	2019.6
13)	永井宏和	「ホジキンリンパ腫」特集 日本血液学会造血器腫瘍ガイドライン2018年度-リンパ腫-	臨床血液 60(3):249-250	2019.5
14)	永井宏和	Brentuximab Vedotinによる悪性リンパ腫治療の進歩	腫瘍内科 23(6):634-638	2019
15)	永井宏和	造血器腫瘍の最新治療②リンパ腫の最新治療	日本病院薬剤師会雑誌 55(8):922-925	2019
16)	永井宏和	マントル細胞リンパ腫	血液疾患 最新の治療 2020-2022 (中尾眞二、松村到、神田善伸 編) 203-206	2019
17)	永井宏和	再発または難治性のALK陽性未分化大細胞リンパ腫に対するアレクチニブ塩酸塩の開発 がん研究 10か年戦略の成果と課題	医学の歩み 271(9):935-938	2019.10.25
18)	鈴木康裕、永井宏和	早期再発した濾胞性リンパ腫の治療	血液内科 79(6):757-762	2019.11.30
19)	永井宏和	ホジキンリンパ腫	未来型血液治療学 (小松則夫編) 151-157	2019.12
20)	Tsutsumi M, Hattori H, Akita N, Maeda N, Kubota T, Horibe K, Fujita N, Kawai M, Shinkai Y, Kato M, Kato T, Kawamura R, Suzuki F, Kurahashi H.	A female patient with retinoblastoma and severe intellectual disability carrying an X;13 balanced translocation without rearrangement in the Rb1 gene: a	BMC Med Genomics . 2019 Dec ;12(1):182.	2019.12
21)	Hattori H, Ishihara M, Kitano S, Miyahara Y, Kato H, Mishima H, Yamamoto N, Funakoshi T, Kojima T, Sasada T, Sato E, Okamoto S, Tomura D, Chono H, Nukaya I, Mineno J, Ikeda H, Watanabe T, Kageyama S.	A Novel Affinity-Enhanced NY-ESO-1-Targeting TCR-Redirected T cell Transfer Exhibiting Early-Onset Cytokine Release Syndrome and Subsequent Tumour Responses in Synovial Sarcoma Patients.	EMJ Oncol. 2019 Dec; 7.1: 38-40.	2019.11
22)	服部 浩佳	【家族性腫瘍の現況と展望】Li-Fraumeni症候群 臨床的側面からみた現況と展望	癌と化学療法46巻7号 1103-1108(2019.07)	2019.7

【学会発表】

発表者	題目	発表機関	発表年月 (場所)
-----	----	------	--------------

【論文】

1)	Kazuyuki Shimada, Motoko Yamaguch, Yoshiko Atsuta, Kosei Matsue, Keiji Sato, Shigeru Kusumoto, Hirokazu Nagai, Jun Takizawa, Noriko Fukuhara, Koji Nagafuji, Kana Miyazak, Eiichi Ohtsuka, Masataka Okamoto, Yasumasa Sugita, Toshiki Uchid, Satoshi Kayukawa, Yukio Kondo, Tohru Izumi, Yoshihiro Kin, Kunihiro Tsukasaki, Daigo Hashimoto, Atsumi Yanagisawa, Yachiyo Kuwatsuka, Satoko Shimada, Yasufumi Masaki, Nozomi Niitsu,, Hitoshi Kiyoi, Ritsuro Suzuki, Takashi Tokunaga, Shigeo	Favorable Outcomes of Newly Diagnosed Intravascular Large B-Cell Lymphoma Patients Treated with R-CHOP Combined with High-Dose Methotrexate Plus Intrathecal Chemotherapy: Results from a Multicenter Phase 2 Trial (PRIMEUR-IVL)	61st ASH Annual Meeting and Exposition	2019.12.7 Orlando, USA
2)	Masaki Ri, Shinsuke Iida,, Dai Maruyama, Kosuke Saito, Yoshiro Saito, Satoshi Osaga, Masahiro Tohkin, Naoki Miyata, Kensei Tobinai, Noriko Fukuhara, Kana Miyazak, Yosuke Minami, Norifumi Tsukamoto, Hideki Tsujimura, Makoto Yoshimitsu, Kenichi Miyamoto, Kunihiro Tsukasaki	Lipidomic Profiling of Plasma Samples in Patients with Newly Diagnosed Multiple Myeloma; A Biomarker Study for Predicting the Response and Toxicities of Melphalan, Prednisolone and Bortezomib (MPB) Regimen : An Ancillary Study of the JCOG1105 (JCOG1105A1)	61st ASH Annual Meeting and Exposition	2019.12.7 Orlando, USA
3)	Isao Yoshida, Youko Suehiro, Yukio Hirabayashi, Michihiro Hidaka, Takuya Komeno, Terutoshi Hishita, Hironori Ueno, Kazutaka Sunami, Hiromi Iwasaki Yuko Ogata, Shinichiro Yoshida, Mitsutoshi Kurosawa, Akiko Saito, Hirokazu Nagai	REDUCED-INTENSITY IMMUNO-CHEMOTHERAPY WITHOUT VINCRISTINE ADMINISTRATION AMONG PATIENTS OLDER THAN 80 YEARS WITH DIFFUSE LARGE B-CELL LYMPHOMA: A MULTICENTRE, OPEN-LABEL, SINGLE-ARM, PHASE II TRIAL	24th Congress of EHA	2019.6.13 Amsterdam, Netherlands

【論文】

4)	Ogura, M. Yamamoto, K, Morishima, Y, Wakabayashi, M; Tobinai, K. 5; Ando, K; Uike, N; Kurosawa, M Gomyo, H Taniwaki, M; Nosaka, K; Tsukamoto, N; Shimoyama, T; Fukuhara, N; Yakushijin, Y; Ohnishi, K. 16; Miyazaki, K; Sawada, K; Takayama, N; Hanamura, I; Kobayashi, H; Usuki, K; Kobayashi, N; Ohyashiki, K; Utsumi, T; Kumagai, K.; Maruyama, D; Ohmachi,	LONG-TERM FOLLOW-UP OF JCOG0406 STUDY: INTENSIVE IMMUNOCHEMOTHERAPY (R-HIGH CHOP/CHASER) FOLLOWED BY HIGH-DOSE CHEMOTHERAPY (LEED) WITH AUTO-PBSCT IN UNTREATED MANTLE CELL LYMPHOMA	24th Congress of EHA	2019. 6. 13 Amsterdam, Netherlands
5)	川口佳乃、平野大希、下地園子、徳永隆之、飯田浩充、西村恵理子、市原周、永井宏和	大量化学療法施行直後に中枢神経再発した腸管関連T細胞リンパ腫の一例	日本リンパ網内系学会	2019. 6. 29 島根
6)	齋藤俊樹、安田貴彦、真田昌、永井宏和、堀部敬三	がん領域におけるクリニカルシーケンスのための臨床ゲノム情報データベースの開発	癌学会学術総会	2019. 9. 27 京都
7)	豊田康祐、塚崎邦弘、町田龍之介、門田智裕 福島卓也、石塚賢治、丸山大、永井宏和	ATL-Prognostic Indexを用いたATL治療戦略の提案：JCOG9801試験 副次的解析	日本血液学会学術集会	2019. 10. 14 東京
8)	久保田靖子、渡辺 隆、飛内賢正、若林将史、森島泰雄、木下朝博、浅越康助、山口素子、安藤潔、小椋美知則、谷脇雅史、鶴池直邦、吉野正、縄野 繁、寺内隆司、堀田知光、塚崎邦	初発進行期濾胞性リンパ腫に対するR-CHOP療法の長期経過観察JCOG0203	日本血液学会学術集会	2019. 10. 12 東京
9)	平野大希、川口佳乃、下地園子、鈴木康裕、今橋伸彦、徳永隆之、飯田浩充、永井宏和	当院における66～70歳の急性骨髄性白血病に対する治療成績	日本血液学会学術集会	2019. 10. 13 東京
10)	Tetsuya Mori, Masahiro Sekimizu, Reiji Fukano, Ilseung Choi, Kengo Takeuchi, Ukihide Tateishi, Takashi Terauchi, Akiko Kada, Akiko Saito, Ryuta Asada, Keizo Horib, and Hirokazu Nagai	Alectinib in recurrent or refractory ALK-positive ALCL: phase 2 trial in both children and adults.	日本血液学会学術集会	2019. 10. 13 東京

【論文】

11)	Dai Maruyama, Ken Ohmachi, Gakuto Ogawa, Tomohiro Kinoshita, Kensei Tobinai, Tomonori Mizutani, Nobuhiko Yamauchi, Noriko Fukuhara, Toshiki Uchida, Kazuhito Yamamoto, Kana Miyazaki, Norifumi Tsukamoto, Shinsuke Iida, Takahiko Utsumi, Isao Yoshida, Yoshitaka Imaizumi, Takashi Tokunaga, Shinichiro Yoshida, Yasufumi Masaki, Toru Murayama, Yoshihiro Yakushijin, Youko Suehiro, Kisato Nosaka, Nobuaki Dobashi, Junya Kuroda, Yasushi Takamatsu, Kiyoshi Ando, Kenichi Ishizawa, Michinori Ogura, Tadashi Yoshino, Tomomitsu Hotta,	Randomized phase II/III study of standard R-CHOP vs CHOP with dose-dense rituximab in DLBCL: JCOG0601	日本血液学会学術集会	2019.10.12 東京
12)	Ilseung Choi, Yasuhiko Miyata, Isao Yoshida, Youko Suehiro, Yukio Hirabayashi, Michihiro Hidaka, Takuya Komeno, Terutoshi Hishita, Hironori Ueno, Kazutaka Sunami, Yuko Ogata, Hiromi Iwasaki, Shinichiro Yoshida, Mitsutoshi Kurosawa, Akiko Saito, Hirokazu	Reduced-intensity immunochemotherapy without vincristine in patients over 80 years old with DLBCL~R-miniCHP~	日本血液学会学術集会	2019.10.12 東京
13)	林絹子、永井宏和	腹痛、下痢、発熱を主訴にアメーバ赤痢を発症した再生不良性貧血の一例	国立病院総合医学会	2019.11.9 名古屋
14)	永井宏和	適正に臨床研究を実施するためにできること 国立病院機構におけるARO機能の活用	国立病院総合医学会	2019.11.8 名古屋
15)	中村和美、柴田久美子、大友みどり、高松しのぶ、北川智余恵、服部浩	がんゲノム医療連携病院におけるがん遺伝子パネル検査実施体制の構築	第73回国立病院総合医学会	2019/11/8 (名古屋)
16)	田口 育、森川 真紀、加藤 彩、林 孝子、佐藤 康幸、白石 和寛、能澤 一樹、杉山 圭司、北川 智余恵、服部	当院における遺伝性乳がん卵巣がん(HBOC)拾い上げの取り組み	第25回日本家族性腫瘍学会学術集会	2019/6/14 (東京)
17)	田口 育、森川 真紀、秋田 直洋、関水 匡大、前田 尚子、堀部 敬三、村松 秀城、服部 浩佳	小児期に発症した自己免疫リンパ増殖症候群 (CTLA4不全症) の遺伝カウンセリングの1例	臨床遺伝2019 (第43回日本遺伝カウンセリング学会学術集会/第26回日本遺伝子診療学会合同学術集会)	2019/8/2 (札幌)
18)	服部浩佳	網膜芽細胞腫に続発した二次性骨肉腫の2例	第25回日本家族性腫瘍学会学術集会	2019/6/14 (東京)
19)	服部浩佳	Bilateral retinoblastoma with 13q-syndrome in a patient carrying an X:13 balanced translocation without rearrangement of the Rb1 gene.	21st Meeting of International Society for Genetic Eye Disease and Retinoblastoma 2019, Gissen, Germany	2019/8/29-31 (Gissen, Germany)

## 【論文】

20)	服部浩佳	A novel affinity-enhanced NY-ESO-1-targeting TCR-redirected T cell transfer exhibited early-onset cytokine release syndrome and subsequent tumour responses in synovial sarcoma patients	European Society for Medical Oncology 2019, Barcelona, Spain	2019/9/27-10/1 (Barcelona, Spain)
-----	------	--	--	-----------------------------------

## 再生医療研究部

## 【論文】

	著者	題目	掲載誌 巻(号) : 頁	発行年月
1)	Ri M, Kasai M, Kohno A, Kondo M, Sawa M, Kinoshita T, Sugiura I, Miura Y, Yamamoto K, <u>Saito T</u> , Ozawa Y, Matsushita T, Kato H	A Survey of Blood Transfusion Errors in Aichi Prefecture in Japan: Identifying Major Lapses Threatening the Safety of Transfusion Recipients	Transfus Apher Sci 59(3):102735. doi: 10.1016/j.transci.2020.102735. Epub 2020 Jan 27.	2020年1月

## 感染・免疫研究部

## 【論文】

	著者	題目	掲載誌 巻(号) : 頁	発行年月
1	Imahashi M, Fujimoto K, Kuhns LM, Amith M, Schneider JA.	Network overlap and knowledge of a partner's HIV status among young men who have sex with men.	AIDS Care 1:1-7.	2019 Apr
2	Ode H, Kobayashi A, <u>Matsuda M</u> , <u>Hachiya A</u> , <u>Imahashi M</u> , <u>Yokomaku Y</u> , <u>Iwatani Y</u> .	Identifying integration sites of the HIV-1 genome with intact and aberrant ends through deep sequencing.	J Virol Methods :267:59-65.	2019 May
3	岡崎玲子、重見麗、松田昌和、久保田舞、矢野邦夫、鶴見寿、奥村暢将、谷口晴記、志知大介、池谷健、伊藤公人、松下正、松本剛史、倉井華子、川端厚、 <u>羽柴知恵子</u> 、 <u>中畑征史</u> 、 <u>小暮あゆみ</u> 、 <u>服部純子</u> 、 <u>伊部史朗</u> 、 <u>今橋真弓</u> 、 <u>今村淳治</u> 、 <u>岩谷靖雅</u> 、 <u>杉浦互</u> 、 <u>吉村和久</u> 、 <u>蜂谷敦子</u> 、 <u>横幕能行</u> 。	東海ブロックにおけるHIV-1 非サブタイプBの動向調査と伝播性薬剤耐性変異の頻度	感染症学会誌 93巻3号 Page298-305	2019. 5
4	重見麗、岡崎玲子、 <u>大出裕高</u> 、 <u>松田昌和</u> 、 <u>久保田舞</u> 、 <u>矢野邦夫</u> 、 <u>鶴見寿</u> 、 <u>奥村暢将</u> 、 <u>谷口晴記</u> 、 <u>志知大介</u> 、 <u>池谷健</u> 、 <u>伊藤公人</u> 、 <u>松下正</u> 、 <u>松本剛史</u> 、 <u>倉井華子</u> 、 <u>川端厚</u> 、 <u>羽柴知恵子</u> 、 <u>中畑征史</u> 、 <u>小暮あゆみ</u> 、 <u>服部純子</u> 、 <u>伊部史朗</u> 、 <u>今橋真弓</u> 、 <u>今村淳治</u> 、 <u>岩谷靖雅</u> 、 <u>杉浦互</u> 、 <u>吉村和久</u> 、 <u>蜂谷敦子</u> 、 <u>横幕能行</u> 。	東海ブロックで流行するHIV-1の遺伝子多型とインテグラーゼ阻害剤に対する耐性変異の経年的頻度解析	感染症学会誌 93巻3号 Page312-318	2019. 5
5	Akatsuki <u>Saito</u> , <u>Hiroataka Od</u> , Kyotaro Nohata, Hisaki Ohmori, Emi E Nakayama, <u>Yasumasa</u>	HIV-1 Is More Dependent on the K182 Capsid Residue Than HIV-2 for Interactions With CPSF6	Virology. 2019 Jun;532:118-126. doi: 10.1016/j.virol.2019.04.012. Epub	2019 Apr

## 【論文】

6	Kensuke Komatsu, Ei Kinai, Maiko Sakamoto, Toshibumi Taniguchi, Aya Nakao, Tatsuro Sakata, Akiko Iizuka, Teppei Koyama, Toki Ogata, Akihiro Inui, Shinichi Oka, <u>HIV-Associated Neurocognitive Disorders in Japanese (J-HAND) Study Group (The J-HAND Study Group)</u>	Various Associations of Aging and Long-Term HIV Infection With Different Neurocognitive Functions: Detailed Analysis of a Japanese Nationwide Multicenter Study	J Neurovirol. 2019 Apr;25(2):208-220. doi: 10.1007/s13365-018-0704-7. Epub 2019 Mar 11.	2019 Apr
7	Akane Kunitomi, Yuta Hasegawa, Junji Lmamura, <u>Yoshiyuki Yokomaku</u> , Takashi Tokunaga, Yasuhiko Miyata, Hiroatsu Iida, Hirokazu Nagai	Acute Promyelocytic Leukemia and HIV: Case Reports and a Review of the Literature	Intern Med. 2019 Aug 15;58(16):2387-2391. doi: 10.2169/internalmedicine.1662-18. Epub 2019 May 22.	2019 Aug
8	Godfrey Barabona, Macdonald Mahiti, Salim Masoud, Peter Mbelele, Amina Shaban Mgunya, Lilian Minja, Bruno Sunguya, <u>Urara Shigemi</u> , <u>Masakazu Matsuda</u> , <u>Atsuko Hachiya</u> , <u>Yasumasa Iwatani</u> , Eligius Lyamuva, Takamasa Ueno	Pre-treatment and Acquired HIV Drug Resistance in Dar Es Salaam, Tanzania in the Era of Tenofovir and Routine Viral Load Monitoring	J Antimicrob Chemother. 2019 Oct 1;74(10):3016-3020. doi: 10.1093/jac/dkz272.	2019 Oct
9	Tahmina Sultana, João I Mamede, Akatsuki Saito, <u>Hiroataka Ode</u> , Kyotaro Nohata, Romy Cohen, Emi E Nakayama, <u>Yasumasa Iwatani</u> , Masahiro Yamashita, Thomas J Hope, Tatsuo Shioda	Multiple Pathways To Avoid Beta Interferon Sensitivity of HIV-1 by Mutations in Capsid	J Virol . 2019 Nov 13;93(23):e00986-19. doi: 10.1128/JVI.00986-19. Print 2019 Dec 1.	2019 Nov
10	<u>Chieko Hashiba</u> , <u>Mayumi Imahashi</u> , Junji Imamura, <u>Masashi Nakahata</u> , <u>Ayumi Kogure</u> , Hideto Takahashi, <u>Yoshiyuki Yokomaku</u>	Factors Associated With Attrition: Analysis of an HIV Clinic in Japan	J Immigr Minor Health. 2020 Feb 18. doi: 10.1007/s10903-020-00982-y. Online ahead of print.	2020 Feb
11	Akatsuki Saito, Tahmina Sultana, <u>Hiroataka Ode</u> , Kyotaro Nohata, Yoshihiro Samune, Emi E Nakayama, <u>Yasumasa Iwatani</u> , Tatsuo Shioda	The 4th and 112th Residues of Viral Capsid Cooperatively Modulate Capsid-CPSF6 Interactions of HIV-1	AIDS Res Hum Retroviruses . 2020 Jun;36(6):513-521. doi: 10.1089/AID.2019.0250. Epub 2020 Feb 17.	2020 Feb

## 【学会発表】

	発表者	題目	発表機関	発表年月 (場所)
--	-----	----	------	--------------

【論文】

1	<u>Kazuhiro</u> <u>Matsuoka, AkikoHamano, Hiro</u> <u>iroataka Ode, Yoshihiro</u> <u>Nakata, Sayaka</u> <u>Sukegawa, Atsuko</u> <u>Hachiya, Mayumi</u> <u>Imahashi, Yoshiyuki</u> <u>Yokomaku, Yasumasa</u> <u>Iwatani.</u>	HIV-1 Vif PPLP region plays a critical role in the Vif-mediated APOBEC3 ubiquitination/degradation	Cold spring harbor laboratory meeting on retroviruses	2019. 5 NY, USA
2	<u>Yasumasa</u> <u>Iwatani, Kazuhiro</u> <u>Matsuoka, AkikoHamano, Hiro</u> <u>iroataka Ode, Yoshihiro</u> <u>Nakata, Sayaka</u> <u>Sukegawa, Atsuko</u> <u>Hachiya, Mayumi</u> <u>Imahashi, Yoshiyuki</u> <u>Yokomaku.</u>	Comparative analyses of primate antiviral APOBEC3C	Cold spring harbor laboratory meeting on retroviruses	2019. 5 NY, USA
3	大出裕高	抗レトロウイルス宿主因子APOBEC3Hの構造学的解析	第16回ウイルス学キャン プin湯河原	2019. 5 湯河原
4	今橋真弓, 横幕能行	二次医療圏から考えるHIV診療拠点の配置	第28回地理情報システム 学会研究発表大会	2019. 10 徳島
5	大出裕高、中田佳宏、松岡和弘、今橋真弓、蜂谷敦子、横幕能行、岩谷靖雅	抗ウイルス因子APOBEC3Hの分子構造に対する多型変異R105Gの影響	第67回 日本ウイルス学 会学術集会	2019. 10 東京
6	松岡和弘、大出裕高、中田佳宏、蜂谷敦子、今橋真弓、横幕能行、岩谷靖雅	HIV-1 Vif依存的なAPOBEC3のエピキチン化におけるARIH2の機能的意義に関する研究	第67回 日本ウイルス学 会学術集会	2019. 10 東京
7	<u>Atsuko Hachiya, Karen</u> <u>A. Kirby, Hiroataka</u> <u>Ode, Maritza Puray-</u> <u>Chavez, Mai</u> <u>Kubota, Urara</u> <u>Shigemi, Reiko</u> <u>Okazaki, Masakazu</u> <u>Matsuoka, Mayumi</u> <u>Imahashi, Wataru</u> <u>Sugiura, Yoshiyuki</u> <u>Yokomaku, Yasumasa</u> <u>Iwatani, Stefan</u>	Disruption of HIV-1 terminus sequence by a Nucleocapsid mutation leads to Dolutegravir resistance	第67回 日本ウイルス学 会学術集会	2019. 10 東京
8	蜂谷敦子、佐々木悟、伊藤俊広、瀧永博之、岡慎一、渡邊大、白阪琢磨、南留美、山本政弘、松田昌和、重見麗、岡崎玲子、岩谷靖雅、横幕能行、杉浦互、吉村和久、菊地正、薬剤耐性HIV調査ネットワーク	国内新規HIV/AIDS診断症例における薬剤耐性HIV-1の動向	第73回 国立病院総合医 学会	2019. 11 名古屋
9	今橋真弓、岡慎一、伊藤俊広、山本政弘、渡邊大、宇佐美雄司、池田和子、本田美和子、吉野宗広、横幕能行	エイズ診療で国立病院機構が地域で果たすべき役割	第73回国立病院総合医学 会	2019. 11 名古屋
10	大出裕高、今橋真弓、小林歩美、根本理子、松田昌和、羽柴知恵子、重見麗、岡崎玲子、蜂谷敦子、今村淳治、中畑征史、小暮あゆみ、横幕能行、岩谷靖雅	抗HIV療法における核酸系逆転写酵素阻害剤の腸内および口腔細菌叢への影響	第73回国立病院総合医学 会	2019. 11 名古屋

【論文】

11	重見麗、岡崎玲子、大出裕高、松田昌和、矢野邦夫、鶴見寿、奥村暢将、谷口晴記、志智大介、池谷健、伊藤公人、松下正、羽柴知恵子、中畑征史、小暮あゆみ、今橋真弓、岩谷靖雅、杉浦互、蜂谷敦子、横幕能行	東海ブロックで流行するHIV-1のインテグラーゼ阻害剤に対する影響とアミノ酸変異の経年的検討	第73回国立病院総合医学会	2019. 11	名古屋
12	松田昌和、今橋真弓、蜂谷敦子、重見麗、岡崎玲子、矢野邦夫、鶴見寿、奥村暢将、谷口晴記、椎野禎一郎、羽柴知恵子、菊地正、横幕能行、岩谷靖雅	2017-18年にかけて東海ブロックにおいて拡大した分子疫学的HIV-1感染網の特徴	第73回国立病院総合医学会	2019. 11	名古屋
13	松岡和弘、平野淳、中田佳宏、大出裕高、蜂谷敦子、今橋真弓、中井正彦、横幕能行、岩谷靖雅	HPLC/蛍光検出機を用いた第二世代インテグラーゼ阻害剤の血中濃度の測定法の開発	第73回国立病院総合医学会	2019. 11	名古屋
14	松田昌和、今橋真弓、蜂谷敦子、重見麗、岡崎玲子、矢野邦夫、鶴見寿、奥村暢将、谷口晴記、椎野禎一郎、羽柴知恵子、菊地正、横幕能行、岩谷靖雅	2017-18年に東海ブロックにおいて新規HIV-1感染者数が急増した集団の分子疫学的特徴	第33回 日本エイズ学会 学術集会・総会	2019. 11	東京
15	蜂谷敦子、久保田舞、大出裕高、山森玲奈、田中靖人、重見麗、岡崎玲子、松田昌和、今橋真弓、Karen A. Kirby、Stefan G. Sarafianos、横幕能行、岩谷靖雅	PPT領域内ドルテグラビル耐性関連変異のウイルス末端配列への影響	第33回 日本エイズ学会 学術集会・総会	2019. 11	東京
16	蜂谷敦子、佐々木悟、伊藤俊広、瀧永博之、岡慎一、渡邊大、白阪琢磨、南留美、山本政弘、松田昌和、重見麗、岡崎玲子、岩谷靖雅、横幕能行、杉浦互、吉村和久、菊地正、薬剤耐性HIV調査ネットワーク	国内新規HIV/AIDS診断症例における薬剤耐性HIV-1の動向	第33回 日本エイズ学会 学術集会・総会	2019. 11	東京
17	大出裕高、中田佳宏、松岡和弘、今橋真弓、蜂谷敦子、横幕能行、岩谷靖雅	抗HIV-1因子APOBEC3Hにおける多型変異R105Gの分子構造への影響	第33回 日本エイズ学会 学術集会・総会	2019. 11	東京
18	松岡和弘、中田佳宏、鷲崎彩夏、芳田剛、齊藤暁、関洋平、大出裕高、蜂谷敦子、保富康宏、原田恵嘉、石井洋、俣野哲朗、三浦智行、佐藤賢文、明里宏文、岩谷靖雅	in vivo passageで獲得したサル馴化HIV-1のvif遺伝子領域における欠損変異の役割	第33回 日本エイズ学会 学術集会・総会	2019. 11	東京
19	岡崎玲子、重見麗、松田昌和、矢野邦夫、鶴見寿、奥村暢将、谷口晴記、志智大介、池谷健、伊藤公人、松下正、羽柴知恵子、中畑征史、小暮あゆみ、今橋真弓、今村淳治、岩谷靖雅、杉浦互、吉村和久、蜂谷敦子、横幕能行	東海ブロックにおけるHIV-1非サブタイプBの動向調査と伝播性薬剤耐性変異の頻度解析	第33回 日本エイズ学会 学術集会・総会	2019. 11	東京

【論文】

20	久保田舞、蜂谷敦子、大出裕高、重見麗、岡崎玲子、松田昌和、今橋真弓、Karen A. Kirby、Stefan G. Sarafianos、横幕能行、岩谷靖雅	PPT領域内におけるドルテグラビル耐性関連変異の同定	第33回 日本エイズ学会 学術集会・総会	2019. 11	東京
21	中田佳宏、松岡和弘、平野淳、大出裕高、今橋真弓、蜂谷敦子、中井正彦、横幕能行、岩谷靖雅	高速液体クロマトグラフィー-蛍光検出器による第二世代HIVインテグラーゼ阻害剤の血中濃度測定法の確立	第33回 日本エイズ学会 学術集会・総会	2019. 11	東京
22	今橋真弓、岡慎一、伊藤俊広、山本政弘、内藤俊夫、遠藤知之、茂呂寛、渡邊珠代、渡邊大、藤井輝久、宇佐美雄司、池田和子、吉野宗宏、本田美和子、葛田衣重、三木浩司、四柳宏、横幕能行	二次医療圏から考えるエイズ診療拠点病院の配置	第33回 日本エイズ学会 学術集会・総会	2019. 11	東京
23	三輪紀子、木佐貫仁美、今橋真弓、横幕能行	臓器移植が必要となった薬害HIV感染血友病患者と家族への移植転院までの関わりを振り返る	第73回 国立病院総合医学会	2019. 11	名古屋
24	浅海里帆、矢嶋和代、西嶋梓、山田悦子、牧野愛海、國光柚葉、桐山真歩、橘延之、瀬口理恵、横幕能行	HIV陽性者の転院受け入れ先拡大に向け、エイズ診療拠点病院に必要な取り組み～連携病院へのインタビュー調査による考察～	第73回 国立病院総合医学会	2019. 11	名古屋
25	佐々木晃子、矢倉裕輝、横幕能行	ランチョンセミナーHIV診療における看護師・薬剤師の活躍の様子を紹介します！～治療成功のカギは多職種での対話～他領域にも活かせるエイズ診療での経験（看護師より）	第73回 国立病院総合医学会	2019. 11	名古屋
26	矢倉裕輝、佐々木晃子、横幕能行	ランチョンセミナーHIV診療における看護師・薬剤師の活躍の様子を紹介します！～治療成功のカギは多職種での対話～他領域にも活かせるエイズ診療での経験（薬剤師より） 矢倉裕輝、佐々木晃子、横幕能行	第73回 国立病院総合医学会	2019. 11	名古屋
27	三輪紀子、木佐貫仁美、今橋真弓、横幕能行	臓器移植が必要となった薬害HIV感染血友病患者と家族への移植転院までの関わりを振り返る	第73回 国立病院総合医学会	2019. 11	名古屋
28	浅海里帆、矢嶋和代、西嶋梓、山田悦子、牧野愛海、國光柚葉、桐山真歩、橘延之、瀬口理恵、横幕能行	HIV陽性者の転院受け入れ先拡大に向け、エイズ診療拠点病院に必要な取り組み～連携病院へのインタビュー調査による考察～	第73回 国立病院総合医学会	2019. 11	名古屋
29	加藤万理、平野淳、松本千鶴、松岡梨恵、福島直子、今橋真弓、岩谷靖雅、中井正彦、横幕能行	Tenofovir disoproxil fumarateからtenofovir alafenamide変更例の体重、血中脂質への影響に関する検討	第33回 日本エイズ学会 学術集会・総会	2019. 11	東京
30	宇佐美雄司、萩野浩子、横幕能行	PEP配布により構築した歯科診療ネットワークの検討	第33回 日本エイズ学会 学術集会・総会	2019. 11	東京
31	横幕能行、伊藤俊広、山本政弘、岡慎一、豊嶋嵩徳、茂呂寛、渡邊珠代、渡邊大、藤井輝久、今橋真弓、渡邊真理子	我が国の抗HIV療法の現状と今後	第33回 日本エイズ学会 学術集会・総会	2019. 11	東京
32	横幕能行、高橋秀人、生島嗣、伊藤公人、今橋真弓、渡邊真理子	職場におけるHIV感染症/AIDSの検査機会提供の有用性と課題	第33回 日本エイズ学会 学術集会・総会	2019. 11	東京
33	高橋良介、石田敏彦、藤浦裕二、岩崎誠、今橋真弓、金子典代	東海地域におけるゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした性感染症検査会のNGOによる広報とその効果	第33回 日本エイズ学会 学術集会・総会	2019. 11	東京

【論文】

34	松本千鶴、平野淳、加藤万理、福島直子、松岡梨恵、今橋真弓、蜂谷敦子、岩谷靖雅、中井正彦、横幕能行	ドルテグラビルの血中濃度モニタリングを実施したHIV陽性血液透析患者の1例	第33回 日本エイズ学会 学術集会・総会	2019.11 東京
35	松岡梨恵、平野淳、加藤万理、福島直子、松本千鶴、今橋真弓、蜂谷敦子、岩谷靖雅、中井正彦、横幕能行	他診療科入院中のHIV陽性者におけるHIV感染症薬物療法認定薬剤師等の薬学的管理に関する検討	第33回 日本エイズ学会 学術集会・総会	2019.11 東京
36	横幕能行	シンポジウム「治療の手引き」主要中核拠点病院での抗レトロウイルス治療の実際	第33回 日本エイズ学会 学術集会・総会	2019.11 東京
37	横幕能行	「性感染症における郵送検査の役割」職域健診における郵送検査	日本性感染症学会 第32回学術大会	2019.11 京都
38	横幕能行	スポンサーセミナー「性感染症における郵送検査の役割」職域健診における郵送検査	日本性感染症学会 第32回学術大会	2019.11 京都

高度診断研究部

【論文】

	著者	題目	掲載誌 巻(号) : 頁	発行年月
1	Kakiuchi N, Yoshida K, Uchino M, Kihara T, Akaki K, Inoue Y, Kawada K, Nagayama S, Yokoyama A, Yamamoto S, Matsuura M, Horimatsu T, Hirano T, Goto N, Takeuchi Y, Ochi Y, Shiozawa Y, Kogure Y, Watatani Y, Fujii Y, Kim SK, Kon A, Kataoka K, Yoshizato T, Nakagawa MM, Yoda A, Nanya Y, Makishima H, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, <u>Sanada M</u> , Sugihara E, Sato TA, Maruyama T, Miyoshi H, Taketo MM, Oishi J, Inagaki R, Ueda Y, Okamoto S, Okajima H, Sakai Y, Sakurai T, Haga H, Hirota S, Ikeuchi H, Nakase H, Marusawa H, Chiba T, Takeuchi O,	Frequent mutations that converge on the NFKBIZ pathway in ulcerative colitis.	Nature 577(7789):260-265 doi: 10.1038/s41586-019-1856-1	2020 Jan
2	Kimura S, Seki M, Kawai T, Goto H, Yoshida K, Isobe T, Sekiguchi M, Watanabe K, Kubota Y, Nannya Y, Ueno H, Shiozawa Y, Suzuki H, Shiraishi Y, Ohki K, Kato M, Koh K, Kobayashi R, Deguchi T, Hashii Y, Imamura T, Sato A, Kiyokawa N, Manabe A, <u>Sanada M</u> , Mansour MR, Ohara A, <u>Horibe K</u> , Kobayashi M, Oka A, Hayashi Y, Miyano S, Hata K,	DNA methylation-based classification reveals difference between pediatric T-cell acute lymphoblastic leukemia and normal thymocytes.	Leukemia doi: 10.1038/s41375-019-0626-2.	2019 Nov 15



【論文】

7	Kataoka K, Miyoshi H, Sakata S, Dobashi A, Couronné L, Kogure Y, Sato Y, Nishida K, Gion Y, Shiraishi Y, Tanaka H, Chiba K, Watatani Y, Kakiuchi N, Shiozawa Y, Yoshizato T, Yoshida K, Makishima H, <u>Sanada M</u> , Onozawa M, Teshima T, Yoshiki Y, Ishida T, Suzuki K, Shimada K, Tomita A, Kato M, Ota Y, Izutsu K, Demachi-Okamura A, Akatsuka Y, Miyano S, Yoshino T, Gaulard P, <u>Yoshida K</u>	Frequent structural variations involving programmed death ligands in Epstein-Barr virus-associated lymphomas.	Leukemia. 33(7):1687-1699. doi: 10.1038/s41375-019-0380-5.	2019 Jul
8	Nagao Y, Mimura N, Takeda J, Yoshida K, Shiozawa Y, Oshima M, Aoyama K, Saraya A, Koide S, Rizq O, Hasegawa Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Nishijima D, Isshiki Y, Kayamori K, Kawajiri-Manako C, Oshima-Hasegawa N, Tsukamoto S, Mitsukawa S, Takeda Y, Ohwada C, Takeuchi M, Iseki T, Misawa S, Miyano S, Ohara O, Yokote K, Sakaida E, Kuwabara S, <u>Sanada M</u> , Iwama A, <u>Yoshida K</u>	Genetic and transcriptional landscape of plasma cells in POEMS syndrome.	Leukemia. 33(7):1723-1735. doi: 10.1038/s41375-018-0348-x.	2019 Jul
9	<u>Yasuda T</u> , <u>Horibe K</u>	Precision medicine in hematological malignancies	Rinsho Ketsueki. 2019;60(9):1386-1395.	2019. 9
10	Yamamoto H, Hayakawa F, <u>Yasuda T</u> , Odaira K, Minamikawa Y, Tange N, Hirano D, Kojima Y, Morishita T, Tsuzuki S, <u>Naoe T</u> , <u>Kivori H</u>	ZNF384-fusion proteins have high affinity for the transcriptional coactivator EP300 and aberrant transcriptional activities	FEBS Lett. 2019 Aug;593(16):2151-2161. doi: 10.1002/1873-3468.13506.	2019 Jul
11	Sugiyama K, <u>Iwakoshi A</u> , Satoh M, Shiraishi K, Nozawa K, Kogure Y, Kitagawa C, Moritani S, <u>Katoh E</u> , <u>Saka H</u>	Primary Mediastinal HER2-positive Apocrine Carcinoma in Mature Teratoma Treated With Anti-HER2 Therapy and Chemoradiation.	In Vivo. 2019 Mar-Apr;33(2):551-557.	2019. 3
12	<u>大岩 幹直</u> , <u>遠藤 登喜子</u> , <u>佐藤 康幸</u> , <u>森田 孝子</u> , <u>林 孝子</u> , <u>須田 波子</u> , <u>加藤 彩</u> , <u>宇佐見 寿志</u> , <u>安藤 嘉朗</u> , <u>市原 周</u> , <u>西村 理恵子</u>	40歳代の乳癌マンモグラフィ検診における超音波検査併用への期待 乳癌手術症例から40歳代の乳癌の特徴を解析し死亡率減少の可能性を探る	日本乳癌検診学会誌 (0918-0729)28巻1号 Page37-44	2019. 4
13	<u>Ichihara S</u> , <u>Moritani S</u> , <u>Nishimura R</u> , Oiwa M, Morita T, Hayashi T, Kato A, Endo T, Kada A, Ito N, <u>Kuroishi T</u> , <u>Sato Y</u>	Polygon method: A systematic margin assessment for breast conservation.	Cancer Med. 2019 Jul;8(7):3359-3369.	2019. 5
14	Yano M, Numanami H, Akiyama T, Taguchi R, Furuta C, <u>Iwakoshi A</u> , <u>Haniuda M</u>	Thoracoscopic Thymectomy for Large Thymic Cyst: Myasthenia Gravis With Thymoma Concealed by Thymic Cyst.	Surg Laparosc Endosc Percutan Tech. 2019 Jun;29(3):e34-e36.	2019. 6
15	<u>砂口 尚輝</u> , <u>島雄 大介</u> , <u>市原 周</u> , <u>西村 理恵子</u> , <u>岩越 朱里</u> , <u>渡邊 彩</u> , <u>丹羽 輝久子</u> , <u>黄 卓然</u> , <u>湯浅 哲也</u> , <u>安藤 正海</u>	X線暗視野法に基づく屈折コントラスト X線CTを用いたヒト乳頭の3次元可視化および解析	日本医用画像工学会大会 予稿集38回 Page384-390	2019. 7

【論文】

16	Matsui A, Murata Y, Masuda N, Mori K, Takahashi M, Yamashiro K, Aogi K, Maeda S, Itou M, Ozaki S, Kuraoka K, Satou Y, Ichihara S, Tokunaga E, Taguchi K, Watanabe T, Suzuki H, Nagayama A, Nishimura R.	Clinical significance of evaluating hormone receptor and HER2 protein using cell block against metastatic breast cancer: a multi-institutional study.	Oncotarget. 2019 Oct 1;10(55):5680-5689.	2019.10
17	Nishimura R (分担)	2 Epithelial tumours of the breast. WHO Classification of Tumours.	Breast Tumours 5th Edition (WHO Classification of Tumours Editorial Board ed.) p40-48; p142-152. IARC. Lyon	2019.11
18	Kohno K, Sakakibara A, Iwakoshi A, Hasegawa M, Adachi S, Ishikawa E, Suzuki Y, Shimada S, Nakaguro M, Shimoyama Y, Takahara T, Takahashi E, Ohashi A, Satou A, Kato S, Asano N, Nakamura S.	Syncytial variant of classic Hodgkin lymphoma: Four cases diagnosed with the aid of CD274/programmed cell death ligand 1 immunohistochemistry.	Pathol Int. 2020 Feb;70(2):108-115.	2020.1
19	Sakakibara A, Kohno K, Iwakoshi A, Moritani S, Fujishiro A, Kito K, Suzuki Y, Shimada S, Nakaguro M, Shimoyama Y, Takahara T, Takahashi E, Ohashi A, Satou A, Kato S, Asano N, Nakamura S.	Diagnostic utility of programmed cell death ligand 1 (clone SP142) in mediastinal composite lymphoma: A report of two cases.	Pathol Int. 2020 Feb;70(2):116-122.	2020.1
20	砂口 尚輝, 島雄 大介, 市原 周, 西村 理恵子, 岩越 朱里, 渡邊 彩, 丹羽 輝久子, 黄 卓然, 湯浅 哲也, 安藤 正海	X線暗視野法に基づく屈折コントラスト X線CTを用いたヒト乳頭の三次元可視化および解析	MEDICAL IMAGING TECHNOLOGY (0288-450X) 38巻1号 Page33-38	2020.1
21	砂口 尚輝, 島雄 大介, 市原 周, 西村 理恵子, 岩越 朱里, 渡邊 彩, 丹羽 輝久子, 黄 卓然, 湯浅 哲也, 安藤 正海	X線暗視野法に基づく屈折コントラスト X線CTを用いたヒト乳頭の三次元可視化および解析.	MEDICAL IMAGING TECHNOLOGY. 2020 Feb;38(1):33-39.	発行: 2020.1 リリース: 2020.2.
22	Sunaguchi N, Shimao D, Yuasa T, Ichihara S, Nishimura R, Oshima R, Watanabe A, Niwa K, Ando M.	Three-dimensional microanatomy of human nipple visualized by X-ray dark-field computed tomography.	Breast Cancer Res Treat. 2020 Apr;180(2):397-405.	2020.2
23	Oda H, Roth HR, Sugino T, Sunaguchi N, Usami N, Oda M, Shimao D, Ichihara S, Yuasa T, Ando M, Akita T, Narita Y, Mori K.	Cardiac fiber tracking on super high-resolution CT images: a comparative study.	J Med Imaging Bellingham 2020 Mar;7(2):026001.	2020.3
24	Oiwa M, Endo T, Suda N, Morita T, Sato Y, Kawasaki T, Ichihara S	Can quantitative evaluation of mammographic breast density, "volumetric measurement", predict the masking risk with dense breast tissue? Investigation by comparison with subjective visual estimation by Japanese radiologists	Breast Cancer 2019;26(3):349-358	2019.5
25	Muramatsu C, Higuchi S, Morita T, Oiwa M, Kawasaki T, Fujita H	Image retrieval of breast masses on ultrasound images	Proc SPIE Medical Imaging 10955: 1095517-1-1095517-6	2019.4
26	宇佐見 寿志, 安藤 嘉朗, 大岩 幹直	腎洞脂肪組織に浸潤を認めた淡明細胞型腎細胞癌の1例	名古屋レントゲンカンファランス症例集 2019;27(1):11-12	2019.6
27	遠藤 登喜子	【知っておきたい乳癌スクリーニング】マンモグラフィ検診の歩みと展望	臨床画像 2019;35(7):765-774	2019.7

【論文】

【学会発表】

	発表者	題目	発表機関	発表年月 (場所)
1)	Yokoyama A, Kakiuchi N, Yoshizato T, Nannya Y, Suzuki H, Takeuchi Y, Shiozawa Y, Sato Y, Aoki K, Kim S, Fujii Y, Yoshida K, Kataoka K, Nakagawa M, Inoue Y, Hirano T, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, <u>Sanada M</u> , Ohashi S, Miyamoto S, Tsunoda S, Mimori K, Minamiguchi S, Miyano S, <u>Makishima H</u> , <u>Muto</u>	Chronology and risk-dependence of age-related remodelling of oesophageal epithelia.	AACR Annual Meeting 2019	2019/4/2
2)	Fujii Y, Sato Y, Suzuki H, Yoshizato T, Yoshida K, Shiraishi Y, Kawai T, Nakagawa T, Hiroaki Nishimatsu, Okaneya T, <u>Sanada M</u> , Makishima H, Aburatani H, Miyano S, Kume H, Ogawa S.	Integrated analysis of urothelial carcinoma.	AACR Annual Meeting 2019	2019/4/2
3)	眞弓あずさ, 今村俊彦, 飯島友加, 富井敏宏, <u>西島大</u> , 友安千紜, 矢野未央, 田村真一, 大曾根眞也, 石田宏之, 白石友一, 黒田啓史, 宮野 悟, 堀部敬三, 小川誠司, <u>眞田昌</u> , <u>細井 創</u>	再発B前駆細胞型急性リンパ性白血病のクローン進化の検討	第122回日本小児科学会	2019/4/19
4)	<u>Sanada M</u> , <u>Yamada T</u> , <u>Nishijima N</u> , <u>Iijima-Yamashita Y</u> , Hori T, Horibe K.	Target Capture Sequencing Method for Screening MRD Markers in Infant Leukemia.	1st International Conference-Acute Lymphoblastic Leukaemia (ESH)	2019/5/19
5)	Takeda J, Shih LU, Yoshida K, Makishima H, Yoshizato Y, Shiozawa Y, Ochi Y, Kon A, Yoda A, Nakagawa M, Nannya Y, Kataoka K, <u>Sanada M</u> , Chiba K, Shiraishi Y, Miyano S, Hiramoto N, Chiba S, Miyazaki Y, Takaori-Kondo Y, Ishikawa T, Kerr C, Maciejewski J, Ganser A, <u>Hauger M</u> , <u>Thiel E</u>	Novel Molecular pathogenesis and therapeutic target in acute erythroid leukemia.	24th Congress of the European Hematology Association (EHA24)	2019/6/13
6)	Kanamori T, <u>Sanada M</u> , Ri M, Ueno H, <u>Nishijima D</u> , <u>Yasuda T</u> , Aoki S, Asano A, Tachita T, Kinoshita S, Narita T, Ito A, Kusumoto S, Masuda Y, Kobayashi N, Shiozawa Y, Nakagawa M, Nannya Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Komatsu H, Miyano S, Handa H, <u>Ogawa S</u> , <u>Tsuda S</u>	Comprehensive genetic analysis of multiple myeloma in Japan.	24th Congress of the European Hematology Association (EHA24)	2019/6/13
7)	Kon A, Nanya Y, Kataoka K, Nakayama N, Koseki H, <u>Sanada M</u> , Makishima H, Nakagawa M, <u>Ogawa S</u>	Biological Characterization of the U2AF1 S34F Mutation in the pathogenesis of myelodysplasia.	24th Congress of the European Hematology Association (EHA24)	2019/6/14

【論文】

8)	Morimoto M, Makishima H, Nagata H, Baer C, Nadarajah N, Nagae G, Nannya Y, Miyazaki Y, Yoshida K, Yoshizato T, Nakagawa M, Inagaki R, Takeda J, Fujii Y, Takeuchi Y, Ueno H, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, <u>Sanada M</u> , Miyano S, Haferlach C, Kerm W, Aburatani H, Haferlach T, Ogawa S	Integrated profiling of DNA methylation and mutations in patients with myelodysplastic syndromes.	24th Congress of the European Hematology Association (EHA24)	2019/6/13
9)	Saiki R, Shiozawa Y, Yoshizato T, Nanya Y, Takeda J, Yoshida K, Shiraishi Y, Tanaka H, Chiba K, Atsuta Y, Onizuka M, Itonaga H, <u>Sanada M</u> , Kanda Y, Przychodzen B, Sekeres MA, Guinta KM, Sauntharajah Y, Shih LU, Miyawaki S, Nakamaki T, Taguchi M, Fuji S, Sasaki N, Uoshima N, Ueda Y, Miyazaki Y, Usuki K, Imada K, Takaori-Kondo A, Chiba S, Kasahara S, Kiguchi T, Tsurumi H, Malcovati L, Cazzola M, Ishikawa T, Miyano S, Maciejewski JP, Mitsuhashi T	NGS-Based copy-number analysis in more than 2,000 patients with myeloid neoplasms.	24th Congress of the European Hematology Association (EHA24)	2019/6/14
10)	Svaton M, Fronkova E, Reigl T, Caye A, Bie M, Genuardi E, Jelinkova H, Huizi E Lim, <u>Nishijima D</u> , Pal K, Salemi D, Sarasquete ME, Songia S, Tosi M, Villarese P, Wakeman S, Cave H, Cazzaniga G, Frerero S, Sanz RZ, Hancock J, Macintyre E, Plevova K, <u>Sanada M</u> , Santoro A, Spinelli O, Velden V, Yeoh AE, Langerak AW, Darzentas N, Brü	Multicentre standardization of minimal residual disease detection and quantitation using the euroclonality-NGS assay.	24th Congress of the European Hematology Association (EHA24)	2019/6/13
11)	Masashi Sanada	Clinical Impact of Genetic Information in Pediatric Acute Lymphoblastic Leukemia.	Japan-Lithuania Workshop (医療情報・バイオリソースを活用した医療研究開発) 国際ワークショップ)	2019/9/23
12)	眞田 昌	小児白血病のクリニカルシーケンスの展望	第78回日本癌学会学術総会	2019/9/26
13)	Ochi Y, Kon A, Nakagawa M, Kataoka K, Koseki H, Saiki R, Tetsuichi Yoshizato K, Yoshida K, Yoda A, Suzuki H, Tsuruyama T, Makishima H, Shiozawa Y, Nannya Y, Sugihara E, Sato T, <u>Sanada M</u> , Takaori-Kondo A	Combined Stag2/Runx1 loss causes myelodysplastic syndrome through perturbed enhancer interactions.	第78回日本癌学会学術総会	2019/9/26

【論文】

14)	Takeda J, Yoshida K, Yoshizato T, Shiozawa Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, <u>Sanada M</u> , Miiyano S, Yoda A, Makishima H, <u>Ogawa S</u>	Molecular pathogenesis and therapeutic target in acute erythroid leukemia	第78回日本癌学会学術総会	2019/9/26
15)	Makishima H, Yoshizato T, Takeda J, Momozawa Y, Nannya Y, Atsuta Y, Onizuka M, Itonaga H, Miyazaki Y, <u>Sanada M</u> , Kamatani Y, Miyano S, <u>Ogawa S</u>	Germline predisposition to myeloid neoplasms and clonal hematopoiesis of indeterminate potential in Japan.	第78回日本癌学会学術総会	2019/9/27
16)	齋藤 俊樹、安田 貴彦、 <u>真田 昌</u> 、永井 宏和、堀部 敬三	がん領域におけるクリニカルシーケンスのための臨床ゲノム情報データベースの開発	第78回日本癌学会学術総会	2019/9/27
17)	奥田 瑠璃花、牧島 秀樹、吉里 哲一、南谷 泰仁、永田 安伸、越 智陽太郎、竹田 淳恵、吉田 健一、 <u>真田 昌</u> 、白石 友一、宮野 悟、熱田 由子、小川 誠司	骨髄異形成症候群における der (1; 7) の臨床的、遺伝学的特徴	第78回日本癌学会学術総会	2019/9/27
18)	Yokoyama A, Kakiuchi N, Yoshizato T, Nannya Y, Takeuchi Y, Shiozawa Y, Makishima H, Tsunoda S, <u>Sanada M</u> , <u>Miyano S</u> , <u>Muto M</u>	Age-related remodeling of esophageal epithelia by mutated cancer drivers.	第78回日本癌学会学術総会	2019/9/28
19)	竹内 康英, Chantana Polprasert, 垣内 伸之, 吉田 健一, <u>真田 昌</u> , 秋田 直洋, 竹田 淳恵, 藤井 陽一, 鈴木 啓道, 南谷 泰仁, 白石 友一, 千葉 健一, 田中 洋子, 宮野 悟, Ponlapat Rojnuckarin, 小川 誠司, 牧島 秀樹	孤発例の皮下脂肪織炎様T細胞リンパ腫でも高頻度でTIM3の胚細胞変異を認める	第81回日本血液学会学術集会	2019/10/11
20)	富田 章裕, 安田 貴彦, <u>真田 昌</u> , 三好 寛明, 大島 孝一, 加留部 謙之輔, 錦織 桃子, 倉橋 浩樹, 入山 智沙子, 岡本 晃直, 平賀 潤二, 楠本 茂, 福原 規子, 山本 松雄, 齋藤 明子, 永井 宏和, 岡本 昌隆, <u>服部 浩佳</u> , 金森 貴之, <u>西島 大</u> , 白石 友一, 宮野 悟, 小川 誠司, 堀部 敬三	悪性リンパ腫におけるクリニカルシーケンス：臨床現場における網羅的遺伝子解析の実現可能性に関する研究	第81回日本血液学会学術集会	2019/10/11
21)	佐伯 龍之介, 塩澤 裕介, 吉里 哲一, 南谷 泰仁, 竹田 淳恵, 吉田 健一, 白石 友一, 田中 洋子, 千葉 健一, 熱田 由子, 鬼塚 真仁, 糸永 英弘, <u>真田 昌</u> , 神田 善伸, Przychodzen Bartlomiej, Sekeres Mikkael, Guinta Kathryn, Sauntharajah Yogen, 宮崎 泰司, 千葉 滋, 笠原 千嗣, 木口 亨, 鶴見 寿, Malcovati Luca, Cazzola Mario, 石川 隆之, 宮野 悟	骨髄系腫瘍におけるコピー数異常と遺伝子変異の統合解析	第81回日本血液学会学術集会	2019/10/11
22)	齋藤 俊樹, 濱野 康司, 山本 松雄, <u>安田 貴彦</u> , 近藤 修平, <u>真田 昌</u> , 永井 宏和, 堀部 敬三	がん領域におけるクリニカルシーケンスのための臨床ゲノム情報データベースの開発	第81回日本血液学会学術集会	2019/10/12

【論文】

23)	奥田 瑠璃花, 牧島 秀樹, 吉里 哲一, 南谷 泰仁, 永田 安伸, 越智 陽太郎, 竹田 淳恵, 吉田 健一, 真田 昌, 白石 友一, 宮野 悟, Wolfgang Kern, Constance Baer, Niroshan Nadarajah, Tamara Alpermann, Claudia Haferlach, 笠原 千嗣, 半田 寛, 千葉 滋, Torsten Haferlach, 小川 誠司	Distinct ethnic, clinical, and genetic characteristics of der(1;7) in myelodysplastic syndromes.	第81回日本血液学会学術集会	2019/10/12
24)	平林 真介, 安田 貴彦, 真田 昌, 服部 浩佳, 西島 大, 倉橋 浩樹, 白石 友一, 山本 松雄, 齋藤 明子, 加藤 元博, 村松 秀城, 熊本 忠史, 後藤 裕明, 小林 良二, 足立 壮一, 宮野 悟, 小川 誠司, 堀部 敬三, 直部 淳	小児造血器腫瘍におけるクリニカルシーケンスの実行可能性に関する研究	第81回日本血液学会学術集会	2019/10/12
25)	横山 寿行, 安田 貴彦, 石川 裕一, 臼杵 憲祐, 矢野 真吾, 伊藤 良和, 康 史朗, 木口 亨, 宮田 泰彦, 清井 仁, 松村 到, 宮崎 泰司, 服部 浩佳, 西島 大, 山本 松雄, 齋藤 明子, 倉橋 浩樹, 白石 友一, 宮野 悟, 真田 昌, 小川 誠司, 堀部 敬三	急性骨髄性白血病に対するクリニカルシーケンス実行可能性を検証する多施設共同研究	第82回日本血液学会学術集会	2019/10/12
26)	本村 公則, 井上 善景, 永田 安伸, 吉里 哲一, Baer C, 桃沢 幸秀, Nadarajah N, Alpermann T, 南谷 泰仁, 吉田 健一, Haferlach C, Kern W, 熱田 由子, 飯島 友加, 白石 友一, 鬼塚 真仁, 千葉 健一, 田中 洋子, 糸永 英弘, 宮崎 泰司, 堀部 敬三, 真田 昌, 鎌谷 洋一郎, 久保 充明, 宮野 悟, Haferlach T, 牧島 秀	健常者と骨髄系腫瘍におけるPPM1D遺伝子の変異について	第82回日本血液学会学術集会	2019/10/12
27)	森本 俊, 牧島 秀樹, 永田 安伸, Baer C, Nadarajah N, 永江 玄太, 南谷 泰仁, 宮崎 泰司, Luca M, 吉田 健一, 吉里 哲一, 中川 正宏, 稲垣 良作, 竹田 淳恵, 藤井 陽一, 竹内 康英, 越智 陽太郎, 上野 浩生, 白石 友一, 千葉 健一, 田中 洋子, 真田 昌, 宮野 悟, Haferlach C, Kern W, 油谷 浩幸, Morio C, Haferlach T	骨髄腫瘍におけるゲノム・エピジェネティクス統合解析	第82回日本血液学会学術集会	2019/10/12

【論文】

28)	<p>牧島 秀樹, 吉里 哲一, 竹田 淳恵, 桃沢 幸秀, 南谷 泰仁, 熱田 由子, 塩澤 裕介, 飯島 友加, 吉田 健一, 白石 友一, 鈴木 啓道, 永田 安伸, 佐藤 悠佑, 垣内 伸之, 鬼塚 真仁, 片岡 圭亮, 千葉 健一, 田中 洋子, 上野 浩生, 中川 正宏, 糸永 英弘, 神田 善伸, 宮崎 泰司, 堀部 敬三, 真田 昌, 鎌谷 洋一郎, 久保 充明, 宮野 悟, 小 川 誠司</p>	<p>本邦における骨髄異形成症候群および クローン性造血に関連するリスクアレ ルの検討</p>	<p>第82回日本血液学会学術 集会</p>	<p>2019/10/12</p>
29)	<p>越智 陽太郎, 昆 彩奈, 坂田 豊典, 中川 正宏, 片岡 圭亮, 古関 明彦, 中山 学, 佐伯 龍之介, 吉里 哲一, 吉田 健一, 依田 成玄, 小谷 模一, 鈴木 洋, 森下 大輔, 角 田 将典, 鶴山 竜昭, 牧 島 秀樹, 塩澤 裕介, 南 谷 泰仁, 杉原 英志, 佐 藤 孝明, 真田 昌, 高折 晃史, 宮野 悟, 白髭 克 彦, 小川 誠司</p>	<p>コヒーシンSTAG2およびRUNX1変異によ る骨髄異形成症候群発症の分子機構</p>	<p>第82回日本血液学会学術 集会</p>	<p>2019/10/12</p>
30)	<p>金森 貴之, 真田 昌, 李 政樹, 上野 浩生, 西島 大, 安田 貴彦, 青木 奨, 浅野 有彩, 立田 卓 登, 木下 史緒理, 成田 朋子, 伊藤 旭, 楠本 茂, 稲垣 淳, 増田 裕 太, 小林 宣彦, 塩澤 裕 介, 吉田 健一, 中川 正 宏, 南谷 泰仁, 白石 友 一, 千葉 健一, 田中 洋 子, 小松 弘和, 宮野 悟, 半田 寛, 小川 誠 司</p>	<p>多発性骨髄腫における次世代シーケン サーによる免疫グロブリン関連転座の 検出</p>	<p>第82回日本血液学会学術 集会</p>	<p>2019/10/12</p>
31)	<p>上野 浩生, 吉田 健一, 塩澤 裕介, 飯島 友加, 清河 信敬, 白石 友一, 千葉 健一, 田中 洋子, 磯部 友弥, 関 正史, 木 村 俊介, 片岡 圭亮, 牧 島 秀樹, 出口 隆生, 大 木 健太郎, 佐藤 篤, 高 橋 浩之, 橋井 佳子, 時 政 貞夫, 原 純一, 小阪 嘉之, 加藤 剛二, 犬飼 岳史, 滝田 順子, 今村 俊彦, 宮野 悟, 真部 淳, 堀部 敬三, 小川 誠 司, 真田 昌</p>	<p>小児B前駆細胞性急性リンパ性白血病に おけるTP53変異と予後との関連につい て</p>	<p>第82回日本血液学会学術 集会</p>	<p>2019/10/12</p>
32)	<p>竹田淳恵, Leeyung Shih, 千葉健一, 白石友 一, 塩澤裕介, 吉里哲 一, 昆彩奈, 越智陽太 郎, 永田安伸, 半下石 明, 石山謙, 鶴見寿, 宮 崎泰司, 平本展大, 石川 隆之, 高折晃史, 片岡圭 亮, 真田昌, 田中洋子, 白杵憲祐, 宮脇修一, 宮 野悟, Arnold Ganser, Michael Heuser, Belaites Thal, 南谷泰</p>	<p>赤白血病の特徴と新たな分子標的</p>	<p>第82回日本血液学会学術 集会</p>	<p>2019/10/12</p>

【論文】

33)	李 政樹, 安田 貴彦, 半田 寛, 石田禎夫, 柴山浩彦, 安倍正博, 金森貴之, 真田昌, 服部浩佳, 西島大, 倉橋浩樹, 白石友一, 山本松雄, 齋藤明子, 宮野悟, 小川誠司, 堀部敬三 飯田直介	多発性骨髄腫におけるクリニカルシーケンスの実行可能性の研究	第82回日本血液学会学術集会	2019/10/13
34)	Masashi Sanada	Role of Blood Testing	3rd Annual Asian Myeloma Net Work Summit 2019	2019/10/26
35)	Masashi Sanada	Clonality analysis of patients with infant leukemia by target-capture sequence.	8th ESLHO Symposium, 28th EuroMRD meeting	2019/11/7
36)	飯島友加, 出口隆生, 清河信敬, 河崎裕英, 嶋田博之, 佐藤篤, 中筋美穂, 堀部敬三, 真田昌	JPLSG ALL-Ph13 治療研究における minimal residual disease(MRD)の検討	第61回日本小児血液・がん学会	2019/11/14
37)	嶋田明, 長谷川大一郎, 今村俊彦, 金田眞, 八木啓子, 高橋良博, 宇佐美郁哉, 末延聡一, 西村真一郎, 橋井佳子, 出口隆生, 齋藤明子, 加藤剛二, 小阪嘉之, 平山雅浩, 井口晶裕, 河崎裕英, 堀浩樹, 佐藤篤, 中畑龍俊, 小田慈, 上野浩生, 真田昌, 小川誠司, 原純一, 堀部敬三	JACLS ALLO2研究におけるAcute Mixed Leukemia の遺伝子変異	第61回日本小児血液・がん学会	2019/11/14
38)	真田昌	小児白血病におけるゲノム医療の必要性	第61回日本小児血液・がん学会	2019/11/16
39)	Yoshida M, Nakabayashi K, Sato A, Tsujimoto S, Yoshida K, Shirai R, Osumi T, Yuza Y, Takagi M, Takahashi H, Koh K, Kinoshita A, Hino M, Imamura T, Nakazawa Y, Okuya M, Kakuda H, Sanada M, Matsumoto K, Tomizawa D, Kiyokawa N, Ohara A, Manabe M, Hara K	NUDT15 variants confer high incidence of secondary malignancies of ALL in children.	第61回日本小児血液・がん学会	2019/11/16
40)	Shimada A, Hasegawa D, Imamura T, Kaneda M, Yagi K, Takahashi Y, Usami I, Suenobu S, Nishimura S, Hshii K, Deguchi T, Saito A, Kato K, Kosaka Y, Hirayama M, Iguchi A, Kawasaki H, Hori H, Sato A, Nakahata T, Oda M, Ueno H, Sanada M, Ogawa S, Hara J, Horibe K	Genetic alterations in acute mixed leukemia, result of JACLS-ALL02 study	第61回日本小児血液・がん学会	2019/11/16
41)	Shimada A, Hasegawa D, Imamura T, Kaneda M, Yagi K, Takahashi Y, Usami I, Suenobu S, Nishimura S, Hshii K, Deguchi T, Saito A, Kato K, Kosaka Y, Hirayama M, Iguchi A, Kawasaki H, Hori H, Sato A, Nakahata T, Oda M, Ueno H, Sanada M, Ogawa S, Hara J, Horibe K	PPM1D and DNMT3A Mutations in Myelodysplasia and Clonal Hematopoiesis	61st ASH Annual Meeting	2019/12/7

【論文】

42)	Saiki S, Shiozawa Y, Yoshizato T, Nannya Y, Takeda J, Yoshida K, Shiraishi Y, Tanaka H, Chiba K, Atsuta Y, Onizuka M, Itonaga H, <u>Sanada M</u> , Kanda Y, Przychodzen B, Sekeres MA, Guinta K, Saunthararajah Y, Shih LY, Miyawaki S, Nakamaki T, Taguchi M, Fuji S, Sasaki N, Uoshima N, Ueda Y, Miyazaki Y, Usuki K, Imada K, Takaori-Kondo A, Chiba S, Kasahara S, Kiguchi T, Tsurumi H, Malcovati L, Cazzola M, Ishikawa T, Miyano S, Maciejewski TP, <u>Takeda F</u> , <u>Miyama M</u>	Integrated Analysis of Copy-Number Alterations and Gene Mutations in 2,000 Patients with Myeloid Neoplasms	61st ASH Annual Meeting	2019/12/8
43)	Yoshida M, Nakabayashi K, Sato-Otsubo A, Tsujimoto S, Yoshida K, Shirai R, Osumi T, Yuza Y, Takagi M, Takahashi H, Koh K, Kinoshita A, Hino M, Imamura T, Nakazawa Y, Mayuko O, Kakuda H, <u>Sanada M</u> , Matsumoto K, Tomizawa D, Kiyokawa N, Ohara A, <u>Manabe A</u> , <u>Hata K</u>	NUDT15 Variants Confer High Incidence of Secondary Malignancies of ALL in Children	61st ASH Annual Meeting	2019/12/8
44)	<u>Sanada M</u> , <u>Yamada T</u> , <u>Iijima-Yamashita Y</u> , <u>Nishijima D</u> , Kanamori T, Tomizawa D, Hori T, Horibe K	Targeted-Capture Sequencing Is a Useful Method for MRD Markers Screening in KMT2A (MLL) Rearranged Leukemia	61st ASH Annual Meeting	2019/12/8
45)	Takeda J, Yoshida K, Nannya Y, Shih LY, Kon A, Yoda A, Och Y, Shiozawa Y, Yoshizato T, Kerr CM, Shiraishi Y, Chiba K, Nagata Y, Hangaishi A, Kitano T, Ishiyama K, Tsurumi K, Miyazaki Y, Hiramoto N, Ishikawa T, Takaori-Kondo A, Nakagawa M, <u>Sanada M</u> , Nakazawa H, Kataoka K, Saiki R, Tanaka H, Usuki K, Miyawaki S, Miyano S, Ganser A, Heuser M, Maciejewski TP, <u>Takeda F</u> , <u>Miyama M</u>	Novel Molecular Pathogenesis and Therapeutic Target in Acute Erythroid Leukemia.	61st ASH Annual Meeting	2019/12/8
46)	安田貴彦、堀部敬三	造血器腫瘍におけるプレジジョン・メ ディシン	第81回日本血液学会学術 集会	2019/10/13
47)	西村理恵子	乳がんの病理と画像.	第41回 マンモグラフィ 読影講習会	2019.4 (愛知県名 古屋市)
48)	大岩幹直, 須田波子, 森田孝子, 加藤彩, 林孝子, 遠藤登喜子, 市原周, 西村理恵子, 佐藤康幸	嚢胞性乳癌の診断におけるFNA検体cell block法の有用性の検討.	第119回 日本外科学会定 期学術集会	2019.4 (大阪府大 阪市)

【論文】

49)	Rieko Nishimura, Yuya Murata, Kiyoshi Mori, Katsushige Yamashiro, Masahiro Ito, Kazuya Kuraoka, <u>Shu Ichihara</u> , Kenichi Taguchi, Hirovoshi Suzuki	Formalin-fixed cell blocks prepared by the sodium alginate method: a suitable approach to receptor analysis of cytological specimens from breast cancer metastases.	20th International Congress of Cytology (Sydney, Australia)	2019. 5 (Sydney, Australia)
50)	高原大志、露木琢司、佐藤啓、岩越朱里、大橋明子、高橋恵美子、都築豊徳	高悪性度前立腺癌におけるp16陽性所見の意義.	第108回日本病理学会総会	2019. 5(東京都千代田区)
51)	高橋恵美子、土田孝、馬場聡、露木琢司、高原大志、岩越朱里、大橋明子、都築豊徳、中村栄	リンパ節病変がホジキンリンパ腫様組織像を呈する皮膚原発CD30陽性 lymphoproliferative disorderの2例.	第108回日本病理学会総会	2019. 5(東京都千代田区)
52)	伊藤貴至、高原大志、谷口奈都希、山本侑季、露木琢司、佐藤啓、岩越朱里、大橋明子、高橋恵美子、都築豊徳	79歳、女性の全身性強皮症に合併した大腸穿孔の一症例.	第108回日本病理学会総会	2019. 5(東京都千代田区)
53)	谷口奈都希、伊藤貴至、高原大志、山本侑季、露木琢司、佐藤啓、岩越朱里、大橋明子、高橋恵美子、都築豊徳	Efficacy of docetaxel in metastatic prostate cancer with intraductal carcinoma component.	第108回日本病理学会総会	2019. 5(東京都千代田区)
54)	山本侑季、谷口奈都希、伊藤貴至、高原大志、露木琢司、佐藤啓、岩越朱里、大橋明子、高橋恵美子、都築豊徳	日米間の前立腺癌の臨床病理学的相違について.	第108回日本病理学会総会	2019. 5(東京都千代田区)
55)	露木琢司、高原大志、岩越朱里、大橋明子、高橋恵美子、都築豊徳	肝臓原発悪性中皮腫の1症例.	第108回日本病理学会総会	2019. 5(東京都千代田区)
56)	西村理恵子	乳癌細胞診検体を用いたホルモン受容体とHER2の評価.	第163回 日本臨床細胞学会東海連合会例会 (特別講演)	2019. 6 (愛知県名古屋市)
57)	林孝子、佐藤康幸、加藤彩、渡邊伸一、森田孝子、西村理恵子、市原周	乳癌サブタイプ別に比較した術後経過観察期間についての検討.	第27回 日本乳癌学会総会	2019. 7 (東京都新宿区)
58)	森田孝子、須田波子、大岩幹直、林孝子、加藤彩、西村理恵子、佐藤康幸、市原周、高橋優子、遠藤登喜子	非浸潤がんの悪性度・サブタイプ別検討.	第27回 日本乳癌学会総会	2019. 7 (東京都新宿区)
59)	大岩幹直、遠藤登喜子、佐藤康幸、森田孝子、須田波子、高橋優子、林孝子、加藤彩、宇佐美寿志、安藤嘉朗、篠原範允、市原周、西村理恵子	硬化性腺症の乳癌発症リスクは、硬化性腺症の指摘のない乳癌術後のde novo乳癌発症のリスクとほぼ同等.	第27回 日本乳癌学会総会	2019. 7 (東京都新宿区)
60)	西村理恵子	乳がんの病理と画像.	第42回 マンモグラフィ読影講習会	2019. 7 (愛知県名古屋市)
61)	砂口尚輝、島雄大介、市原周、西村理恵子、渡邊彩、丹波輝久子、黄卓然、湯浅哲也、安藤正海	屈折コントラストX線CTを用いたヒト乳頭3次元可視化および解析.	第38回 日本医用画像工学会大会	2019. 7 (奈良県奈良市)
62)	西村理恵子	乳癌細胞診検体を用いたホルモン受容体とHER2の評価.	第36回 日本臨床細胞学会北陸連合会学術集会 (教育講演)	2019. 9 (石川県河北郡内灘町)
63)	大岩幹直、遠藤登喜子、森田孝子、須田波子、高橋優子、西村理恵子、市原周、岩越朱里、宇佐美寿志、安藤嘉朗、篠原範允	新時代の乳腺画像診断 デジタルマンモグラフィソフトコピー診断の時代 トモシンセシスからAIまで.	第55回 日本医学放射線学会秋季臨床大会 (シンポジウム4: 新時代の乳腺画像診断)	2019. 10 (愛知県名古屋市)
64)	渡邊孝治、矢田啓治、久野欽子、山下美奈、加藤由華、大場美怜、伊藤健太、西村理恵子	病理診断の確認漏れに関する改善の検討.	第72回 国立病院総合医学会	2019. 11 (愛知県名古屋市)

【論文】

65)	竹内陸, 西村理恵子, 岩越朱里, 市原周	肺(番号1503).	第84回日本病理学会中部支部交展会	2019.12 (愛知県名古屋市)
66)	西川美紀子, 佐々実穂, 大畑麗子, 高野悠子, 菊森豊根, 森田孝子	超音波 (US) 検診にて乳腺内の低エコー域として発見された乳がん症例の検討	第27回日本乳癌学会学術総会	2019.07 (東京)
67)	林孝子, 佐藤康幸, 加藤彩, 渡邊伸一, 森田孝子, 西村理恵子, 市原周	乳癌サブタイプ別に比較した術後経過観察期間についての検討	第27回日本乳癌学会学術総会	2019.07 (東京)
68)	加藤彩, 林孝子, 森田孝子, 佐藤康幸	術後早期にToxic shock syndromeを発症した局所進行乳癌の1例	第27回日本乳癌学会学術総会	2019.07 (東京)
69)	白岩美咲, 小野由美香	トモシンセシスを追加した乳癌マンモグラフィ検診の検討	第27回日本乳癌学会学術総会	2019.07 (東京)
70)	大岩幹直, 遠藤登喜子, 須田波子, 高橋優子, 森田孝子, 市原周, 西村理恵子	視覚評価における評価者間・評価者内の不一致の問題 精中機構 新乳房の構成の評価案の初期検討	第20回乳癌最新情報カンファランス	2019.08 (小樽)
71)	広藤喜章	マンモグラフィにおける放射線防護の考え方	第9回デジタルマンモグラフィを基礎から学ぶセミナー	2019.08 (横浜)
72)	森田孝子	高濃度乳房～マンモグラフィ読影のスキル～	第16回日本乳癌学会中部地方会	2019.08 (名古屋)
73)	広藤喜章	線量管理はどこまで準備が必要か	第44回広島医療情報システム研究会シンポジウム	2019.09 (福山)
74)	遠藤登喜子	乳腺ブレスト トモシンセシス診断の現状	第55回日本医学放射線学会秋季臨床大会	2019.10 (名古屋)
75)	広藤喜章	被検者の被ばく管理と線量記録の重要性	第47回日本放射線技術学会秋季学術大会	2019.10 (名古屋)
76)	大岩幹直, 遠藤登喜子, 佐藤康幸, 森田孝子, 須田波子, 伊藤馨那, 伊藤果穂, 市原周	自動乳腺量測定ソフトは高濃度乳房のマスキングリスクを評価できるか-乳腺領域を基に評価する新システムを使用して-	第29回日本乳癌検診学会学術総会	2019.11 (福井)
77)	服部照香, 森田孝子, 佐橋恩, 伊藤果穂, 遠藤登喜子	画像評価に向けて超音波診断装置の基準画像選択の検討	第29回日本乳癌検診学会学術総会	2019.11 (福井)
78)	西川美紀子, 佐々実穂, 大畑麗子, 高野悠子, 田中恵理, 菊森豊根, 森田孝子	マンモグラフィ (MG) ・超音波 (US) 検診の同時併用方式にて発見された乳がん症例の検討	第29回日本乳癌検診学会学術総会	2019.11 (福井)
79)	森田孝子, 須田波子, 大岩幹直, 高橋優子, 小川弘俊, 林幸恵, 堀場隆雄, 吉川和明, 白岩美咲, 千代知成, 荒井毅久, 遠藤登喜子	トモシンセシスにおける2D合成画像の診断精度の検討	第29回日本乳癌検診学会学術総会	2019.11 (福井)
80)	隈浩司, 堀田勝平, 遠藤登喜子, 荒井郁美, 橋本憲幸	ヒストグラムビューアの活用	第29回日本乳癌検診学会学術総会	2019.11 (福井)
81)	笹田裕美, 松田恵里, 阪井和奈, 荒木悠里, 大橋美保子, 森田孝子, 広藤喜章, 大岩幹直, 横山恵太	マンモグラフィ拡大撮影における撮影条件の検討 ～ファントムによる初期実験～	第29回日本乳癌検診学会学術総会	2019.11 (福井)
82)	高橋優子, 森田孝子, 須田波子, 井戸田愛, 森田佐知, 加藤正仁, 小林尚美, 丹羽多恵, 鈴木るり子, 堀場隆雄, 結縁幸子, 門澤秀一, 遠藤登喜子	乳腺量自動計測ソフトウェアによる乳腺量の評価-読影医の目視による評価との比較	第29回日本乳癌検診学会学術総会	2019.11 (福井)
83)	丹羽多恵, 森田孝子, 須田波子, 堀田勝平, 遠藤登喜子, 加藤裕	乳房の構成の判定に関わる乳腺濃度と乳腺領域の評価	第29回日本乳癌検診学会学術総会	2019.11 (福井)
84)	清水馨那, 森田孝子, 遠藤登喜子, 須田波子, 大岩幹直, 佐橋恩, 安部果穂, 矢田啓	背景の良性病変により、良悪性診断が難しかった病変の検討	第73回国立病院総合医学会	2019.11 (名古屋)

【論文】

85)	川崎 朋範, 寺本 典弘, 星田 義彦, 伊東 正博, 村田 有也, 倉岡 和矢, 谷山 清己, 大岩 幹直, 堀部 敬三, 永井 宏和	乳腺における神経内分泌腫瘍	第73回国立病院総合医学会	2019. 11 (名古屋)
86)	広藤 喜章	医療現場における放射線技師の教育と課題	日本放射線影響学会第62回大会	2019. 11 (京都)
87)	広藤 喜章	専門家と学ぼう！放射線事故・災害時に自分でできる放射線防護－良い事vs. ダメな事－	平成31年度 日本放射線技術学会市民公開講座【科研費】	2019. 11 (出雲)
88)	Muramatsu C, Oiwa M, Kawasaki T, Morita T, Fujita H	Multimodality breast mass classification using CNN-based similarity estimation	International Workshop on Advanced Image Technology	2020. 01 (インドネシア)
89)	大岩幹直	総合判定初心者セミナー1. 総合判定の基礎知識とマンモグラフィ所見から病変部位を推定する方法	第29回日本乳癌画像研究会	2020. 02 (大阪)
90)	松田恵里、森田孝子、笹田裕美、阪井和奈、市川悠里、大橋美保子、石田梓、岩間晶子、須田波子、高橋優子、大岩幹直、遠藤登喜子	石灰化症例における拡大撮影の検討	第29回日本乳癌画像研究会	2020. 02 (大阪)
91)	森田孝子、須田波子、高橋優子、大岩幹直、遠藤登喜子	トモシンセシスの精査施設での運用及び読影法	第29回日本乳癌画像研究会	2020. 02 (大阪)